

事項五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件

三七七 七月二十三日

在中国小幡公使
内田外務大臣宛(ヨリ)

安徽派ノ曾毓雋徐樹錚ヲ極秘裡ニ我歩兵隊構

内二収容保護シタル件

第七三八号至急極秘

(七月二十四日接受)

安徽派首領株ノ身辺日ニ危険ヲ加ヘ殊ニ曾毓雋、徐樹錚ハ暗殺ヲ免レ難キ状勢トナリタル為右兩人ハ二十二日夜別々ニ當館ニ逃込ミ保護ヲ哀願シタル處類似ノ場合ニ於ケル先例ニ鑑ミ且從來我カ方トノ情誼ニモ顧ミ右保護ノ哀願ヲ容レザル訳ニモ參リ難ク然リトテ當館ハ人ノ出入モ繁ク不適当ニ付東少將トモ協議ノ末兩人共一旦當館ヨリ退去セシメタル上極メテ内密ニ改メテ歩兵隊構内へ収容セリ右ハ外部ニ対シテハ差当一切極秘ニ附シ居リ外国人通信員等ヨリ問合ニ接シタル節ハ彼等ノ所在ハ全然不明ナル旨答へ置ク考ナリ万一貴地新聞等ニ現ハレタル節ハ直チニ電報ヲ請フ

三七八 七月二十七日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

徐樹錚等ヲ他ニ亡命セシムル方可然モ右可能
ナルベキヤ回電方訓令ノ件

第四三二号 極秘

貴電第七三八号ニ閔シ咄嗟ノ場合貴官ノ執ラレタル措置ハ已ムヲ得サリン儀ト思考ス尤モ本人等隠匿ノ事実ハ結局早晩発覚スルモノト覺悟セザルベカラザルベク若シ發覚ノ上ハ引渡問題等種々面倒ナル事態ヲ惹起シ延テ我方ノ立場甚ダ困難トナルベキハ必定ニ付旁々適當ノ場所ニ亡命セシムル方可然ト認メラル處目下ノ場合果シテ実行シ得ベキヤ貴官ノ思附トシテ本人等トモ御内議ノ上結果電報アリタシ

三七九 七月二十八日

在中国小幡公使
内田外務大臣宛(電報)

我歩兵隊構内ニ収容ノ徐、曹ヲ他ニ亡命セシムルコトハ俄ニ實行シ難キ旨回電ノ件

第七六四号(極秘)

(七月二十九日接受)

貴電第四三二号御訓示ノ趣逐一御同感ニ有之只當時咄嗟ノ場合已ムヲ得ザリシ外又一方ニハ兎ニ角世間ヨリ日本ト密

接ノ関係アリト目サレツツアリシ安福領袖ニ対シ其没落ト

共ニ日本ハ最早少シモ之ヲ顧ミザルニ至レリトノ印象ヲ残

スコトハ今後日本ニ依リテ事ヲ為サントスルモノラシテ日本ノ頼ミ甲斐ナキヲ感ゼシムル惧アリ為ニ外國側等ノ思惑

ノミヲ苦慮シテ一概ニ此次ノ保護ヲ拒絶スルモ面白カラズ

ト思料シタルニ依ルコトモ御諒察ヲ仰ギ度ク而モ御来示ノ如ク適當ノ方法及機會ダニアラバ成ル可ク速ニ亡命セシム

ルコトハ最望マシク実ハ既ニ過日來其方法等ニ付種々考慮ヲ加ヘ居ル次第ナルモ何分ニモ外部トノ唯一ノ通路タル京奉線ハ僅カニ毎日一回ノ往復アルノミナル上ニ最人目ヲ引

キ易ク一面各城門ハ總テ閉鎖中ノ今日差当リ適當ノ方法ナク真ニ已ムヲ得ズシテ其儘ニ経過シ居ル有様ナルニ付何等

適當ノ方法手配ツキ次第御来示ノ趣旨ニ添フ様措置スルコト致シ度シ尤モ二十五日 Journal de Pekin ニ確ニ兩人ハ日本公使館ニ在リトノ記事アリタルモ一般ノ信ズル所トナラザリシモノノ如ク世間ニテハ未ダ真相ヲ感知シ居ラザ

ルコト確実ナリト認メラル猶兩人ニ対シテハ使用人ヲ召シ連レシメザルノミナラズ全然外部トノ交通ヲ遮断シアリ彼等モ亦之ヲ嚴守シ居レリ

在支公使ヘ転電セリ

註 章宗祥ハ段祺瑞内閣ノ司法總長、後駐日公使

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

三八一 七月二十九日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

五 日本公使館ニ於テ徐樹鋒等庇護一件 三八二

五一六

徐樹鋒等ノ公使館官舍内収容ハ不可ナル旨訓 示ノ件

第四三九号 極秘

貴電七六四号ニ関シ聞ク所ニ拠レバ公使館内ノ官舎ニ収容スル方可然トノ説モ有之趣ナルガ官舎ニテハ兵營ヨリハ一層外間ニ知レ渡ル危険多ク且ツ本件善後方ニ付テハ當方ニテモ考慮中ニテ其結果追而申進スヘキニ付兎ニ角差当リ官舎ニ移転セシムルガ如キコトナキ様措置セラルル方可然ト思考ス尚ホ兎ニ角往電四三二号ノ通り本人等トモ内議ヲ遂ケラルル様致シタシ

三八二 七月二十九日 在中国小幡公使（ヨリ）
内田外務大臣宛（電報）

安直紛争ニ關聯シ外交団會議ニ於テ各国公使 館ハ政治犯人ノ保護ヲ拒絶スベシトノ提案ア

リ我方ハ本件ハ慎重審議ヲ要スト主張ノ件

第七六六号

（七月二十九日接受）

今次安直両派ノ紛争及是ガ善後ノ措置ニ關聯シ英米側殊ニ米国ガ隱然直隸側ニ直接間接ノ支援ヲ与ヘテ日本ノ勢力ヲ

商会タル六国飯店ニ対シテ此ノ種犯人ヲ収容保護スベカラザル旨通達シタル事アルニ付今回モ右ノ趣旨ヲ体シ六国飯店ヲ初メ公使館区域内ノ他ノ英國居住者等ニ対シ同様措置スル考ナリト述べ首席公使ト葡國公使トノ間其ノ他ニ二三問答ノ交換アリタルガ本使ハ一面日本ガ兎角ニ今モ尚安福派トノ間ニ惡因縁ヲ結ビ事毎ニ彼等ヲ援助スルガ如キ惡名ヲ着セラルル事ノ不得策ナルヲ深ク感知シ斯ル問題ノ為徒ラニ英米仏側等ニ対抗シテ痛クモ無キ腹ヲ探ラルガ如キハ務メテ是ヲ避ケタント思量シ居ル次第ナルモ然モ他面徹頭徹尾外國側及世間ノ思惑ノミヲ顧慮シ専ラ英米等ノ赴ク處ニ追随シ終ルノ可否ニ付ハ大イニ熟慮ヲ要スルモノアルノミナラズ殊ニ兎ニ角外觀ヨリハ日本ト深キ關係アリト認メラレ居ル安福派ノ末世ニ当リ最早日本ハ是ヲ見放シテ何等見向モセザリシト云フガ如キ印象ヲ世上ニ残ス事ハ今後日本ニ依テ事ヲ為サントスルモノニ対シ甚ダシク日本ノ賴ミ甲斐無キヲ感ゼシムルノ虞アルベク且英米側ガ今後動モスレバ此ノ種ノ筆法ヲ以テ我方ノ頭ヲ押ヘントスルヤ計リ難キニ顧ミ本使ニ於テ此ノ際我方不羈独立ノ見解主張ヲ述ベ彼等ノ專横ヲ制シ置ク事モ實際上ニモ又日本ノ名譽上

ニモ必要ナリト思惟シタルニ付本使ハ先づ英國代理公使ニ向ヒ同官ハ是ヲ以テ外交団ノ決議トシテ実行セン事ヲ提議スル儀ナリヤト念ヲ押シタル処英米仏公使等最初ノ考ハ出来得ベクバ是ヲ外交団ノ決議トセントスルニアリタル事前後ノ口吻其他ニ依リ略推察ニ難カラザルニ拘ラズ同代理公使ハ自分ハ兎ニ角外交団ノ参考トシテ自分ノ取ラントスル措置ヲ表明スルニ過ギズト答ヘタルニ付本使ハ然ラバ即チ可ナルモ苟モ斯ノ如ク重要ナル主義上ノ問題ヲ外交団ノ決議トスルニ対シテハ本使ニ於テ全然自分一己ノ意見トシテ一言スル所無カルベカラズト述べタル上本問題ノ根本ハ國際法乃至國際慣例ニ関係アリ即チ是ガ實行ハ少クトモ過去ニ於ケル國際慣例ヲ動搖（affect）スルノ嫌アリ且苟モ一旦是ヲ実行スル以上将来及各地ニ亘リ少クトモ當公使館区域ニ限ラズ各專管居留地及共同居留地全体ニモ同一主義ノ確立貫徹ヲ期スルニアラザレバ不徹底不公平ナルヲ免レザルノミナラズ時ニ依リ處ニ依リ其ノ適用ヲ二様ニスルハ果シテ如何アルベキカ要スルニ斯ル重大ナル問題ヲ斯ノ如キ咄嗟ノ場合ニ於テ輕々ニ論決議決スルガ如キハ是ヲ慎ミ充分ニ審議熟慮ヲ尽ス事ト致シ度シトノ趣旨ヲ敷衍開陳シタ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三八三 三八四

ン外交團會議開催ヲ求メタル事情説明ノ件

(七月二十九日接受)

往電第七六六号ニ関シ

ル處英米仏公使ニ於テモ何等ノ意見ヲ述べタル事無ク他国公使ニモ何等発言スルモノ無ク結局前記英國代理公使ノ外米仏両公使モ公使館区域内ニアル各自国人ニ対シ政治犯人保護禁止ノ命令ヲ出ス事トスベキ旨ヲ述べ散会セリ

然ルニ本使帰館スルヤ葡國公使來訪シ密ニ(脱)評シ他ノ大國ノ專横振ヲ論難シ居タルガ右ノ外本使ハ會議ノ席上他ノ小國公使ノ態度ヲ注視シ居タルニ概シテ何レモ右ト同様ノ感触ヲ有シ本使ノ陳述ヲ内面快氣ニ迎ヘ居タル如ク觀取セラレタリ要スルニ本件ハ右ニテ一先ヅ段落ヲ告ゲタルモノト思ハルモ時局ノ伸展如何ニ依リテハ支那側ノ公式申出トシテ本問題再び外交團ノ議ニ上ル事無キヲ保シ難キヤニ認メラルモ今日迄ノ處ニテハ軍憲側ヨリ非公式ニ首席公使ニ対シ政治犯人ノ逮捕ニ対シ外交團ニ於テ好意的援助ヲ与ヘラルベキヤトノ問合アリ同公使ヨリ特ニ好意的援助ヲ予期スル事ヲ得ザルベキ旨不取敢答ヘ置キタル次第アルノミナル趣ナリ

三八三 七月二十九日 在中国小幡公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)
英國代理公使來訪政治犯人收容保護問題ニ關

其ノ後英國代理公使本使ヲ來訪シ實ハ過日來丁士源公使館区域内英國商館内ニ收容シアリ右ハ何分ニモ面白カラズト考ヘ首席公使ニモ相談シ恰モ米國公使ノ申出モアリ旁々兎モ角會議ヲ開カンコトヲ求メタル次第ニテ尚予メ米仏公使ト協議シ外交團ノ決議ト為サンコトヲ強制セントスルカ如キ意図毛頭無之カリシ次第ニテ誠ニ自分ニ於テハ日本ガ隣邦トシテ支那ノ安危ニ格別ノ利害ヲ感ジ居ラルコトハ疾^ク承知シ居リ決シテ他意アリシニ非ザルニ付其ノ辯誤解ナキ様致シタント陳弁シ今回同代理公使ヨリ同國民ニ対シ保護ノ旨報告スル通達書写ヲ本使ニ手交セリ

三八四 七月二十九日 在中国小幡公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)
在北京外國通信員ハ公使館方純然タル政治犯人ヲ庇護スルハ差支無シトノ意見ナル旨報告ノ件

第七六八号

(七月三十日接受)

往電第七六六号ニ關シ

七月二十九日朝常ノ如ク徳川ヲ來訪セル英米通信員等(路透ノ「ワーン」聯合通信ノ「ホイップエン」及京津タイムスノ「ジャイルス」)ハ何レモ前日ノ外交團會議ニ關聯シ他

ノ各公館ノ意思モ公使館区域内在住各自国人ノ支那人收容ヲ非トセルニ止マリ公使館ニ逃込ミタルモノハ純然タル政治犯人タル以上之ヲ拒ムコトヲ得ザルハ何處ノ公使館モ認メ居ル模様ニテ少クトモ自分達ハ此ノ点ニ付疑フ抱キ居ラズ(彼等ハ現ニ何レカノ公使館ニ在ルモノノ有無等ニハ一切触レズ又今回ノ所謂元兇等ガ純然タル政治犯人ニシテ

ノト解シ居ル如ク看取セラル御参考迄
尚往電第七六六号英米仏公使館区域内ノ自国人ニ發シタル指令ハ政治犯人ニ限ラズ支那人(男子)ヲ收容スルコトニ關スル議ナリ序ヲ以テ訂正ス又本使参考ノ為米國其他ガ他國ノ政治犯人ヲ其大公使館ニ收容シタル実例數件至急御取調ノ上大要電報アリタシ

三八五 七月二十九日 在中国小幡公使(ヨリ) 安徽派ノ領袖殆ド全部ガ我方ニ避難シ來レル

二付之二対スル態度方針ニ關シ請訓ノ件
(七月三十日接受)

第七六九号(至急)極秘
安福派元兇ノ处罚逮捕命令ハ愈々今明日中ニ公布セラルル有様トナリシ結果七月二十八日朱深、姚震、姚國楨及段芝ハ墨西哥其他ニテ米國公使館ガ進デ政治犯人ヲ匿ヒタル例ニ乏シカラズトテ支那ニ於テモ拒絶スルガ如キ新例ヲ開クコトヲ得ザルベキ旨ヲ述ベタル趣ナリ右様ノ次第ニテ少クトモ是等通信員等ハ今回ノ元兇ノ或者ガ果シテ純然タル犯人タルヤ否ヤハ別問題トシ苟モ純然タル政治犯人ト認メラル者ハ公使館ニ之ヲ收容スルコトアルモ已ムヲ得ザルモ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三八六 三八七

リシガ七月二十九日午前丁士源館員官舍ニ避難シ来リタルニ付目下我方ノ取ルベキ態度ニ付テハ政府ニ請訓中ナル旨申聞ケ差当リ其ノ儘トナシ置キタルガ右ハ勿論往電第七六

七号ノ結果ト察セラレ往電第七六六号續陳ノ如ク英米仏等ガ軍閥主義ヲ攻撃シ全然没落セル安徽系ヲ追窮スルノ結果直隸奉天ノ軍閥系ヲ援助スルノ矛盾ニ陥リツタルハ去ル事ナガラ既ニ十兇ノ殆ド全部ガ我方ニ避難シ来レル有様ニテ從テ敵正ナル不偏主義ニ稍々相背クノ結果トナルヤノ嫌

モ有之當方ニテハ種々他ニ避難ノ方法ヲ考慮シ居ルモ往電第七六四号ノ通右ハ差向キ殆ド不能ト申スノ外ナク本使トシテハ殆ド其措置ニ窮スル次第ナルニ付テハ右等避難者ニ

対スル最後ノ態度方針ハ如何心得可然ヤ政府ノ御決心ニ俟ツノ外ナシト存ズ至急何分ノ儀御電訓ヲ請フ

尚往電第七六八号御参照アリタシ

三八六 七月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大總統ガ安徽派領袖十名ノ逮捕ヲ密令セル旨

王懷慶ヨリ首席公使ニ内報アリタル件

第七七〇号(至急) (七月三十日接受)

三八七 七月三十日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

公使館区域ニ政治犯人隠匿問題論議ニ關シ小

幡公使ヨリ在上海總領事ニ通報ノ件

三八八 七月二二号 (七月三十日接受)
在支公使發本官宛電報第一三八号

外務大臣ヘ転電アリタシ

七月二十八日外交團會議ニ於テ米國公使ノ言ヒ出シニ依リ公使館区域ニ政治犯人隠匿ノ可否問題トナリシガ本官ハ本

問題ハ國際法乃至國際慣例ノ根本主義ニ触レ居リ即チ之ガ實行ハ少クトモ過去ニ於ケル慣例ヲ改廢スルノ嫌アリ且苟モ一度之ヲ實行スル以上将来及ビ各地ニ亘リ少クトモ各專管居留地共同居留地ニモ同一主義ノ確立ヲ期スルノ覺悟ナル可カラズ斯カル重大問題ヲ咄嗟ニ議決実行セントスル

ガ如キハ之ヲ慎ム方然ルベシトノ趣旨ヲ述べ結局英米仏各公使ハ公使館区域内ノ各自国人ニ政治犯人隠匿禁止命令ヲ發スベキ旨ヲ夫々披露シタルニ止マリ散会セリ貴官限リ御参考迄電報ス

大臣ニ詳電セリ

三八八 七月三十日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚等ノ亡命問題ニ関シ政府ノ監視厳重ナ

ル旨報告ノ件

第七七七号(極秘) (七月三十一日接受)

貴電第四三九号末段ニ関シ往電第七三八号ノ兩人ニ協議ヲ試ムル迄モナク往電第七七三号大總統令モ出デ捜索監視愈々嚴ヲ加ヘソツアル此際到底一步モ踏出シ難キ状況ニアリ

困却シ居ル次第ナリ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三八八 三八九 三九〇

五一〇

大總統ハ七月二十八日附ヲ以テ左ノ十名逮捕ノ密令ヲ発シタル旨王懷慶ヨリ内報ニ接セル趣首席公使ヨリ通報シ来レリ

徐樹錚、曹毓雋、李思浩、朱深、丁士源、段芝貴、梁鴻志、王郅隆、姚震、姚國楨

尚右首席公使通報ニハ王懷慶ヨリ右十名ノ搜索ニ付外交団ノ援助ヲ得タキ旨ノ希望ヲ申出テタルガ其ノ所在ニ付テハ何等言明スル所無カリシ趣附言シタリ

天津、上海、濟南、奉天、福州、廈門、南京、吉林ヘ転電セリ

三八九 八月一日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

公使館区域ニ政治犯人隠匿ノ可否問題トナリシガ本官ハ本

幡公使ヨリ在上海總領事ニ通報ノ件

三九〇 八月二日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

右ハ其後ノ往電ニテ御了得ノ儀トハ存ズルモ為念

尚彼等ヲ公使館内官舍ニ収容云々ハ何処ヨリ御聞キ込ミ相成タルヤ存ゼザルモ當館ニテハ左様ノコト考ヘタルコトモ無之是亦為念

三九一 八月二日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

章宗祥秦皇島ヨリ朝鮮ニ向ケ出發セル件

第二三五号 (八月二日接受)

往電第二二四号ニ關シ

実相寺ヨリノ來信ニ依レバ其後章宗祥ハ差当リ危険無キヤニ認メラレタルモ目下北戴河滯在中ノ朱啓鈞等ハ支那ノ現状ニ顧ミ一日モ早ク安全ノ地域ニ引揚グル方得策ナリトノ切ナル勸告モ之アリ本人モ之ヲ希望スル模様ナリシヲ以テ

旁々七月三十日秦皇島出帆朝鮮兼ニ浦行松昌洋行汽船ニ便乗実相寺同道出發シタル由尚時宜ニ依リ大連經由一応天津ニ帰ルヤモ計リ難シトノコトナリ

在支公使ヘ郵送セリ

三九一 八月二日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

五一二

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三九一 三九二

安徽派ノ王郅隆東少将ノ許へ逃込ミタル件

第七八六号（極秘）

（八月三日接受）

王郅隆八月二日朝東少将ノ許へ逃込ミ來リ已ムヲ得ス之ヲ
收容セリ

三九一 八月二日 在天津南駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

亡命安福派領袖ノ保護狀況並我方ノ態度ニ誤

ナキ旨報告ノ件

大臣同文 （八月三日外務省接受）

電報 八月三日午前〇時七分著

參謀總長宛

天電第一九三号（極秘）

一、安福派首領連ハ米、仏ノ各国人ヨリ追ヒ拵ハレタル結果
左ノ如ク逃げ込ミ來レリ

姚震、姚國楨、朱深ハ東少將ノ許ニ、丁士源ハ山内書記
官ノ許ニ、段芝貴梁鴻志ハ小營軍医正ノ許へ王祝三ハ小
官ノ許ニ

二、公使館区域ノ各出口ニハ段派首領ノ写真ヲ掲ケ一、三十名ヅツノ武装兵ヲシテ出入者及ヒ車馬ヲ止メテ検査セ

天津軍司令官

三九二 八月三日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

我方ハ公使館ノ庇護権ニ基キ亡命者ヲ政派ノ
別無ク庇護スル旨ヲ公表スル様訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣發在中国小幡公使宛電報
第四四六号 極秘至急

公使館ノ亡命政客庇護ノ先例ニ関スル件

徐樹錚以下安福派領袖ノ庇護ニ關シ反対派ニ於テハ之ヲ利

用シテ種々排日的宣伝又ハ抗議ヲ為スコトアルベキモ之ガ
為這回ノ動亂ニ基ク帝國ノ對支關係ニ此ノ上余リニ多大ナ
ル影響ヲ及ボスモノトモ認メ難キノミナラズ世間ヨリ日本
ト密接關係アリト目サレン段派没落ノ際其ノ保護ヲ求メ来
リタルニ對シ之ヲ拒絶スルニ於テハ今後却テ日本ノ支那政
客ニ對スル權威ヲ失シ且最近ノ公使團會議ニモ徵シ支那人
ヲシテ日本ハ英米側ノ圧迫ニ屈シテ政治犯人ノ庇護ヲモ為
シ得ザリシトノ印象ヲ抱カシメ我對支關係上今後不面目ノ
結果ヲ來スベキニ付此際彼等亡命者ハ一律（李思浩梁鴻志
ヲ含ム）之ヲ庇護スルコトニ方針決定セリ尤モ何時迄之ヲ
秘シ置クモ終ニ外間ニ洩ルルハ必然ニシテ又目下ノ事態到
底彼等ヲ他ニ避難セシムルコトモ不可能ナルベキニ付寧ロ
公使館ノ庇護権ニ基キ公然彼等ヲ保護收容スルコトト致シ
タシ公使館ノ庇護権ニ關シテハ別電第四四七号ノ通り多數
先例モ有之次第ニ付少クトモ之ヲ國際慣例トシテ主張セラ
レ殊ニ政派ノ別ナク亡命者ヲ右庇護権ニ基キ保護收容スル

モノナルコトヲ明ニシ適宜支那側其ノ他ノ抗議要求ニ対シ
弁駁セラレタク尙ホ先年黎元洪庇護ノ際ノ例ニ準シ『徐
カ突如日本公使館内ニ來リ一身ノ保護ヲ請ヒタルニ付日本

シメツツアリ

三、亡命者ニ對シテハ公使始メ各員優待ノ配慮ヲナシツツ
アリ且ツ目下支那及歐米人ノ人氣ハ日本ニ對シ甚タ不良

ナルニ関セズ小幡公使ハ毅然トシテ正義ヲ嚴守シツツア
リ思フニ此際從來ノ態度ヲ維持シ且ツ日本人ヲシテ武士
道ヲ重ンズル精神ヲ發揮セシムルコトハ最モ必要ニシテ

一時英米人ヨリ批難ヲ受ケ排日ノロ実ヲ与フルコトアリ
モ正義ハ時日ノ経過ト共ニ日本人ノ依頼スペキモノナル

コトヲ諒解セシムル時機アルベシ依ツテ兵營ニデモ逃げ
込ミ來レル者ハ收容力ノ許ス限り秘密ニ保護ヲ与フル考
ナリ

nest Satow 第一卷二百九十頁以下及 Moore's International-

al Law Digest 第二卷第二百九十四節以下ニ掲ケアルニ付

之ニ就キ御承知相成度ク尚大正二年十月墨西哥ニ於テハ前

大統領「ディアス」歐洲ヨリ帰国シ「ヴュラクルス」ニ滯

在シ居タルカ迫害甚シキ為米國領事館ヲ經テ米國軍艦ニ遁

レタル例アリ又 Bonfils ハ其ノ著書ニ franchise des quar-

tiets ハ東洋殊ニ支那ニ於テハ尚存スル旨ヲ述ヘ居リ現

ニ曩ニ貴地ニ於テ康有為米國公使館ニ、黎元洪日本公使館

ニ又張勲和蘭公使館ニ避難シ庇護ヲ受ケタル如キハ其ノ顯

著ナル例ニシテ支那ニ於テ公使館ニ right of asylum ノ

在ルハ既ニ establish セラレ居リ同國ノ国情渾沌タル今日

之ヲ改メテ公使館ニ避難シ庇護ヲ受ケタル如キハ其ノ顯

著ナル例ニシテ支那ニ於テ公使館ニ right of asylum ノ

生命ノ安全ヲ確保スル目的ヲ以テ國際ノ通義ニ從ヒ以上ノ

権利ヲ行使スルハ寧ロ當然ナリトス

註 本電原書欄外ニ原首相及田中陸相ノ花押アリ

三九三 八月三日

内田外務大臣ヨリ
(電報)
在米國幣原大使及在仏國松井大使宛

安徽派領袖ノ我方へ逃避ノ経緯、北京外交團

甚タ謂ハレ無シトルノ「プロペガンダ」ヲ行ヒ殊ニ外字

新聞ノ論議ハ英米側殊ニ米國カ此際日本ノ勢力ヲ打破シ陰

然直隸派ニ好意的態度ヲ表シテ安徽派ノ行動ニ掣肘ヲ加ヘ

ムトスル底意アルカ如キ態度ニ出テ本件ニ関シ世論益々高

潮ニ達シタルカ七月二十八日英米両國公使ノ請求ニ依リ外

交団會議開催セラレ席上英國代理公使ハ前例ニ依リ公使館

区域内居住英國人ニ対シ前記ノ如キ政治犯人ヲ收容保護ス

ヘカラサル旨ヲ示達スル所存ナル旨ヲ声明シタルガ小幡公

使ニ於テハ兎ニ角外觀ヨリ我方ト密接ナル關係アリト目セ

ラレタル安徽派ノ末路ニ当リ我方ニ於テ寸毫モ之ヲ顧ミサ

リシトノ印象ヲ世上ニ残スハ今後日本ニ依テ事ヲ為サムト

スル者ニ対シ甚敷日本ノ賴甲斐無キヲ感セシムルノ虞アル

ノミナラス英米側ニ於テ今後動モスレハ此種ノ筆鋒ヲ以テ

我方ヲ抑圧セムトスルカ如キ挙措ニ出ツルヤモ難計ニ顧ミ

此際我方不羈独立ノ見解主張ヲ述ヘ置クコト實際上且ツ我

方ノ名譽上ニモ必要ト認メタルヲ以テ先ツ如斯重要ナル主

義上ノ問題ヲ外交團ノ決議ト為スノ穩カナラサルヲ前提トシタル上元來本問題ノ根本ハ國際法乃至國際慣例ニ關係アリ即チ之カ實行ハ少クトモ過去ニ於ケル國際慣例ヲ動搖ス

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三九三

会議ノ狀況公使館庇護權ニ基ク我方ノ方針決

定等通報ノ件

合第一七三号 極秘

迭次ノ往電ニテ御承知ノ通り支那ニ於ケル安徽直隸兩派ノ

争鬭ハ竟ニ安徽派ノ殘敗ニ帰シ直隸派ニ於テハ勢ニ乘シテ

反対派ノ勢力ヲ根底ヨリ剿滅セムトシ安徽派領袖ノ身辺日

ニ危險ニ迫リ殊ニ徐樹錚及交通總長曾毓雋ハ直隸派ノ最モ

指弾セル人物ニシテ何時暗殺ヲモ免カレ難キ情勢トナリタ

ル為メ七月二十二日兩人相前後シテ日本公使館ニ竄入シ身

命ノ保護ヲ哀願シタルニ付咄嗟ノ場合且ツハ類似ノ場合ニ

於ケル先例ニモ鑑ミ帝国公使ニ於テ本人等ノ哀願ヲ容レ我

駐屯隊構内ニ収容シタルカ右ハ素ヨリ應急不得已ノ措置ニ

シテ姑ク絶対秘密ニ附シタル上追テ更ニ適當ノ地域ニ亡命

セシムル方針ニテ當時小幡公使ニ對シ其ノ旨訓令スル所ア

リタリ然ルニ直隸派ニ於テハ安徽派領袖ノ多クカ國家及民

衆ニ対スル罪悪多ク普通犯罪ヲ以テ問フヘキモノモアリ旁

々彼等ニシテ外交團ノ庇護ヲ求ムルモ各國公使ニ於テ之ヲ

許容セサラムコトヲ外交團ニ知照シ来レル外從來外國公使

館カ政治犯人ヲ隱匿シテ之カ引渡ヲ肯セサリシ事例ヲ以テ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三九四 三九五

五六

在米大陸各公使及貴官ニ於テ必要ト認メラルル在米各領事ヘ転電方可然取計ハレタシ)

(在仏大使ヘ

在歐各大公使及貴官ニ於テ必要ト認メラルル在歐各領事ヘ転電方可然取計ハレタシ)

別電ヲ省略ス右ハ前掲八月三日内田外務大臣發在中国小幡公使宛第四四六号ナリ

三九四 八月四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

安福俱樂部解散ノ大總統令發布セラレタル件

(八月四日接受)

京師衛戍總司令步軍統領京師警察長ヲシテ政党ノ性質アル安福俱樂部ノ解散ヲ實行セシメ既ニ逮捕命令以外ノ党員ハ確ニ附乱ノ証拠アル者ノ外ハ追窮ヲ免ズ可ク其地方ニ於ケル支部ハ各該地方官ヲシテ一律ニ解散セシムル旨ノ八月三日附大總統令發布セラル

三九五 八月四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我方ノ政治犯収容公表ハ人心平靜後機ヲ見テ

ル様機微ノ考慮ヲ運ラシタル上之ヲ實行スル方可然其ノ時

期ハ何卒本使ノ裁量ニ御一任相成様致シ度シ折返シ何分ノ御電示ヲ請フ

三九六 八月六日 在中国小幡公使宛(電報)

我方ノ政治犯収容公表ノ時期ニ付指令ノ件

第四五一號 極秘至急

貴電第七九一号ニ閔シ現場ノ情況ニ基ク貴官御意見ノ次第ハ尤モ思考スルモ実ハ本件ハ何時発覚スルヤモ難計ク發覺シタル後ニ至リ發表スルコトハ頗ル我立場ヲ悪化スルノ虞アルガ為メ寧ロ右ニ先チ我方ヨリ進デ國際通義ニ基キ我

嚴正ナル態度ヲ宣明スル方得策ナリト認メタルニ由ル次第ニ付御如才モナキコトトハ信ズルモ機宜ヲ憲ラザル様可然御措置アリタシ尚ホ公文表及ビ公表日取ハ予メ當方ノ外在

支各領事ヘモ転電アリタシ為念

三九七 八月七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我方ノ政治犯庇護ノ態度ニ關スル東京發共同

通信電報二付問合ノ件

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三九六 三九七 三九八

行ヒ度且公表時期ハ一任サレ度旨稟請ノ件

第七九一号(至急極秘) (八月五日接受)

貴電第四四六号ニ依リ政府ノ御方針拝悉本件ハ御來示ノ通

リ終ニハ世間ニ洩ルベキコト必然ナルヲ以テ結局ハ之ヲ公然ノコトトスルノ外無カルベク此ノ点ニ付テハ本使ニ於テモ至極御同感ニ存ズル処目下彼等ノ所在ニ付テハ新聞紙上種々ノ揣摩ノ記事アル上ニ日本公使館ヲ云々セルモノ無キニアラズ又上海新聞ニ北京通信トシテ掲載セラレタルモノアルコト山崎來電ノ通ナルモ未ダ適確ニ其ノ所在ヲ突キ止メ居ルモノハ之無キモノノ如ク往電第七六六号外交團會議ニ於ケル本使所説ノ如キモ明ニ彼等隱匿ノ帝國ノ前触レ若クハ弁解ト目シ得ベキニ拘ラズ一般ニハ其ノ意味ニテ特ニ我ヲ攻撃シタル議論ヲモ聞カズ且ツ日々當館ニ出入スル數名ノ外國人通信員等ノ如キハ彼等ノ在否ニ付質問セザルハ勿論何等探リラシキコトモ云ヒタルモノ無ク而モ一般民衆ハ彼等ノ所在ニ付鮮カラズ好奇ノ目ヲ見張リ居ル次第ニ付旁々以テ此ノ際直ニ彼等ノ所在ヲ公表スルハ自然ニ人心ヲ本件ニ集中セシメ我ニ不利ナル論議ヲ招クノ虞無キニアラズ旁々人心ノ今少シク平靜ニ赴クヲ待チ周囲ノ実況ニ応ズ

第八一四号(至急) (八月七日接受)

八月七日当地共同通信ハ同日東京發トシテ(支那政府ハ政治犯人ノ公使館内遁入ニ付小幡公使ニ抗議セルモ日本ハ國際法ノ通義ニ依リ強硬ノ態度ヲ執ルベシト云フ)トノ電報ヲ配布シタル處時事新聞社へハ配布シ居ラザル趣ニ付其配布并ニ當地并ニ天津日本新聞社ニ對シテハ之ガ掲載ヲ差止め置ケルガ貴地共同通信社ニテ果シテ斯ル電報ヲ發シタルヤ御取調相成尚同通信ニ対シ嚴重御注意相成度シ

三九八 八月八日 在天津南駐屯軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

我方ニ亡命ノ政治犯ヲ一箇所ニ取纏ムルコト

張作霖ハ近日帰奉スルコト等報告ノ件

大臣同文 (八月十日外務省接受)

天電第二〇〇号 極秘

一、北京ニテ小幡公使ト交渉ノ結果現在三個所ニ分離シアル亡命者ヲ一纏メトシ之ヲ北京兵營内將校宿舍ノ階上ニ取容シ全然他トノ交通ヲ絶ツ如ク準備スルニ決セリ

二、外務省ノ訓令ハ公使ニ対シ亡命者保護ノ件ヲ声明スルコトヲ要求シアルモ目下時機惡シキヲ以テ当分極秘ニ附

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 三九九 四〇〇

スルコトニ公使ヨリ外務大臣ニ上申セリ今日迄ノ処ニテハ秘密ハ十分保持サレアリ

三、張作霖ハ大体ヲ處理シ近日帰奉スヘク其軍隊モ一部ヲ北京ニ止メ他ヲ還送スル筈

三九九 八月九日 在中国小幡公使（ヨリ） 内田外務大臣宛（電報）

梁鴻志公使館武官室ニ逃込ミ之ヲ收容ノ件

第八一八号（極秘）

（八月十日接受）

往電第七八六号梁鴻志、当館武官室へ逃込ミ来リ是亦已ムヲ得ズ是ヲ收容セリ同人及其他兵當以外ニ收容シアルモノハ準備出来次第一律兵營へ收容スルコトニ南、東両少將トモ協議ズミ（九日）

四〇〇 八月九日 在中国小幡公使（ヨリ） 内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚等九名日本公使館ニ保護ニ付中国側及

在北京各國公使ニ正式通告ニ閣スル件

別電 同日在中国小幡公使發内田外務大臣宛第八二一〇号

右ニ閔シ東方通信ニ交付スペキ公表案文

（八月九日接受）

第八一九号至急（極秘）

公表案文左ノ通

小幡公使ハ八月九日附ヲ以テ左ノ通外交總長代理ニ通告シ且其ノ次第ヲ外交團首席公使へ通報セリ

徐樹錚、曾毓雋、段芝貴、丁士源、朱深、王郅隆、梁鴻志、姚震、姚國楨九氏ハ各自当公使館内ニ来リ一身ノ保護ヲ求メタル處當公使館ハ國際上ノ通義殊ニ支那ニ於ケル幾多ノ事例ニ顧ミ事情已ムヲ得ザルモノト認メ是等諸氏ニ対シ相当保護ヲ加フルコトニ決定シ公使館護衛隊營内ニ收容セリ尚是等諸氏ニ対シテハ右收容所ニ於テ一切政治ニ干与スヘカラザルコトヲ厳重ニ戒告シ且全然外部トノ交通ヲ絶タシメアリ本使ハ以上ノ次第ヲ貴總長代理ニ通告スルニ當リ貴國政府ニ於テ右當公使館ノ措置ハ全ク政治上ノ趣旨ヲ超越シ居リ即チ現ニ是等諸氏ノ受ケツツアル保護ハ其ノ附屬政派ノ如何ニ基ク特別ノ待遇ニアラザルコト恰モ同氏等カ他ノ政派ニ属スル故ヲ以テ公使館トシテ之カ收容ヲ拒ム能ハザルト一般ナルコトヲ十分諒得セラルベキヲ信ズ

四〇一 八月十日 在中国小幡公使（ヨリ） 内田外務大臣宛（電報）

直隸派ノ曹錕青木中将ニ對シ徐樹錚等引渡方

五二八

貴電第四五一號拜承然ルニ確聞ニ拠レハ支那側ヨリ首席公使ニ對シ公使館区域内ニ在ル禍首ニ對スル処置ニ関シ何等カノ照会ヲ發シ首席公使ハ仏國側ノ関スル限り彼等隱匿ノ事実ナキ旨ヲ附記シテ之ヲ回章ニ附スルコトシタル趣ニテ右回章ハ何レ一兩日中ニ本使ニモ廻リ來ルコトト存ゼラルニ付事態最早猶予ヲ許サザルモノト認メ八月十日朝九日附ヲ以テ外交總長代理宛ニテ本件ヲ通告シ次テ其ノ次第ヲ首席公使ニ通報シテ同僚へ回覧方ヲ求メ十日午後別電甲号及乙号ノ通夫々東方通信及路透ニ交付公表セシムル考ナリ從テ新聞ニ掲載セラルハ十一日朝トナラン在支各領事及香港へ本件要領竝公表日本文電報セリ右本件要領ノ分ハ御参考迄上海ヨリ閣下へ転電セシム

註 別電乙号即チ小幡公使發内田大臣宛第八二一號ヲ省略ス右ハ路透ニ交付スペキ公表案文（英文）ナリ

（別電）

八月九日在中國小幡公使發内田外務大臣宛電報第八二一〇号
徐樹錚等九名日本公使館ニ保護ニ關シ東方通信ニ交付スペキ公表案文

第八二二〇号至急

別電甲（極秘）

ヲ希望シタル件

第八二九号

（八月十日接受）

八月十日曹錕ニ面会シタル青木中將ノ來報ニ依レバ曹ハ同中將ニ對シ日本公使館ニ保護中ノ禍首引渡方ニ付最モ熱心ニ切言スル所アリ日本政府ニ於テ飽ク迄之ガ引渡方ヲ肯ゼザルニ於テハ支那ヨリ相當ノ地位ニアリ又日本ヲ善ク了解セル者ヲ特使トンテ派遣シ引渡方ニ付日本政府ニ懇願セシメンカトモ考ヘ居ルコトヲ述べ彼等ノ罪跡ニ付テハ普通犯モ之アルニ付目下檢事局及法律家ノ手ニテ詳細調査中ニテ徐樹錚ニ對シテ陸建章ノ子ヨリ殺人犯トシテ告訴セントシツツアル旨附言シタリト云フ

次ニ青木中將ガ吳佩孚主張ノ國民大會ニ關シ其ノ意見ヲ尋ネタルニ對シ曹錕ハ決シテ吳ヲシテ右様ノコトヲナシメザル考ナリ御安心アリタク吳モ既ニ國民大會開会不可能ノコトヲ了解シアリト答ヘタル由ナリ

四〇二 八月十日 在北京坂西少將（ヨリ） 上原參謀總長宛（電報）

青木中將ニ對シ公使館亡命者ノ引渡ヲ希望セ

ル曹錕ノ内話報告ノ件

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇三

坂電第七四号 青木転電 (八月十三日外務省写接受)

本十日曹鋐ト会見ノ際ハ盛ニ日支親善ノ希望ヲ繰リ返シタル後日本カ此地公使館ニ収容シアリト聞コユル凡テノ犯罪者ヲ支那側ニ引キ渡サバ日本ニ対スル一般支那人ノ宣伝ハ凡テ一掃シ尚日支ノ関係ハ直ニ改善サルルニ至ルヘシ何等カ良法ナキヤトテ暗ニ其ノ引渡シニ斡旋セヨト仄メカセルニ依リ青木ハ之ニ対シ我公使館ニ果シテ犯罪者ヲ収容サレアルヤ否ヤヲ知ラズ果シテ之レアリトスルモ全ク國際公法ノ關係上已ムヲ得ズ為シタルモノニシテ單ニ貴國ト交際にノ利害關係ヨリ論ズレバ之ヲ貴國ニ引キ渡スノ有利ナルハ

当然ナレトモ是ヨリ更ニ大ナル我国ノ國際上ノ威信ハ之レカ為メニ失墜スルニ至ルヘシ要スルニ此問題ハ青木等個人ノ担当スヘキ事ニ非ズトハネツケタルニ曹鋐ハ曰ク支那側ハ之ガ為メ刑事訴訟ヲ起シ外交部ヲ經テ交渉セシメントシ目下検事長ニ於テ調査中ナリ彼等ハ國事犯ト称スヘキモ現ニ数多公金ヲ消費セル犯人ニ当ル徐樹錚ノ如キハ特ニ陸建章ヲ斃セル殺人犯ニシテ今ヤ其子ヨリ殺人罪トシテ告訴中ナリ若ン此等ノ方法ニ拠ルモ引渡ノ目的ヲ達シ得ザル時ハ遂ニハ特使ヲ派シ直接日本政府ト交渉セントスル案モアリ

関係電報

往電第八一九号

件名

徐樹錚外八名公使館兵營ニ収容ノ儀支那政府

及外交團ヘ通告ノ件

本件ニ關シ左記書類及送付候也

甲号 八月九日附外交總長宛公文写

乙号 同日附首席公使宛公文写

註 乙号(英文)ヲ省略ス

(附属書)

甲号

以書翰致啓上候陳者徐樹錚、曾毓雋、段芝貴、丁士源、

朱深、王郅隆、梁鴻志、姚震、及姚國楨九氏ハ各自當公

館内ニ來リ一身ノ保護ヲ求メタル処當公使館ハ國際ノ通義

殊ニ支那ニ於ケル幾多ノ事例ニ顧ミ事情已ムヲ得サルモノ

ト認メ此等諸氏ニ対シ相當保護ヲ加フルコトニ決定シ公使

館護衛隊營内ニ收容致候尚此等諸氏ニ対シテハ右收容所ニ

於テ一切政治ニ干与スヘカラサルコトヲ嚴重戒告シ全然外

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇四

五三一

又最後ノ方法トシテハ國際法裁判所ニ訴ヘントスルノ意見

モアリ兎ニ角此ノ事ハ今後ノ注意問題トナリ支那人ノ我が

ニ対スル惑惑ヲ益々増大セシムルニ至ルヘシト今回ノ事變

ノ善後処分ノ審議ヲ國民大会ニ依テ決セントスル吳佩孚ノ

提議ハ過激派政客等ノ思想ニ依ルモノニシテ支那ヲ此ノ上

ニ大ナル混亂ニ陥ルモノナリ依テ之ヲ採用セザルコトニ

決セリト曹鋐ハ語レリ

(小幡公使ニ通報済)

四〇三 八月十日 在中国小幡公使(ヨリ)

徐樹錚外八名日本公使館兵營ニ収容ノ旨中國

政府及北京外交團ニ通告ノ關係文書送附ノ件

附屬書 八月九日附在中国小幡公使ヨリ陳外交總長代理

機密第三一六号 宛通告公文写

大正九年八月十日

在支那

外務大臣子爵 内田康哉殿

特命全權公使 小幡酉吉(印)

(八月十七日接受)

大正九年八月九日

日本帝國特命全權公使 小幡酉吉

支那共和国外交總長代理 陳鑑殿

部トノ交通ヲ絶タシメ有之候

本使ハ以上ノ次第ヲ貴總長代理ニ通告スルニ當リ貴國政府ニ於テ右當公使館ノ措置ハ全ク政治上ノ趣旨ヲ超越シ居リ即チ現ニ此等諸氏ノ受ケツツアル保護ハ其所属政派ノ如何ニ基ク特別ノ待遇ニ非ザルコト恰モ同氏等カ他ノ政派ニ属スルノ故ヲ以テ公使館トシテ之カ収容ヲ拒ム能ハザルト一般ナルコトヲ充分御諒得可相成ヲ信シ候

此段帝國政府ノ訓令ヲ奉シ照會得貴意候 敬具

日本帝國特命全權公使 小幡酉吉

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇五 四〇六

イナ、スター」ハ社説欄ニ於テ愈々彼等ガ從來密接ナル關係アリシコトヲ證明スルモノニテ日本ハ内外新聞攻撃ノ焦点トナルベキモ日本今回ノ措置ハ極メテ「フランク」ニテ

両国ノ誤解ヲ解ク上ニ一步ヲ進メタルモノト云フベシ支那トシテハ彼等ノ引渡ヲ要求シ得ル方法アラムモ或ハ各方面ニ複雜ナル干係ヲ惹起スル恐モアルニ付本件ヲ更ニ國際問題トシテ争フコトハ支那政府ノ為ニ取ラザル所ナリ云々ト

米国系新聞トシテハ比較的公平ナル議論ヲ發表シ居レルニ付右社説全文ハ本電ト共ニ大臣ヘ電報シ置ケリ
P. T. Times ハ外交總長宛公文ヲ發表シタル外未ダ何等ノ論評ヲ加ヘズ多分 Woodhead 避暑不在ノ為ナルベシ

四〇五 八月十一日 在上海山崎總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

日本公使館ノ徐樹錚等保護ニ閔スル對中國政

本官發在支公使宛第一九〇号

府通告ニ閔スル上海ノ新聞論調報告ノ件

八月九日発号外ニ閔シ八月十一日發行ノ當地各新聞ニハ通

第二五一号 (八月十二日接受)

往電第二四九号ニ閔シ

八月十一日發行「ノース、チャイナ、デーリー、メール」

「夕刊」ハ盛宣懷、康有為、張勲等ノ實例ヲ引用シ支那ノ

政治犯ガ從來外國ノ保護ニ依リ難ヲ免レタル幾多ノ前例アルコトヲ指摘シタル後彼等ガ日本公使館ニ避難シタル結果

当分政治的運動ヲ全然禁止サルルコトナリタルヲ以テ彼等ノ一部分ガ外國租界等ニ逃げ込ミ陰謀ヲ廻ラスノ機會ヲ与フルヨリモ支那ニ取リテハ却テ好都合ナルベシ要スルニ小幡公使今回ノ措置ハ極メテ賢明ナルモ反安福派ノ連中ハ當分猛烈ナル非難攻撃ヲ逞フスルナラン云々ト述べP. T.

Times ハ社説欄ニ於テ今十二日モ尚沈默シ居ルガ北京通信欄ニ於テ日本公使館ハ小幡「ホテル」ナリトカ日本公使ガ英米仏ノ同僚ト一致ノ行動ヲ執ラザリシハ今日アルガ為ナリトカ日本ガ彼等刑事犯ヲ庇護スルハ彼等ト種々不正ナル契約アルガ為ナリトカ安福派ノ連中ガ逃げ込マザリシヤト問ヒタル際日本公使館ハ極力之ヲ否認シタルニ今ハ即チ

此ノ如シ是レ即チ日本流ナリトカ最後ニ日本公使館ハ寧ロ criminals refuge ト称スル方宜シカラナンダ例ノ Giles 一
在支公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇七

告全文ヲ訳載シタルガ右ニ閔シ漢字新聞中論評ヲ掲ゲタルモノ左ノ通り

(一)新聞報。日本公使ハ國際慣例ヲ口実トナシ居ルモ國際慣例ハ國事犯ニ對シテノミ云フ可キモノニシテ一切ノ犯人ニ對シテ引用スベキニアラズ即チ徐樹錚等ノ行為ハ國事犯ヲ以テ律スベキニ非ズ日本公使ノ態度ハ各國ノ好意ニ背キ國際慣例ヲ蔑ニスルモノナリ

(二)中華新聞報。安福派ノ首魁等ハ國際上ニ所謂政事犯ト同一ニ論ズ可カラズ彼等ハ公金ヲ瞞着シ居ルナド私罪アルヲ以テ我檢察厅ハ彼等ヲ起訴シ當然引渡ヲ要求スベシ日本ハ果シテ永久ニ彼等ヲ兵營ノ賓客トナシ得ルヤ

(三)神州日報。徐樹錚等ニシテ苟モ刑事犯タルノ確証アラバ國際上ノ政事犯トシテ保護スベキニアラズ日本公使モ外交上ノ名譽ヲ尊重スル上ニ於テ必ズ我要求ヲ拒絕セザルベシ云々 外務大臣ヘ電報セリ

四〇六 八月十二日 在天津船津總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

日本公使館ノ徐樹錚等保護ニ閔スル北支デー
リ、メール紙及京津タイムス論評報告ノ件

第二五三号 (八月十二日接受)

本官發在支公使宛第一九〇号

府通告ニ閔スル上海ノ新聞論調報告ノ件

八月九日発号外ニ閔シ八月十一日發行ノ當地各新聞ニハ通

第二五五号 (八月十四日接受)

流ノ殆ド取ルニ足ラザル惡罵ヲ列ベ居レリ新聞切抜郵送

ス在支公使ヘ転電セリ

四〇七 八月十三日 在天津船津總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

益世報及漢文京津タイムスガ日本公使館ノ安

徽派領袖保護ヲ非難スル論評掲載ノ件

第二五六号 (八月十四日接受)

安福派首領保護ニ閔スル小幡公使ノ声明ニ對シ八月十三日

当地益世報ハ斯ノ如キ内乱罪ヲ犯セルモノニ特別ノ保護ヲ与フルハ明カニ支那ノ主權ヲ犯シ内政ニ干渉スルモノナレ

バ支那人民ハ宜シク一致シテ抗議ヲ提出シ引渡要求ノ目的ヲ達セザレバ止ムベカラズト論ジ又同日ノ漢文京津「タイ

ムス」ハ該聲明ヲ以テ牽強附会ノ言辞ヲ弄セルモノトシ今ニシテ之ト争ハズンバ今後之ガ前例トナリテ失敗スレバ公使館ニ逃げ込ムコトヲ得ルガ故ニ内乱止ムトキナク其隙ニ乗ジテ日本ガ漁夫ノ利ヲ占ムルノ恐アリト何レモ激烈ナル論評ヲ示セリ委細郵報 十三日

在支公使ヘ転電セリ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇七

四〇八 八月十三日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

公使館区域内ニ在ル安徽派領袖ニ関シ外交部

ヨリ外交団宛照会ニ付報告ノ件

(八月十四日接受)

往電第八一九号冒頭支那側ヨリ首席公使宛照会ノ回章ハ未
ダ當館ニ廻り来ラザルニ付八月十三日徳川別用ニテ仏國公
使館一等書記官ニ面会ノ序ニ同館ニ於テ受取リ来レル右回

章ノ写ニ依レバ該照会ハ八月七日附ニテ外交部ヨリ元兎逮
捕ニ関スル大總統令ヲ通知シ警察總監殷鴻寿ヨリ彼等ノ多
數ハ公使館区域内ニアル趣ナリトテ彼等ノ罪跡ヲ述べ之ガ
釈放方ニ付外交團ヘ交渉方ヲ外交部ニ依頼シ來リタルニ付
右ノ次第各同僚へ移牒アリタキ旨要求シ來レルモノニテ首
席公使ハ右回章ニ右外交部ノ照会ニ對シテハ單ニ各公使ニ
於テ必要ニ応ジ回答スル様各同僚へ申送リ置キタル旨回答
スルコトトシタキ旨ノ(不明)ヲ附記シ居レリ然レドモ前
記ノ次第ニテ該回章未ダ廻覽ヲ終ラザルニ付右外交部宛回
答未ダ発送サレズニ居ル次第ナリ御参考迄

捕ニ關スル大總統令ヲ通知シ警察總監殷鴻壽ヨリ彼等ノ多

數ハ公使館区域内ニアル趣ナリトテ彼等ノ罪跡ヲ述べ之ガ

釈放方ニ付外交團ヘ交渉方ヲ外交部ニ依頼シ來リタルニ付

右ノ次第各同僚へ移牒アリタキ旨要求シ來レルモノニテ首

席公使ハ右回章ニ右外交部ノ照会ニ對シテハ單ニ各公使ニ

於テ必要ニ応ジ回答スル様各同僚へ申送リ置キタル旨回答

スルコトトシタキ旨ノ(不明)ヲ附記シ居レリ然レドモ前

記ノ次第ニテ該回章未ダ廻覽ヲ終ラザルニ付右外交部宛回

答未ダ発送サレズニ居ル次第ナリ御参考迄

第二八四号

(八月十五日接受)

孫巡閱使代理八月十三日本官ヲ訪問シ別電第二八五号張作
霖米電ヲ内示シ今回ノ事変ノ元兎トシテ大總統逮捕命令ヲ

出シタル徐樹錚以下九名北京日本公使館ニ保護ヲ受ケツツ

アル處右保護ハ小幡公使一箇ノ考ニ出デタルモノニヤ將又

本国政府ノ意思ニ基クモノナルヤ若シ政府ノ意思ニ出デタ

ルモノトスレバ今回ノ争ニ關シ日本政府ガ中立ヲ声明シタ

ル趣旨ニ反スルノ嫌アリ之等ノ点御説明ヲ得バ幸ナリト述

ベタルヲ以テ本官ハ之ニ對シ徐樹錚等ガ我公使館ニ保護ヲ

受ケツツアル事実ハ曩ニ小幡公使ガ北京外交部へ通告シ統

デ之ヲ世間ニ公表シタル通りニテ右ハ勿論帝国政府モ承知

別 電 同日在奉天赤塚總領事ヨリ内田外務大臣宛電報

右ニ關スル張作霖ヨリ孫烈臣來訪日本公使館ノ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ノ電命ニ依リ孫烈臣來訪日本公使館ノ
徐樹錚等保護ニ關シ説明ヲ求メタル件

四〇九 八月十四日 在奉天赤塚總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

五三五

シ居ル次第ニテ事ノ茲ニ至リタルハ徐樹錚等ガ段派ニ属ス
ルガ故ニアラズシテ彼等ガ身ヲ以テ公使館ニ逃レ保護ヲ懇
願シタルガ為人道上之ヲ拒絶スル能ハズ例ヘバ窮鳥懷ニ入
レバ猶夫之ヲ殺ザルノ類ニシテ更ニ不祥ノ譬喻ナレドモ
例ヘバ東三省ノ軍隊戰ニ破レ張巡閱使竝ニ貴督軍が當館ニ
來リ一身ノ保護ヲ求メラレタル場合アリトセンカ本官ニ於
テ友誼ヲ無視シテ之ヲ拒絶スルコトヲ得ベキヤ今回ノ如キ
實例ハ歐米各国近クハ支那ニモ幾多存在シ國際法上差支ナ
キコトトナリ居レリ然レドモ右保護ハ全ク人道上ノ見地ニ
基クモノニシテ現ニ我公使ハ彼等ガ政治ニ關係シ若クハ外
部ト交通スルコトヲ嚴禁シ居ル次第ニシテ彼等ガ段派ニ属
ノ保護トハ更ニ矛盾スル所ナント説明シ更ニ孫代理巡閱使
ニ向テ抑モ張巡閱使及貴督軍ニ於テハ本件ノ保護其モノヲ
以テ帝国政府ノ態度ニ矛盾アリト称セラルルヤ若クハ徐樹
錚等ガ我公使館ニ逃込ミタル事實ガ偶々以テ我声明ノ裏面
ニ段派トノ聯絡アリタル証拠ナリトシテ之ヲ矛盾ト称セラ
ルル次第ナリヤト質問シタル處孫ハ張巡閱使ノ電命ニ依リ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇九

五六

支那人並ニ外国人ノ日本ニ對スル誤解ヲ解キ日本ノ誠意ノアル所ヲ諒解セシムルニ努力セラレ第三者ヲシテ此間ニ乗ズル所ナカラシムル様努メラレ度キモノナリト語リタルニ孫ハ張巡閱使ハ聰明ニシテ夙ニ此辺ノ事情ヲ觀取シ居リ之ガ為私電ヲ以テ曩ニハ東支鐵道陰謀問題今回ハ徐樹錚保護ノ問題ニ關シ内密ニ貴總領事ノ説明ヲ求メタル次第ニシテ張巡閱使來電ノ裏面ニハ此精神躍如トシテ顯レ居ル旨ヲ語リ居レリ尚別電ニ關シ張ニ對シテ帝國政府ノ挨拶ヲ本官ヨリ伝フルコト然ルベシト思考スルニ付何分ノ御回示ヲ請フ在支公使ヘ電報セリ

(別電)

八月十四日在奉天赤塚總領事發内田外務大臣宛電報第一八五号
日本公使館ノ徐樹錚等保護ニ關シ張作霖ヨリ孫烈臣宛電報

第二八五号別電

(八月十五日接受)

張作霖發孫烈臣宛電報左ノ通
聞クナラク小幡公使ハ公文ヲ我ガ外交部ニ送付シテ今回大
總統令ヲ以テ捕縛查辦スルコトトナリタル安福派首謀者徐
樹錚等十人ニ對シ保護ヲ加フルコトヲ声明セントスト云フ
抑モ之等ノ人物ヲ公使館内ニ収容セルコトハ故意ニ我国内

乱ノ首謀者ヲ庇護スル次第ニシテ今回ノ内乱平定ニ付テハ
在北京各國公使ヨリモ等シク同情ヲ表シ首謀者ノ処罰其他
ニ關シテモ一切諒解ヲ受ケ居レリ然ルニ日本公使獨リ斯ノ
如キ意思表示ヲ為スハ之ヲ兩國親善ノ好ミニ鑑ミテ豈ニ然
リト為サンヤ況ソヤ首謀者ハ惡事為ザザルナカリシヲ以テ
全國人民ノ恨ヲ受ケ居レリ若シ日本公使ニシテ彼等ニ對シ
テ独リ保護ヲ加ヘンカ必ズ輿論ヲ激昂ヲ惹起セントス依ツ
テ老兄ニ於テハ速ニ赤塚總領事ヲ訪問シテ密ニ日本ノ本件
ニ對スル意見ヲ問ヒ糾サレタシ本官ノ意見トシテハ北京ニ
於ケル事務終了後奉天ニ帰リテ有力ナル大官ヲ東京ニ赴カ
シメ日本政府ト提携方法ヲ相談セシメ以テ双方ノ親善ト東
洋永遠平和ノ計ヲ為サント欲ス切ニ望ム本趣旨日本政府ニ
伝達シテ首謀者ヲ保護スル為重ネテ兩國ノ感情ヲ害スルコ
トナキ様致サレ度ク更ニ日本公使ガ首謀者保護ノ事實ハ既
ニ々々各新聞ニ登載セラレタレバ必ズ各方面ノ反対ヲ惹起
セん依ッテ庶幾クバ軍隊及び警察ニ嚴重論告シテ取締ヲ勵
行シ地方團体及ビ学生等が集会ヲ催シテ排日ノ挙動ニ出ヅ
ルコトヲ禁止スベシ若シ之等ノ事故發生セバ正ニ當該地方
官ノ責任トシテ処罰セントス依ッテ此ノ儀併セテ赤塚總領

町野中佐

御参考

赤塚總領事殿

時局ニ關スル張作霖ノ態度

張作霖ハ曹鋗ト共力段祺瑞ヲ攻撃スルノ意図ナカリシモ段
カ張ノ提議ノ總テヲ斥ケ且其部下徐樹錚等ハ張ニ危害ヲ加
ヘントスルニ至レル為遂ニ武力調停ノ已ムヲ得サルヲ決心
スルニ至レルモ當时尚張ハ段派ヲ根絶スルノ意図ナク段派
中ノ惡辣分子數輩ヲ罷免セムト欲セシニ過ギズ然ルニ段派
ハ意外ニ脆弱ニ殆ド張ガ力ヲ加フルヲ待タズシテ殲滅シ直
隸派ノ全勝ニ帰シ張ノ思料以外ニ急転直下シタルナリ
張ノ談ヲ綜合スレバ張ノ今回再天津ニ來リ親シク直隸派ノ
實状ヲ審カニスルニ至リ直隸派ノ横暴ナル寧ロ遙ニ段派ニ
超エ而シテ曹ハ元ヨリ段ノ如ク誠意資望其部下ヲ制圧スル
ノ力ナキカ故ニ直隸派カ國家ヲ荼毒スルノ程度ハ段派ヨリ
更ニ甚タ猛烈ナルモノアルヲ知レリ加之直隸派ノ背後ニハ
歐米ノ勢力顯著ナルモノアリ直隸派ハ全然歐米ノ勢力ニ拠
リテ行動セル事實ハ張ノ天津ニ來テ初メテ瞭知セル所ナリ
是実ニ張ヲシテ喫驚寒心ニ勝ヘザラシムル所トス吳佩孚カ

御取計ヲ請フ
在支公使ヘ電報セリ

(附記)

八月七日町野中佐ヨリ在奉天赤塚總領事宛

張作霖ノ對時局態度ニ關スル件

大正九年八月七日 於北京

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四〇九

五三八

区々一師長ノ身ヲ以テ跋扈ヲ逞ウスルモノ吳ノ背後ニ歐米ノ支持アルカ為ニシテ曹カ之ヲ抑制シ能ハザルモ亦是力為ノミ具カ切リニ国民大会ヲ主張シ南方支那國民ノ意ヲ迎ヘントスル所以ノモノハ亦支那政客及歐米ノ使嗾ヲ生呑シテ其ノ意ヲ迎フルニ急ナルカ為ニ他ナラザルナリ若シ直チニ國民大会ノ如キヲ開催スルニ至ランカ支那全土ハ直チニ過激派ニ化スヘク是最モ張ノ憂慮ニ堪ヘザル所ナリ張ハ元来ノ主旨ニ從ヒ公平事ヲ處セムトスルニ曹ハ却テ張ヲ目スルニ親日ヲ以テシ成心有テ日本ノ為ニ謀ルモノノ如ク之ヲ觀ル事情以上ノ如クナルニ於テ張ハ到底曹ト兩立シ難キヲ深ク覺悟シ加之直隸派カ今ノ如ク横暴ニシテ且國ヲ挙ゲテ歐米ノ使嗾ニ聽從セムトスルニ至ラバ遠カラズシテ各地ノ変乱相踵テ起ルヘキヲ察シ此ノ際何等ノ進言モ何等ノ要求モナスコト無ク唯将来ノ地歩ヲ慮リ奉天軍三万ヲ南苑及郎坊ニ駐劄セシメ其ノ余ヲ率キテ二三日中ニ遽ニ奏天ニ帰還スヘシ而シテ他日機ヲ見テ天下ト共ニ曹鋐等ノ段派以上ノ惡逆分子ヲ殲除シ國民ヲシテ歐米ノ隸屬タル事實ヨリ免レシメムトノ意ヲ洩セリ

張作霖ノ言時ニ權謀アリシト雖モ術策ヲ弄シタルコトナシ

カラザルモノニアリ加之其兵力ノ優秀ナルハ現実ニ今回ノ争闘ニ比較シ見テ直隸派ノ敵スル所ニアラズトハ曹吳モ自ラ之ヲ認メ直隸派ニ好意アル英米國駐在武官等モ亦等シク之ヲ認ムル所ナリ即チ此優秀ニシテ且援クヘキ因縁ニアル者ヲ援ケズ萬一袖手傍観シテ遂ニ其信賴ヲ失フカ如キニ至ラバ帝國ノ対支外交ハ将来永ク遂ニ振フノ機無カルヘキヲ憂ヘテ已マズ若シ夫レ張作霖ヲシテ一意専念帝國ノ援助ヲ仰カシムルニ至ラシムルノ方法ニ就テハ小官必ス成功スヘキ確信ヲ有スルモノアリ(了)

註 冒頭余白ニ左ノ記入アリ

〔八月十七日赤塚總領事ヨリ接受(芳沢政務局長)〕

四一〇 八月十四日 中華民國留學生總会ヨリ
小幡公使ノ徐樹錚等九名ノ保護ニ抗議シ罪魁

ノ引渡ヲ要求ノ件

(大正九年八月十六日接受)

中華民國留學生總会(印)
日本外務大臣内田康哉閣下

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

在日本邦支那留学生ヨリ内田外務大臣宛書翰

敬啓者本月九日貴國駐華公使小幡酉吉通告敝国外交部声明保護敝國罪魁徐樹錚段芝貴丁士源朱深梁鴻志曾毓雋姚國楨姚震王郅隆等九人云云敝國國民聞之不勝駭異查該罪魁等數

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四一〇

故ニ小官ノ概略之ヲ信セムト欲スル所ナリ且小官更ニ之ヲ

想フニ直隸派ニ於ケル歐米ノ勢力ト其ノ排日ノ根底トハ實ニ意外ニ深甚ナルモノアリ段祺瑞ヲ呼テ李完用ト称スルガ

如キ日本ヲ以テ段ヲ利用シテ支那ヲ合併スルコト猶朝鮮ノ如クセムトスル野心ナリト認ムルカ如キ其証拠ニシテ曹等カ鑿クマテ病余ノ段ヲ殺サムトスルモ亦此誤解ニ基クニ依

ル最近天津ニ於ケル各方面聯合祝勝会ノ席上ニ於テ公然曹張等ヲ以テ支那ノ獨立ヲ既倒ニ挽回シタルハ開闢以来唯一

無二ノ大功ト称セルモノ亦日本カ段ニ依テ支那ノ合併ヲ企図セリト做ス証拠ノ一ナリ定國軍ノ行動ノ如キモ皆悉ク日本ノ指揮ニ由ルトナシ張作霖カ屢次日本ノ為ニ之カ弁解ニ

ナラズ其ノ背後ニハ既ニ歐米ノ勢力牢固トシテ抜クヘカラザルモノアリ帝國如何ニ隱忍シテ之カ弁解ニ努メ如何ニ凡

百ノ好意ヲ表スルト雖モ彼既ニ予メ成心ヲ挾ンテ我ニ臨ムニ於テハ到底其感情ヲ排除シ得可カラザルヤ明ナリ然ルニ

一方張作霖ハ其從來ノ行懸リト現在ノ境遇ト及其根拠地ノ関係上ニ於テ是亦到底帝國威力ノ下ヲ離レムトシテ離ルヘ

年来竊權禍國苛斂虐民或財侵吞國帑或則濫用職權近者畏罪構亂喋血京畿巨蠹神奸窮凶極惡我國人民皆欲得寢其皮食其肉而甘心乃不圖小幡公使曲解國際公法藉口外交慣例竟將徐樹錚等一千刑事犯強認為政治犯人濫用治外法權曲為保護蔑視世界公論罔顧華人反對平日既援助彼等作惡此時復妄為彼等袒護事實上貴國不啻為我國蟊賊之製造場罪人之逋逃數此決非賢明之處置甚為貴國不取也茲特代表留東學生三千余名致公函於閣下懇將不適任之小幡公使撤回從速將徐樹錚罪魁等九名引渡於我國以顧全兩國邦交以平我五億國民之公憤實為至幸 敬具

敬啓者本月九日貴國駐支公使小幡酉吉ハ敝国外交部ニ通告シテ敝國ノ罪魁徐樹錚段芝貴丁士源朱深梁鴻志曾毓雋姚國楨姚震王郅隆等九人ヲ保護ス云々ト声明セリ敝國ノ罪魁等數

敬啓陳レハ本月九日貴國駐支公使小幡酉吉ハ敝国外交部ニ通告シテ敝國ノ罪魁徐樹錚段芝貴丁士源朱深梁鴻志曾毓雋姚國楨姚震王郅隆等九人ヲ保護ス云々ト声明セリ敝國ノ罪魁等數

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四一

五四〇

民ハ之ヲ聞キ駭異ニ勝ヘス該罪魁等ハ數年来權ヲ竊ミ國ヲ
禍シ税金ヲ苛酷ニ収斂シ民ヲ虐ケ或ハ国帑ヲ侵呑シ或ハ職

權ヲ濫用シ最近ニハ罪ヲ畏レ乱ヲ構ヘ血ヲ京畿ニ流シ巨蠹

大奸ニシテ凶ヲ窮メ惡ヲ極ム我カ國民皆其皮ニ寝ネ其肉ヲ

食ヒテ甘心セントス國ラザリキ小幡公使ハ國際公法ヲ曲解

シ外交慣例ニロヲ藉リ遂ニ徐樹錚等ノ刑事犯罪者ヲ無理ニ

認メテ政治犯人ト為シ治外法權ヲ濫用シ曲ケテ保護ヲ為シ

世界ノ公論ヲ蔑視シ支那人ノ反対ヲ顧ミルナシ平常既ニ彼

等ノ惡ヲ為スコトヲ援助シ今復妄リニ彼等ニ左袒シテ保護

ヲ為ス事実上貴國ハ啻ニ我カ國賊ノ製造場タルノミナラス

罪人ノ逃亡所トナラン之レ決シテ賢明ノ処置ニ非サルナリ

甚タ貴國ノ為メニ取ラサルナリ茲ニ特ニ日本留学生三千余

名ヲ代表シ書面ヲ閣下ニ呈ス希クハ不適任ノ小幡公使ヲ召

還シ速ニ罪魁徐樹錚等ノ九名ヲ我カ國ニ引渡シ以テ両国邦

交ヲ全ウシ我カ五億國民ノ公憤ヲ和ゲラルレハ幸福ノ至リ

ト為ス 敬具

中華民国留日學生總会

日本外務大臣内田康哉閣下

中華民国
日本大正九年八月十四日

四一一 八月十五日 在上海山崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

安福派ノ王揖唐十七日発横浜丸ニテ神戸ニ直

航シ次デ渡鮮ノ予定ナル旨報告ノ件

(八月十五日接受)

李純ガ江蘇省内ニ擾乱ヲ画策セリトノ理由ヲ以テ王揖唐ヲ

逮捕ス可シトノ説新聞紙上ニ掲載セラレ次デ王揖唐ハ之ガ

反駁意見ヲ新聞紙上ニ發表シテ弁明ヲ試ミ尚大總統ニ対シ

之ガ取調ヲ電請セルモ大總統ハ之ニ答ヘズ却ツテ李純ニ本

件査辦方ヲ命ジタル趣ニテ王ハ一身其不安ヲ感ジ過日來其

所在ヲ晦マシ上海共同租界警察ニテ之ガ所在穿鑿ニ腐心シ

ツツアリン模様ナリシ處八月十三日夜王ノ秘書曹會突然林

出ヲ來訪シ近来王揖唐ヲ暗殺ス可シトノ説伝ハリ又李純ハ

王ヲ逮捕セント種々計画中ランク租界警察ハ充分ノ保護ヲ

与ヘ吳ルルモノトモ信ジ難キ理由アリ為ニ数日前夜中密ニ

從来ノ宿所哈同花園ヲ出デ租界内仏國友人ノ宅ニ潜ミツ

ツアルモ此所モ耳目ヲ引キ易キ故日本人ノ宅ニ仮寓シ日本

人ノ保護ヲ受ケタキニ付何トカ尽力願ハレマジクヤト申出
タルニ付林出ハ差当リ王ヲ收容シ得可キ日本人ハ思ヒ付カ
ザルノミナラズ租界内ニ於テハ(脱)若シ租界警察ニシテ

相当理由ノ下ニ王ヲ逮捕セントスル場合ニハ仮令日本人ノ

住宅内ニ仮寓スルトモ日本領事館警察トシテハ租界警察ノ

依頼ニ依リ其逮捕ヲ援助スルコトアルトモ之ヲ拒絶シテ我

ガ警察ニテ保護ヲ加フルガ如キ事ハ不可能ナリ若シ王揖唐

ニシテ身ニ危害ノ及パン事ヲ憂フルナラバ一時上海ヲ離レ

テ安全ノ地ニ避難スルニ如カズ又之ヲ為スニハ世人其所在

ヲ明ニセザル今日ヲ以テ最好機ト思考スル旨ヲ述ベタルニ

曹ハ一応林出ノ趣旨ヲ王ニ復命ス可シトテ立チ去リタルガ

其翌十四日曹ハ再び林出ヲ訪ヒ王ハ林出ノ趣旨ニ同感ニテ

至急上海ヲ立チ去ル事ニ決シ日本經由朝鮮京城ニ暫時滯在

シテ形勢ヲ觀望スル積リニテ本月十七日当地出帆ノ横浜丸

ニテ從者二名ト共ニ神戸ニ直航シ同地ヨリ門司ニ引返シ渡

鮮スル事トナリタル趣ナリ尚闕鐸ハ王ノ命ヲ帶ビ徐樹錚等

ト諸般ノ打合セノ為數日前上京シ今尚滯在中ナルモ未ダ何
等ノ消息ナシト曹ハ語リ居タル趣ナリ

北京へ転電シ広東南京漢口へ郵送ス

註 前掲八月二日船津總領事發第二三号電報參照

在支公使ヘ転電セリ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四一二 四一三 四一四

四一四 八月十七日 在天津船津總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

四一三 八月十七日 在天津船津總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

元駐日公使章宗祥大連ヨリ天津到着報告ノ件

(八月十七日接受)

章宗祥八月十六日大連ヨリ当地着伊太利租界ノ自邸ニ入レ

リ

五四五

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四一五

安福派ノ王揖唐上海ヲ脱出朝鮮ニ赴キ暫時滞在スル趣ニ付旅行及滞在中保護供与アリタキ

旨電報ノ件

第七七号（極秘）

今次ノ政變ニ際シ予テ上海ニ滯在中ノ王揖唐ハ身辺日ニ危険ニ迫リタルニ付急遽上海ヲ脱出八月十七日同地出帆横浜丸ニテ從者二名ト共ニ神戸ニ直航シ同地ヨリ門司ニ引返シ更ニ朝鮮ニ赴キ暫時滯在形勢ヲ觀望スルコトトナレル趣ノ處同人ハ御承知ノ通支那知名ノ人物ニテ目下ノ立場ニ付テハ頗ル同情スヘキモノアルノミナラズ政治犯トシテ入国スル以上可成保護ヲ与ヘ度ニ付テハ本人神戸上陸後ニ於ケル旅行日程等ニ付テハ關係各県知事トモ御打合ノ上旅行及滯在中出来得ル限り保護供与方可然御配慮相成様致シタシ

四一五 八月十八日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛（電報）

日本公使館ノ徐樹錚等收容ニ關シ張作霖二日

本ノ立場説明方訓令ノ件

別 電 同日内田外務大臣発在奉天赤塚總領事宛電報第一三六号

渾沌タル今日之ヲ改メテ公使館ニ避難シ来ル政治犯人ヲ引渡スカ如キハ人道上許容スヘカラサルコトニ属スルヲ以テ単ニ彼等政治犯人ノ生命ノ安全ヲ確保スル目的ヲ以テ國際ノ通義ニ從ヒ以上ノ権利ヲ行使スルハ寧ロ当然ナリト謂ハサルヘカラス旁々這般帝国公使ノ採リタル措置ハ曩ニ帝国政府ノ中外ニ向テ宣言セル不偏不党ノ根本義ト毫モ矛盾スルモノニアラサルコトヲ説述セラレ張巡閱使ニ於テ今後益々善隣ノ睦誼ヲ鞏固ナランシムコトヲ庶幾セラルニ際シ会々本問題勃發シ為メニ一部人士ヲシテ我方ニ対シ悪感ヲ抱持セシメタルノ感アルハ頗ル遺憾ニ堪ヘサル所ニシテ殊ニ其ノ間巡閱使ニ於テ苦衷ノ存スルモノアルハ我方ニ於テモ夙ニ洞察スル所ナルモ事態ハ正ニ前述ノ通ナルノミナラス貴電第二八五号ニ拠レハ巡閱使ニ於テハ徐樹錚等ノ処罰等ニ関シテハ各國公使ノ了解ヲ経タル旨指摘シ居レルモ右ハ事實ニ反シ本問題ニ関スル駐支外交團會議ノ經過ハ大体別電第一三六号ノ通ニシテ嚴肅ナル國際ノ通義ハ軽々シク破壞スルコトヲ得ストノ小幡公使ノ説明ニ對シテハ各國公使共何等反対意見ヲ吐露スルモノ無カリシ次第ニシテ要スルニ我方ノ主張ハ常ニ嚴正ナル見地ニ基キ来レルモノナル

七月二十八日ノ北京外交團會議ノ經過大要

第一三五号

貴電第二八四号ニ閔シ巡閱使代理ニ對スル貴官ノ説明ハ克ク我方ノ嚴正ナル立場ヲ明カニシ居ルニ付テハ貴官ハ更ニ巡閱使代理ト會見ノ上本問題ニ閔スル我方ノ立場ニ付テハ曩ニ縷述シ置キタル通ナルカ要スルニ徐樹錚等ノ收容ハ全ク政党政派ノ觀念ヲ超越シ一ニ國際ノ通義タル公使館ノ庇護權ニ基キ不得止ニ出テタルモノナルコト及收容後ニ於ケル本人等ノ行動ニ對シテハ極メテ嚴密ナル監視ヲ怠ラサルコト等ヲ指摘シ畢竟帝国公使ノ採リタル措置ハ全然人道ノ見地ニ出テ一党一派ヲ特ニ庇護セムトスルカ如キ政治的意味ヲ包藏スルコト無シ元來公使館ノ庇護權ハ西班牙其他南米等ニ於テ之ヲ認メタル例枚挙ニ違アラス近年ニ於テハ大正二年十月元墨西哥大統領「ディアス」歐洲ヨリ帰国シ「ヴェラクルス」ニ滯在シ居タルカ迫害甚シキ為メ米國領事館ヲ經テ米國軍艦ニ遁レタル例アリ殊ニ支那ニ於テハ康有為米國公使館ニ黎元洪日本公使館ニ又張勲和蘭公使館ニ避難シ庇護ヲ受ケタルカ如キ其ノ顯著ナル實例ニシテ支那ニ於テ公使館ニ庇護權ノ存在スルハ明カニシテ同國ノ国情

ニ付テハ場合ニ拠ツテハ右公使會議ノ内容ヲモ大体内話セラレスノ如キ直截簡明ナル問題ニ閔シ張巡閱使ニ於テモ何等誤解ノ念ヲ抱持セラルルカ如キ感アルハ我方ノ頗爾遺憾ニ堪ヘサル所ナルニ付テハ同巡閱使ニ於テ篤ト事態ヲ諒察セラレ進ムテハ支那各方面有力者ヲシテ我方ノ嚴正ナル態度ヲ知悉セシメ以テ無用ノ誤解ヲ一掃スルニ尽力セラレムコトヲ熱望シテ煩マサル旨附言シ置カレタシ
在支公使ヘ転電アリタシ

（別 電）

八月十八日内田外務大臣発在奉天赤塚總領事宛電報第一三六号

七月二十八日ノ北京外交團會議ノ經過大要

第一三六号 別電

七月二十八日英米両國公使ノ請求ニ依リ外交團會議開催セラレ席上米國側ヨリ政治犯人保護拒絶方ニ閔スル提議アリ次テ英國代理公使ハ前例ニ依リ公使館区域内居住英國人ニ對シ政治犯人ヲ收容保護スヘカラサルヲ示達スル所存ナル旨ヲ声明シタルカ小幡公使ハ先ツ如斯重要ナル主義上ノ問題ヲ外交團ノ決議ト為スノ穩カナラサルヲ前提トシタル上元來本問題ノ根本ハ國際法乃至國際慣例ニ關係アリ即チ之

カ実行ハ少クトモ過去ニ於ケル國際慣例ヲ動搖スルノ嫌ア
ル旨ヲ指摘シ進ムテ本問題ノ輕々ニ論議シ去ルヲ得サル所
以ヲ力説シタルカ竟ニ英米仏各公使モ何等的確ナル意見ヲ
述フルコト無ク結局米仏側ニ於テモ單ニ英國同様公使館区
域内ニ在ル各自国人ニ対シ政治犯人保護禁止ノ布告ヲ出ス
コトトスヘキ旨ヲ開陳シテ散会セル趣ナリ

四一六 八月二十三日 在中国小幡公使
内田外務大臣宛（電報）

我方ノ徐樹錚等保護ニ関スル通告ニ対シ頃外

交総長ヨリ同意シ難主旨申越ノ件

第八七九号（至急）

（八月二十四日接受）

往電第八一九号本使外交部宛通告ニ関シ額外交部總長ヨリ

八月二十二日附公文ヲ以テ冒頭ニ八月九日附本使照会ノ趣

旨ヲ受ケタル後大要左ノ通記載セル照会ヲ送リ越セリ本件
ニ対スル卑見ハ別ニ電報スヘキモ不取敢

查スルニ右各犯人ヲ保護スルハ國際ノ通義及支那ニ於ケル
既往ノ各事例ヲ顧念シ且政治上ノ趣旨ヲ超越セルモノナリ

ト御照会アリタル各節ノ次第ハ本国政府ニ於テハ遺憾ナカ
ラ同意シ難シ（歎難同意）就テハ本部ハ當該各官庁ヲ促シ
内密ノ合意トシテ在支各領事在香港總領事へ転電シリ

各犯人ノ犯罪証拠ヲ本部ニ送附センメタル上更ニ詳細ニ照
復シテ該犯人等ノ引渡方ヲ取計フヘキモ現在徐樹錚等九人
既ニ貴館護衛隊兵當内ニ収容セラレタル以上放任或ハ該犯
人等ヲ指引シテ他所ニ逃匿セシメサル様転筋シ以テ帰案訊
辦ヲ期シ睦誼ヲ計リタシ

内密ノ合意トシテ在支各領事在香港總領事へ転電シリ

四一七 八月二十三日 在中国小幡公使
内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚等保護ニ関スル額外交總長ノ申越ニ対

スル我方ノ回答案ニ付請訓ノ件

第八八一号（至急）

（八月二十四日接受）

往電第八七九号ニ関シ

該照会所載ノ通リ早晚徐樹錚等ノ各罪跡ヲ列挙シ夫々理由
ヲ附シテ更ニ引渡ヲ照会シ来ルモノトセハ今回ノ申込ハ暫
ク其ノ儘ニ為シ置キ右再度ノ照会ヲ待ツテ一併回答スルモ
一策ナルカ如キモ卑見ニ依レハ右再度ノ照会迄ニハ相當時
日アルヤモ知レズ其ノ間ニ今回照会ノ内容外部ニ洩レ我方
未回答ノ儘ニテ時日ヲ経過シ本照会ノ要旨ノミ世人ノ頭脳

ニ浸潤シタル後ニ始メテ我方回答ノ内容ニ接セシムル如キ

ハ世論誘導ノ方策上聊面白カラザル様存ゼラルノミナラ
ズ支那政府ニ対スル処置トシテモ彼等ニ於テ再度ノ照会ヲ

發スルニ先チ引渡問題ニ対スル我態度ノ強硬ナルコトヲ感
知セシメ置クコト可然然カモ今回先方ノ出方カ詳細ナル法

理論等ニ渡ルヲ避ケ理由ヲ示サズシテ单ニ同意シ難シト云

ヒ殊ニ「歎難同意」ノ文字ヲ用ヒタル所ニモ先方用意ノ存
スル所モ有之ヘキカト思料セラルニ顧ミ此際ハ我方ヨリ

モ引渡ノ要求ニ応ズル能ハザル理由ヲ詳説スルハ（不明）
必要ナキノミナラズ寧ロ不得策ト存セラルニ付先方最後

ノ照会ニ接セザル内先ツ先方照会ノ趣旨ヲ承ケタル後「唯
右ノ中貴方ニ於テハ當方措置ニ同意シ難ク犯罪ノ証拠ヲ具
シ更ニ照会スヘシト有之モ當該諸氏ニ対シ既ニ政治上ノ理

由ニ依リ逮捕命令交附セラレ本使ニ於テモ政治犯人トシテ
保護ヲ加ヘ居ル以上ハ刑事上ノ犯罪ノ有無ニ不拘引渡等ノ

要求ニ応スルコト能ハズ」トノ趣旨ヲ以テ回答シ之ヲ公表
スルコトスル方可然カト思考ス至急何分ノ回電ヲ請フ
保険ヲ加ヘ居ル以上ハ刑事上ノ犯罪ノ有無ニ不拘引渡等ノ
要求ニ応スルコト能ハズ」トノ趣旨ヲ以テ回答シ之ヲ公表
スルコトスル方可然カト思考ス至急何分ノ回電ヲ請フ

四一八 八月二十三日 在中国小幡公使
内田外務大臣宛（ヨリ

日本公使館ノ徐樹錚等保護ニ関スル額外交總
長ヨリノ公文写送付ノ件

附属書 八月二十二日付右公文写

機密第三三七号

大正九年八月二十三日

在支那

特命全權公使 小幡西吉（印）

關係電報

往電第八七九号

件名 徐樹錚等九名引渡要求ニ関スル件
(附屬書)

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類要目

八月二十二日附外交部來翰使字第三二号写

顏外交總長ヨリ小幡公使宛公文写

照会 使字第三二号

為

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四一九

來照、以徐樹錚、曾毓雋、段芝貴、丁士源、朱深、王郅

隆、梁鴻志、姚國楨、姚震、九人請求保護、顧念國際上通

義及中國許多之事例、將以上諸人、收容於

貴公使館護衛隊營內、嚴重誣謗渠等、不得干與一切政治、

與外面斷絕交通、並以此等處置、全然超越政治上之趣旨、

非因其所属政派之如何、而予以特別待遇、各等因、備悉一

切、查

來照所稱、以保護各該犯、係顧念國際通義及中國以往各事

例、并超越政治上之趣旨各節、本國政府歉難同意、除由本

部咨催各該管部、將各該犯犯罪證拠咨送到部、再行詳細奉

復轉達、俾將各該犯引渡外、現在徐樹錚、曾毓雋、段芝

貴、丁士源、朱深、王郅隆、梁鴻志、姚國楨、姚震等九人

既准

照稱、由

貴館將其收容護衛隊營內、相應照請

查照、即希転飭毋得放任、或指引各該犯逃匿他處、以期歸

案、訊辦、寔紹睦誼、須至照會者、

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

右秘書官 曹曾當二十六年

右一行ノ亡命來邦ニ関シテハ既報（八月二十一日付兵外發秘第五八七号申（通）報）ノ通リナルカ一行ハ二十一日上陸王敬祥方ニ休憩後當市北野町東亞ホテルニ投宿シ爾來引続キ滯在中ニシテ最初ノ予定ヲ変更シテ渡鮮ヲ中止シ当分神戸市附近ニ借家ヲ為シ閑居ヲ欲スルモノノ如ク二十二日市外御影方面ニ於テ可別莊ヲ借受ケントシタルモ適當ナルモノヲ得ス目下更ニ須磨方面ニ於テ家屋ヲ物色シツツアリ之カ決定ヲ見ル迄ハ東亞ホテルニ滯在スル模様ナリ
今同人ノ語ル處ヲ総合スルニ左ノ如シ

記

一、自分ノ來邦ノ目的ハ既ニ新聞紙ニヨリテ報道セル如ク

亡命ト称スルモ誤ニアラズ然レ共自分ノ有スル意見ニ関シテハ未ダ何人ニモ語リシコトナク秘書曹會ト雖モ自分

ノ心事ニ付テハ知ラザル位ナルヲ以テ總テノ報道ハ畢竟

想像ニ過ギズト前提シテ曰ク母國這般ノ政變ニ依リ根本

の政策ヲ曲解セル張作霖、曹鏡等力勢力ヲ得同志ナル段

祺瑞徐樹錚等ノ逮捕令發布トナリ自分モ亦上海ニ在ルノ

不利ナルヲ知リ靜養旁政麥ラ傍観スル考ヘニテ來邦シタ

中華民國九年八月二十二日

四一九 八月二十四日

有吉兵庫県知事ヨリ
床次内務、内田外務、田中陸軍各大臣並警視總監及各府県知事宛

神戸到着ノ王揖唐ハ朝鮮行ヲ中止シ暫ク神戸

附近ニ滯在スル旨及同人ノ時局談報告ノ件

兵外發秘第五九二号

（八月二十七日接受）

大正九年八月二十四日

兵庫県知事 有吉忠一（印）

内務大臣 床次竹二郎殿

外務大臣子爵 内田康哉殿

陸軍大臣 田中義一殿

警視總監 大阪、京都、神奈川、

岡山、山口各府県知事 殿

亡命支那人ノ言動ニ関スル件

支那衆議院議長

北方議和總代表

陸軍大將

王揖唐 当四十四年

同夫人 当四十年

ルモノナリ

二、自分ハ國家社會主義者ニシテ孟子ノ所謂「民為貴社稷次之君主為輕」ノ教ヲ以テ現世界ノ潮流ナリト考ヘ居ルモノナリ我邦ニ於テハ自分ノ信賴シ居ルハ孫逸仙ナリ、黎元洪ハ一流ノ政治家ニシテ年齒未タ五十余歲有為ノ士ナルモ目下二百万円余ノ私財ヲ有シテ天津ニ閑居シ再ヒ政界ノ人トナルヲ欲セズ段祺瑞ニ至リテハ心中愛國ノ念堅ク志ヲ同クスルモ其ノ手段ニ於テ異ル処アリ即チ今回之ヲ実行スルニ当リテ失敗ヲ招キタル所以ナリ将来頼ムニ足ルハ只孫逸仙アルノミト心得居レリ本日（八月二十三日）ノ新聞ニヨレハ李純モ亦北方和議代表ヲ辞セシ模様ナルカ是當然ノ成行ナリト考ヘ居レリ李純ノ如キ吳佩孚ノ如キ天津ノ古キ支那中学ヲ卒ヘシノミニテ世界ノ大勢ヲ知ラズ到底南北妥協ノ重任ヲ全クスル底ノ人物ニ非ズ自分ノ主張スル方法ナラハ妥協ノ成就疑ナカリシカ遂ニ今日ノ如キ蹉跌ヲ來シタリ其方法ニ付テハ何人ニモ口外スル能ハズ南北妥協ハ到底成ラザルモノト思惟ス

三、日支親善ニ関シテハ自分ハ元日本留学生（士官學校卒業）ニシテ同人種タル点及隣邦タル点ヨリ見テモ元ヨリ

日支提携ヲ欲シ居ルモノニシテ今回米國議員團ノ觀光ニ

際シ新聞紙ノ報道ニ依ル支那官民ノ言動ニハ実ニ不快ヲ

感シ居レリ一昨年来北京、上海方面ニ統發スル排日排貨

ニ就テモ極メテ不贊成ノ意ヲ表セシ為親米派ヨリ攻撃ヲ

受ケタルモノナリ

四、更ニ今後ノ方針ニ付テ曰ク

目下ノ處支那ノ将来ニ関シテハ何等語ルヲ欲セス只暫ク

傍観スルノ外ナシ自分ニ行先地ニ付テハ最初釜山ニ志シ

タルモ當分神戸地方ニ滯在シ尚時期ヲ見テ東京ニモ遊フ

考ナリ床次内務大臣ハ相識ノ間ニシテ先年北京ヨリ招待

シタル事アリ

目下支那ノ政界ニハ人物ナク其勢力ヲ有スルモノハ概ネ

無学無定見無能力ノ輩ニシテ敢テ同志トシテ頗ムニ足ラ

ズ尚日本ノ政治家新聞記者等ニ対シテモ面会シテ何事モ

語ルヲ好マザルナリ云々

右及申（通）報候也

四二〇 八月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

徐樹錚等庇護ニ關スル頤外交總長ノ申越ニ對

（別電）

転電セリ

八月二十七日在中國小幡公使發內田外務大臣宛電報第九〇四号

小幡公使ヨリ顏外交總長宛回答文

第九〇四号 別電至急

（八月二十八日接受）

書翰ヲ以テ啓上致シ候陳者當館護衛隊兵營内ニ收容中ノ徐樹錚氏外八名ノ件ニ關シ先ニ八月九日附公文ヲ以テ通報申進メ置キタルニ對シ同月二十二日附貴照會ヲ以テ御申越ノ趣敬承致シ候然ルニ右貴翰ニ於テ貴國政府ハ本使照會ノ各節ニ對シ同意セラレ難ク尚當該諸氏ニ付犯罪ノ証拠ヲ具シ更ニ照會相成ルベキ趣ノ処当該諸氏ニ對シ政治上ノ理由ニ依リ逮捕命令公布セラレ當館ニ於テ其政治犯人タルノ故ヲ以テ之ニ保護ヲ加ヘ居ル以上ハ普通刑事上ノ犯罪ノ存否ニ論ナク之ガ引渡シ等ノ要求ニ応ズルコト能ハザル次第ニ有之候間右様御承知相成度此段重ネテ照會貴意ヲ得候 敬具

四二一 八月三十日 外務省公表

在中国日本國公使館ノ徐樹錚等庇護ニ關シ中
國政府ノ申越及日本國公使ノ回答ニ關スル件

曩ニ在支帝國公使館カ徐樹錚等九名ヲ收容スルニ至レル所

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四二二 四二三

スル回答案ニ付回訓ノ件

第四八四号（至急極秘）

貴電第八八一号ニ閔シ仮令本人等ニ刑事犯附帶コト証明セラルルトモ法理論トシテ庇護權ヲ主張シ得ヘク（Mo. ore 参照）旁々此ノ際貴電ノ趣旨ヲ以テ一応回答スルコト

致シタク右回答済ノ上ハ全文電報アレ

四二二 八月二十七日 在中国小幡公使發內田外務大臣宛電報第九〇四号

我方ノ徐樹錚等庇護ニ關シ顏外交總長ニ回答

ノ件

別電 同日在中國小幡公使發內田外務大臣宛電報第九〇四号

右回答文

第九〇三号（至急） （八月二十八日接受）

貴電第四八四号ニ閔シ八月二十七日夕同日附ヲ以テ別電第

九百四号ノ通り顏署理外交總長宛回答セリ尚該回答ノ内容

ハ反対ノ電訓ナキ限りハ其ノ儘三十日公表ノ筈新聞ニ掲載セラルルハ三十一日ヨリナラン

本電ヲ号外一、別電ヲ号外三トシテ在支各領事及ビ香港ヘ

我方ノ徐樹錚等保護ニ關スル外交部宛回答

表ニ對スル北京新聞ノ論評報告ノ件

第九一六号 （九月一日接受）

政治犯人ニ關スル外交部宛回答ハ予定ノ通り八月三十日公

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四二四

五五〇

表セルガ三十一日ノ北京「リーダー」ハ其ノ社説ニ於テ該

犯人等ハ其ノ普通犯罪ノ訴追ニ依リ政治犯人タル地位ヲ失

フ可キ事、日本公使ハ結局彼等ヲ逸走セシムルノ外無ク逸

走ノ上ハ彼等ヲシテ満蒙ニ独立セシメ若クハ支那本部ニ活

躍セシメ又ハ日本ニ赴カシメテ捲土重来ヲ計ラシムルノ意

図ニ相違無キ事ヲ論ジ最後ニ夫レハ扱措キ刑事犯人ノ引渡

ヲ拒ムハ國際ノ通義ニ反シスル通告ハ苟クモ民国ニ敬意ヲ

有スルモノノ為シ得ザル所小幡公使ハ即チ支那政府ニ

direct insult ヲ加ヘタルモノナレバ宜シク之ガ召還ヲ請求

スペキナリト結ベリ尚三十一日ノ各漢字新聞ハ當館公表文

ヲ掲ゲタルノミニテ未ダ何等評論ヲ試ミザル處唯新報ハ大

總統ガ行政首長トシテ逮捕命令ヲ発シタルハ法律上ヨリ之

ヲ見レバ司法機關ニ対シテ一種ノ告発ヲナシタルニ過キズ

被告人等ノ罪名如何ハ日本側ニハ絶対ニ之ガ決定ノ權無シ

依ツテ司法機關ハ至急証拠ヲ集メ公訴ヲ提起シ而シテ更ニ

日本公使ニ引渡ヲ請求ス可ク国民モ亦極力外交ニ後援ヲ与

フ可キナリト（奉天中継九年八月三十日后一〇）

四二四 九月七日 山梨陸軍次官（印）

埴原外務次官殿

別紙北京駐屯歩兵隊収容支那人ノ行動ニ関スル支那駐屯軍

司令官ノ報告為参考及送付候也

（附屬書）

南駐屯軍司令官ヨリ山梨陸軍次官宛報告書写

秘參第一六〇号

北京駐屯歩兵隊収容支那人ノ行動ニ関スル件報告

大正九年八月二十日

支那駐屯軍司令官 南次郎

陸軍次官 山梨半造殿

北京駐屯歩兵隊収容支那人ノ情況別紙為参考及送付候也

号外極秘

大正九年九月七日

（九月八日接受）

北京歩兵隊ニ収容セル中國要人ノ動靜ニ聞ス
ル司令官ノ報告書写送付ノ件

附屬書 八月二十日附南駐屯軍司令官ヨリ山梨陸軍次官

宛秘參第一六〇号写

右報告書送付ノ件

（別 紙）

收容支那人起居ニ関スル狀況

八月十日夜收容以來ノ概況左ノ如シ

一、起居ノ景況

(1) 段芝貴氏

午前六時半起床、日課ハ読書ニシテ好シテ将棋ヲナシ

又毎日一時間乃至二時間ノ午睡ヲナス、四、五日前迄

ハ毎日午前十時頃ヨリ收容者全員其ノ居室ニ集合シ

別以来ノ談話ヲ交換シツツアリシ

(2) 曾毓雋氏

午前七時半起床、毎朝約三十分間沈思默考、多クノ場

合読書ニ耽リ又臥床ニ時ヲ費スコト多シ

(3) 徐樹錚氏

午前五時半ヨリ六時ノ間ニ起床、就寝ハ常ニ午後十二

時ヲ越ニ、日中ハ偶々段氏ノ居室ヲ訪ヒ将棋ヲ試ムル

ノ外常ニ読書ニ耽リ、当番タル日本兵卒ニ対シテ甚タ

懇切叮寧ナリ

(4) 姚震氏

午前七時半起床、毎日新聞（北京天津タイムス、益世

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四二四

偶々讀書ヲナシ或ハ段氏ヲ訪問ス

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四二四

二、給養ノ景況

給養ハ去ル十二日ヨリ段芝貴氏ノ厨子ヲ以テ独立シテ調弁（市場ヘノ往復ハ兵卒ヲシテナサシメアリ）調理ヲ行ハシメツツアリ

三、面会人ノ景況

左表ノ如シ

月 日	被面会者	面会者	摘 要
八月十一日	丁士源	橋 三郎	東亜興業株式会社
同 十二日	段芝貴	小山貞知	坂西公館書記
同 同	姚 震	増永常雄	大倉洋行
同 同	同	松村太郎	国民新聞記者
同 同	段芝貴	小山貞知	
同 十三日	丁士源	八角中佐	
同 十四日	其 他 全 部	小山貞知	
同 十五日	段芝貴	小山貞知	
同 十六日	姚 震	坂西少将	
同 同	段芝貴	小山貞知	
同 同	丁士源	松村太郎	
同 同	姚 震	中野丑吉	
同 同	段芝貴	松村太郎	
同 同	丁士源	小山貞知	
同 同	姚 震	中東通信記者	

同 段芝貴
徐樹錚
王郅隆
曾毓雋
町野中佐
方医師

右面会者ハ山内書記官及東少将ノ紹介ニヨルモノトス

四、信書ノ景況

収容支那人及當内使用支那人ニ対スル信書ニ關シ相当注意ヲ加フルノ必要ヲ認め右支那人等ヘノ來信ハ先ツ副官之レヲ受付ケ収容者ヘノ來信ハ本職若クハ客人係將校ノ手ヲ經テ本人ヘ、當内使用支那人ヘノ書信ハ副官ノ許ヘ本人ヲ呼ヒ付ケ交附スルコトニ規定シタリ

五、公使館、武官室ノ態度

公使及公使館書記官ハ未タ一回モ來訪セズ偶々西田通訊官カ山内書記官ノ意図ヲ受ケテ一回段芝貴ヲ訪問セルノミ 東少将ハ殆ト毎日一回来訪シ主トシテ徐、王、姚氏ニ面談ス 公使及東少将ノ収容方針ハ確実ニ言明セザルモ孰レモ現状ノ儘永ク収容スル考ナルカ如ク徐氏ノ如キハ去ル十日進候也

公使ノ声明発表後稍々失望ノ色ヲ呈シ公使及東少将ハ發表後我等ヲ脱出セシムル意図ナキニ至リシニアラズヤト

本職ニ質問セリ

六、収容者ノ態度

彼等ノ多クハ現在ノ収容所ニ満足シ危険ノ去ル迄ハ悠悠日ヲ送ラントスルモノノ如ク中ニハ既ニ家族ト面会ヲ許サレ度旨申出ヅルモノアリ独リ徐樹錚ハ日々脱出ノ方法ヲ考究シツツアルモノノ如ク我軍ノ射撃演習、貨物輸送等ノ状況ヲ逐一委シク本職ニ聞糺スヲ常トス而シテ徐氏ノ希望スル所ハ曾及王ヲ伴ヒ青島若クハ日本ニ脱出シ可及的速カニ爾後ノ画策ヲナサントスルモノニシテ現在ノ如ク至嚴ノ警戒ノ下ニアリテハ实行頗ル難事ニ属シ殊ニ曾、王ノ如キ身体虚弱ノ者ヲ伴フ事ニ至リテハ難事中ノ難事ニ属スト雖心情亦察スヘキモノナキニアラス

四五 九月十日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

上海商業公團聯合会ヨリ徐樹錚等ノ中国政府

ヘノ引渡ヲ要請ノ件

(附属書)
上海商業公團聯合会ヨリ小幡公使宛書翰写
快郵代電第四十九号

北京駐華日公使閻貴公使通告允敝國罪犯徐樹錚等請求予以保護等語不勝惶惑查徐樹錚等犯侵蝕國帑骯髒法殺人通匪謀

乱等罪均証拠確鑿完全為刑事罪犯絶対無政治性質苟許容留適踏袒庇段党之嫌敵國人民對此必更加一重遺憾希望貴公使

尊重敵民意將徐樹錚等罪犯引渡懲治以伸國法而全邦交母任企盼上海商業公團聯合會等叩篋

中華民国九年八月十七日

(右和訳文)

上海商業公團聯合會代電訳文

北京在支日本公使閣下 貴公使カ敵國ノ罪人ナル徐樹錚等ノ請求ヲ容レラレ之ヲ保護スル旨ノ通告ヲ發セラレタルハ怪訝ニ堪ヘズ徐樹錚等ハ國帑ヲ侵蝕シ法ヲ紊リテ殺人ヲ行ヒ匪徒ト通謀シテ擾亂ヲ図レル等其罪跡明白証拠確実之等ハ全ク刑事犯ニシテ絶対ニ政治犯タル性質ナキモノナリ然モ之ヲ逗留セシメラルニ於テハ偶偶以手段派庇護ノ嫌疑ヲ深カラシメ敵國人民ノ憎惡ヲ一層増サシムルモノナリ依テ貴公使ニ於テハ邦交ヲ顧念シテ敵國ノ民意ヲ尊重セラレ徐樹錚等犯人ヲ國法ニヨリ懲治ノ為引渡サレンコトヲ切望ス

上海商業公團聯合會

四二六 十月八日 在中國小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚等收容ニ要セシ營舍造作費用及日常必

要品購入費支出ニ関シ稟請ノ件

第一一四号 至急

（十月二十日接受）

（極秘）當館守備隊ニ在ル徐樹錚外八名結局ノ处置ニ付大ニ考慮ヲ要スル問題ナルコト勿論ナルニ今後何等カ四困ノ状況ニ変化ヲ見ザル限り當分ハ到底积放セラルル見込之ナク尤モ九名中幾分罪状ノ輕キモノ數名ハ其中ニハ或ハ特赦ノ恩典ニ浴スルヲ得ヘキヤモ計リ難キモ（張志潭高木ニ対

置方ニ付請訓ノ件

四二七 十月十九日 在中國小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚ノ我兵營ヨリ脱出希望ニ対シ我方ノ処置

第一〇九〇号
（十月八日接受）

徐樹錚外八名ヲ当地駐屯隊兵營内ニ収容セシ為營舍ニ施セシ造作費用（板摒取替、電燈取付、水道鐵管敷設等）七百六十一弗五仙日常必要ノ物品（食器、毛布、「ベッド」）ノ類）購入費五百四弗三十六仙計千二百六十五弗四十一仙ヲ

今日迄ニ要セシニ付右支出方御承認ノ上電送ヲ請フ仕払明細書郵送ス尚冬季ニ向フニ付煖房設備其他ニ必要ナル費用ノ支出ヲ要スルモ右ハ重ネテ稟申ス（奉天中継十月八日後零時）

シ行ク行クハ右様取計ラヒ得ベキヤモ計リ難キ旨洩ラセル趣内聞セリ）之トテ到底急速ニハ實現スヘシトモ思ハレズ徐ロニ動機ヲ俟ソノ外ナント信ズ幸ニ彼等ノ多クハ孰レモ我好意ニ満足シ只管斯ル時ノ至ルヲ俟タントスルモノノ如シ然ルニ徐樹錚ノミ予テヨリ当兵營退去ノ希望ヲ申出テ居リ殊ニ最近ニ至リテハ若シ其取計出来難キニ於テハ自ラ進テ脱出ヲ敢テス間敷キロ洩ラシ甚シク興奮ノ体ニテ頗ル意氣マキ居ル趣ニ付本使ハ此際徒ニ徐樹錚一人ノ利害ノ為ニ帝国ノ公正ナル立場ニ累ヲ及ボスカ如キハ甚タ望マシカラザル所以ナルヲ思ヒ館員ヲシテ親シク彼ニ面会セシメ其脱出ハ独リ同人ノ為決シテ得策ナラザルノミナラズ若シ斯ノ如キコトカ実現セラルニ於テハ帝国政府ノ立場ハ之ガ為ニ甚シク禍セラルルモノナルコトヲ懇説シ兎ニモ角ニモ此際帝國官憲トシテハ其脱出ヲ帮助シ若クハ不問ニ附スルカ如キハ遺憾ナガラ断シテ為シ得ザル所ニシテ強テ自ラ脱出ヲ敢テセントスルニ於テハ本使ハ進テ事前ニ其次第ヲ支那政府ニ通告シ同時ニ之カ公表ヲ為シタル上其保護ヲ断ルノ擧ニ出ヅルノ外ナキ旨ヲ告ゲ之ヲ思ヒ止ラシムル様事理ヲ尽シテ懇ニ説得ヲ試マシメツツアリ去リナガラ目下ノ

四二八 十月二十二日 在中國小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚ノ我兵營ヨリ脱出希望ニ対シ我处置方

第五九八号（極秘至急）

貴電第一一一四号ニ閑シ我方態度ノ公正ナルコトヲ示ス為

メ徐ノ脱出前予メ支那政府ニ何等通告ヲ為スコトハ仮令特

ニ徐ノ名前ヲ挙クルコトナク一般的ニ且ツ漠然タル言辞ヲ

用フルニセヨ支那政府ヲシテ我方ニ於テ脱出ニ帮助ヲ与フ

ルモノトノ感触ヲ起サシムヘキ虞アルニ付寧ロ事後ニ於テ

可然通告ヲ為スコトトスル方得策ナルヘク旁此ノ際事理ヲ

尽シテ今一応懇々説得ヲ試ミル外ナシト認メラルニ付貴

官ハ徐ヲ召致シ（場合ニ依テハ東少将列座ノ上）我方ニ於

テハ從来多大ノ好意ヲ以テ同人等ヲ庇護シ其ノ身辺ノ危険

ヲ脱レシムルニ努メ居ル処令脱出ヲ試ミルハ全ク好ンテ死

地ニ陥ルモノニテ遺憾ナル次第ナルガ強ヒテ脱出スル以上

ハ日本公使館トシテ之ヲ帮助シ得ザルハ勿論直ニ之ヲ支那

政府ニ通告セザルヲ得ズ從テ即時同政府ノ追手ヲ受ケ逮捕

セラルハ明白ナルヘキ旨申渡シ其ノ反省ヲ促サル様致

度右ニ拘ラズ脱出ヲ敢テスル場合ニハ事後ニ於テ直ニ支那

政府ニ対シ本人カ脱出ヲ敢行セル經緯ヲ通告シ我方ノ立場

ヲ詳細説示スルト同時ニ右ノ次第ヲ可然内外ニ宣明セラレ

度尚徐カ自ラ脱出セムトスルニ就テ何等成算アリテノコト

ナリヤ又脱出ノ動機等突止メ電報アリタ

四二九 十月二十五日 在中国小幡公使（ヨリ）

徐樹錚ノ兵營脱出ニ閑スル中国政府ヘノ通告

ハ事前ニ行フ方可然旨稟申ノ件

第一一三〇号（至急極秘）

（十月二十五日接受）

貴電第五九八号ニ依レバ脱出前予告スル方事後ニ通告スル

ヨリモ一層支那政府ヲシテ我方ニ於テ之ヲ帮助セルヤノ感

触ヲ起サシムルノ虞アリトノ御意見ナルカ如キモ卑見ニ依

レハ事後ニ通告スルコソ却テ右ノ如キ感触ヲ起サシムル所

以ト存ゼラレ事前ノ予告ニ依リテノミ我方ノ他意ナキコト

ヲ中外ニ明ニシ得ベキモノト信ズ又我方ノ立場トシテ事前

ニ予告セザルベカラザル旨ヲ彼ニ話スコトガ彼ヲシテ其脱

出ヲ思止ラシムル上ニモ有力ナリト思考ス尤モ前記ノ如ク

貴方ノ事後通告ヲ得策トセラル趣旨カ徐樹錚ノ心事ニ同

情シ從来ノ情誼上已ムヲ得ス此措置ニ出ヅルニアリトスレ

ハ一応御尤ノ事ト思考スルモ此場合ニ於テハ中外世論ノ非

難ヲ招キ我立場ヲ著シク困難ナラシムルノミナラズ殊ニ現

政府トノ関係ヲ尠カラズ動搖セシムルコトアルベキハ我方

ニ於テ充分覺悟ヲ要スヘク旁本件ニ閑シテハ本使トシテ今
一応帝国政府ノ痛切ナル再考ヲ仰ガザルヲ得ザル次第ナリ
更ニ御詮議ノ結果御回電ヲ請フ

四三〇 十月二十七日

内田外務大臣（ヨリ）
在中国小幡公使宛（電報）

徐樹錚ノ兵營脱出ニ閑スル中国政府ヘノ通告

ハ事後ノコトトシ度旨再指示ノ件

第六〇九号 極秘至急

貴電第一一三〇号ニ閑シ御意見ノ次第ハ一応尤モナルモ本

人ノ脱出ヲ支那側ニ予告スルカ如キハ一面ニ於テ本人ノ逮

捕ヲ便ナラシメ今日迄國際通義ニ基キ保護ヲ与ヘ來レル我

シ我方ニ於テ我立場ヲ明ニスル為支那側ニ予告スルニ於テ
ハ場合ニ依リ先方ヨリ徐ノ監禁又ハ其他何等面倒ナル要求
ヲ提出シ来リ之ガ為更ニ一段ノ紛糾ヲ加フルコトナキヲ保
シ難ク旁々當方ニ於テハ先以テ事理ヲ尽シテ懇々本人ヲ説
得シ以テ本人ノ反省ヲ促シ無謀ノ拳ニ出デザル様警告ヲ与
フルコト切要ト思考スル次第ニ付右御含ノ上可然御措置ア
リタシ

四三一 十月二十八日

内田外務大臣（ヨリ）
在中国小幡公使（電報）

徐樹錚ノ脱出企図ニ付其動機成算ノ有無等報
告ノ件

第一一三五号（至急）（極秘）（十月二十九日接受）

貴電第五九八号末段徐ノ脱出動機等ニ閑シ元来我庇護ヲ求
メテ兵營ニ收容セラルコトナリタル際ニモ永ク同處ニ
留マルノ意ナク程ナク脱出シ得ヘキヲ予想シ居タルモノノ
如ク然ルニ其後ノ事態ハ我方ヨリ收容ノ事實ヲ公表スル等
全然我ニ收容セラルコトナリ目下ノ処果シテ何ノ日ニ
至リテ自由ノ身トナリ得ルヤノ見当サヘモ付カザル一方當
人ノ語ル所ニ拠レハ四川ノ時局ニ閑シテモ從来劉存厚ト唐
斯反響ニ至シテハ差シタル相違無カルヘシト謂フニ在リ若
百歩ニテ要スルニ事前事後ノ何レニスルモ其ノ外部ニ及ボ
ルモノトシメ却テ右脱出ヲ与フルモノトノ感触ヲ
起サンメ我方ニ対スル非難ハ事後ニ通告スル場合ト五十歩
百歩ニテ要スルニ事前事後ノ何レニスルモ其ノ外部ニ及ボ
ルモノトシメ却テ右脱出ヲ与フルモノトノ感触ヲ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四三二

繼堯ハ相互間ニハ何等直接ノ聯絡ナキモ共ニ自分等トノ間ニ了解アリシ為事ナキヲ得来レル次第ナルニ安福ノ没落ト

共ニ漸次兩者ノ間に疎隔ヲ來シ終ニ衝突ヲ見ルニ至リ此儘ノ成行ニ放任スルニ於テハ自分等一味再興ノ一縷ノ希望モ

絶エ仮令後日ニ至リ僅ニ一身ノ自由ヲ得ルコトアリトスルモ自分トシテハ最早全然政治的生命ヲ断タレタル後ニテ何等策ノ施スヘキモノモナク全ク生甲斐ナキ身トナル訣合ナレバ寧ロ此際如何ナル危険ヲ賭シテモ脱出ヲ試ミ徐ロニ善

後策ヲ講セント決意スルニ至リタルモノナリトノコトナリ而シテ其後尚引続キ御来示ノ趣旨ヲモ体シ同人ノ反省ヲ促シ且万一脱出シ得タリトスルモ同人将来ノ行動ニ関シ日本官憲ヨリ何等ノ援助ヲモ期待スヘカラザルハ勿論我方トシテハ自国民ノ之ニ干与スルコトストラ之ヲ阻止セザルベカラ

ザル所以ヲ申聞ケ折角思ヒ止マラシメント試ミツツアルモ何分御承知ノ同人一流ノ氣質ト前述ノ事情ニテ神經著シク興奮シ居リ逆モ平静ニ事理ヲ判断スルノ余裕ナキ有様ニテ真偽如何ハ保シ難キモ同人ハ東少将並他ノ被收容者ニ対シ或ハ場合ニ依リテハ自殺ヲモ仕兼ネ間敷キ口吻ヲ洩ラシ居ルヤニテ只管脱出ヲ焦リ到底此際其ノ決心ヲ翻サシムルコ

ト困難ナリ

右ノ次第ニテ唯一心ニ脱出ヲ焦慮スルノミニテ別ニ成算ア

ル訣ニハ之ナク当人ハ万一公使館区域外ニ出ツルコトヲ得ザル場合ニハ一時仏國又ハ伊國公使館ニ身ヲ寄セン考ナリトモ云ヒ居ル趣ナリ尚ホ貴電中本使自ラ徐ヲ呼寄スルモ

ニ付テハ公使館使用人等ノ眼モ多ク本使當人ヲ往訪スルモ同様ニテ其後ニ至リ脱出センカ右脱出ニ付本使ト話合ヲ為シタルモノト直ニ感付カルルコト必定ニ付御来示ノ次第ハ

アルモ右ハ姑ク差控ヘ居レリ

四三二 十月二十九日 在中国小隣公使

内田外務大臣宛 (ヨリ)

徐樹錚脱出後ハ一切彼ヲ帮助セザル様出先陸

軍官憲ニ訓令方取計ハレ度旨裏請ノ件

第一一三九号 (大至急極秘)

(十月二十九日接受)

貴電第六〇九号拝承本人ニ対シ尚説得ニ努メ居ルモ只今ノ処乍遺憾全然之ヲ思止マラシムルノ見込先以テ之ナク早晚脱出ヲ決行スヘシト考ヘラルル処右決行ノ暁我文武官憲ニ於テ苟モ其ノ脱出及脱出後ノ行動ニ対シ又ハ之カ隠匿ニ関シ些少タリトモ帮助若クハ便宜ヲ供与スヘカラズ右ノ次第軍隊及軍人ニ対シ洩無ク警告ヲ与フヘキ旨電訓セリ尚ホ在天津總領事其他必要ト試ムル向ニ対シテハ貴官ヨリ諭告方可然取計ハレタシ

(附記一) タルト間接タルトニ論ナク如何ニ隠密ニ行ハルルモ必ズヤ何ノ時ニカ暴露シ我方ノ立場上極メテ面白カラザル結果ト可相成ト深ク憂慮セラル就テハ政府ニ於テモ右等帮助又ハ便宜ハ我文武官憲ヲシテ一切之ヲ供授セシメラレサル御方針ト推察セラルル処果シテ然ラハ尚此際參謀總長陸軍大臣トモ御協議ノ上關係出先陸軍官憲ニ対シ徐ニシテ一度我兵營ノ門ヲ出デタル上ハ事情ノ如何ニ論ナク上述ノ如ク之ニ対シ絶対ニ何等ノ帮助若クハ便宜ヲモ供与スヘカラザル旨至急電訓方御取計相成様致度ク尚愈々脱出ノ上ハ直ニ同様ノ趣旨在支各文武官憲ニ御電訓相成様御用意置アリタシ尚何分ノ儀當方ヘモ電報ヲ請フ

同右件

第六二三号 至急、極秘

貴電第一一三九号ニ関シ十月三十一日陸軍大臣及次官ヨリ在貴地各武官竝駐津司令官ニ対シ徐ノ脱出ニ対シ我軍隊又ハ個人トシテモ之ニ援助ヲ与フルコト絶対不可ナルハ勿論脱出後ノ行動ニ対シ又ハ之カ隠匿ニ関シ些少タリトモ帮助若クハ便宜ヲ供与スヘカラズ右ノ次第軍隊及軍人ニ対シ洩無ク警告ヲ与フヘキ旨電訓セリ尚ホ在天津總領事其他必要ト試ムル向ニ対シテハ貴官ヨリ諭告方可然取計ハレタシ

(附記二) 徐樹錚脱出ニ関スル件

十月三十一日陸軍大臣ヨリ坂西少将宛訓電

徐樹錚ヲ監禁スルコトハ良キ方法ト考ヘズ縱令同人ヲ監禁シテモ彼ニ脱出ノ決意アラバ之ヲ防止スルヲ得ザルヘン彼脱出スルコトアルモ我カ軍隊又ハ個人トシテモ之ヲ援助スルハ絶対ニ不可ナリ況シヤ間島及奉天省ニ於テ張作霖ト交渉多キ今日ニ於テ徐ノ脱出ヲ援助シ張ノ反感ヲ買フ如キハ我國策ノ為大ナル不利ナリ良ク細大ノ情理ト利害ヲ此ノ上ニモ説キ同人ヲ諭サレ度青木、東、南ニモ伝ヘヨ

附記一

十月三十一日田中陸軍大臣ヨリ在北京坂西少将宛訓電

徐樹錚脱出ニ關スル件

陸軍大臣及次官ヨリ出先陸軍官憲ニ対シ徐樹錚ノ脱出ニ何等ノ帮助ヲ与フベカラザル旨訓

令ノ件

(附記一)

徐樹錚脱出ニ閔スル件

十月三十一日陸軍次官ヨリ支那駐屯軍司令官宛電報

徐樹錚脱出ニ閔シ昨日坂西宛電報伝承ノコトト存ス右ニ付

同人ヲ説得シテモ彼ハ脱出ヲ決行スルニ於テハ其ノ脱出及

脱出後ノ行動ニ対シ又ハ之カ隠匿ニ閔シ少タリトモ帮助

若ハ便宜ヲ与フベカラズ本件ハ軍隊及軍人ニ対シ洩レナク

注意ヲ与ヘ置カレ度尚貴官ヨリ坂西、東ニモ伝ヘラレ度

四三四 十一月三日 内田外務大臣(ヨリ) 在米國幣原大使宛(電報)

在中国日本公使館ニ収容中ノ徐樹錚脱出ヲ企

図シ居ル旨通報ノ件

第五〇二号 極秘

予テ在支我公使館ニ収容中ナル徐樹錚等九名中徐樹錚ハ最近ニ至テ我方ノ保護ヲ離脱セムコトヲ熱望シツツアル処右ノ動機如何ハ明確ナラサルモ往電合第二四七号西南地方ノ動乱殊ニ四川方面ニ於ケル情勢ヲシテ此ノ儘事態ノ推移ニ委シ拱手傍観スルニ於テハ竟ニハ徐等安徽派再興ノ一縷ノ望サヘ断絶スルニ至ルノ虞アリ旁々此ノ際如何ナル危険ヲ

大臣、総長、済ミ

四三六 十一月十五日 在中国小幡公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚脱出セル旨鎌田隊長ヨリ報告ノ件

第一二〇九号 至急 (十一月十五日接受)

極秘

徐樹錚ハ十一月十四日夜迄確ニ軍隊内ニ在リタルモ十五日朝其姿見エズ正シク脱出シタルモノト認ムル旨鎌田隊長ヨ

リ報告ニ接セリ不取敢

四三七 十一月十六日 在中国小幡公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚ノ脱出ヲ中国外交總長へ通告ノ件

第一二二一号(大至急)(極秘)(十一月十六日接受)

往電第一二〇九号ニ閔シ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四三六 四三七

四五八

五六一

賭スルモ我保護ヲ脱シテ最後ノ善後策ヲ試ミムトスルモノノ如シ右ニ就テハ目下在支公使等ニ於テ折角説得ニ努メ無謀ノ拳ニ出デザル様懇諭シツツアルモ本人ノ決意頗ル鞏固ニシテ或ハ早晚密ニ脱出ヲ敢行スルニ至ルコト無キヲ保セズ右ハ追テ何分申進スル迄絶対秘密ニ付セラレタシ

在英仏各大使ヘ転電アリタシ

四三五 十一月八日 在天津南駐屯軍司令官(ヨリ) 田中陸軍大臣宛(電報)

徐樹錚ノ脱出企図ニ対スル措置ニ付小幡公使等ト協議決定ノ件

天電二四六

徐樹錚ニ代リ小官ハ小幡公使東少将山内書記官ト会合シ協議ノ結果左ノ如ク決定セリ

一、日本政府ノ最後ノ決心ヲ徐ニ通告スル以前尚一応公使、東少将及小官ヨリ脱出ハ未ダ其時機ニアラザルコトヲ説キ思ヒ止マランマルコトニ努ムルコト

二、前記勧告ニ対シ尚脱出ノ決心ヲ齧サザル場合ニハ徐ノ自由意志ニ委スルコト但シ此ノ場合ニハ何レモ漏洩セザル以前ニ支那政府ニ通告スルコト

十一月十六日別電第一二二二号ノ通公文ヲ以テ外交總長ニ申入レタリ尚右ハ直ニ支那側ヨリ漏洩スルハ必定ニテ先ヲ越スノ必要上全文即日公表セリ因ミニ天津駐屯軍參謀ヨリ当地隊長ヘノ内報ニ徐ハ途中察知セラルルコトナク天津ニ着シ差当リ外部ヨリ知ラルル虞ナントアリ何處ニ居ルカハ当地ニテハ不明ナリ

註 別電第一二二二号ヲ省略ス後出十一月十六日附小幡公使報 告機密第四四八号附屬書参照

四三八 十一月十六日 在中国小幡公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

在天津上野駐屯軍參謀ヨリ中國側ヘノ徐脱出 通告暫時延期方ニ付鎌田隊長へ電請シ来レル 旨報告ノ件

第一二二一号(極秘) (十一月十七日接受)

往電第一二二一号末段天津上野參謀ヨリ鎌田隊長ヘノ電報

ハ同隊長ヨリ天津ヘ徐脱出ノコトヲ通知シタル電報ノ返事ニテ他ニ洩ルルコトナキ故少クトモ三日間支那側ヘノ通告ヲ猶予スル如ク本使ニ伝ヘラレ度希望スル旨ノ一節アリタル次第ノ処十六日朝更ニ同參謀ヨリ隊長ヘ「二、三日ノ猶

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四三九

五六一

予トハ十八日ノ船ニテ離支サスル筈ナルヲ以テ其船ノ出帆

当日ノ払曉脱出スルコトトシ度シ而シテ十八日朝隊長ヨリ

公使及ビ司令官宛脱出ノコトヲ通報又ハ報告シ司令官ヨリ

直チニ電報ヲ以テ公使東ニ伝ヘ此電報ヲ基礎トシテ公使ガ

通告ヲ發スル如クセバ万事安全ニシテ確実ナリ左様公使ヘ

意見述ベラ度希望」トノ電報到達シタル趣ニテ早速隊長

ヨリ本使ノ意見問合アリタルニ付テハ政府予テノ訓令通り

事実脱出シタル以上成ルベク速ニ通告スルヲ要スルニ付右

様取計ヒ兼ヌル旨ヲ答ヘ同日直チニ往電第一二二一号通告

ヲ了シタル次第ナリ御参考迄

尚本件ニ関聯アルヤ否ヤ明ナラザルモ十八日天津出帆ノ筈

ナリシ高砂丸ハ十七日出帆ノコトニ急ニ予定ヲ変更シタル

趣ナリ

四三九 十一月十六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

徐樹錚ノ脱出ニ關シ中國側へ通告公文写送附

ノ件

附属書 十一月十六日附小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文

写

機密第四四八号

(十一月二十二日接受)

大正九年十一月十六日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

関係電報

往電第一二二二号

徐樹錚兵營脱出ニ關スル件

本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目

十一月十六日付外交總長宛本件通告公文写

(附属書)

十一月十六日附小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文写

第二二八号

以書翰致啓上候陳者當公使館護衛隊兵營内ニ収容中ナリシ
徐樹錚氏ハ過日來其最初本使ニ對シテ為シタル保護ノ請求
ヲ撤回シ當公使館館外ニ退去シ度旨再三本使ヘ申出デタル
モ本使ハ之ニ対シ切ニ其反省ヲ求ムルノ措置ヲ取り来リタ
ル處同氏ハ十一月十四日夜迄確カニ該兵營内ニ在リシモ翌

十五日朝ニ至リ同所内那辺ニモ同氏ノ在ラザルコトヲ發見
シタル旨護衛隊長ヨリ報告ニ接シ候即チ同氏ハ十四日夜ヨ
リ十五日朝迄ノ間ニ於テ單身同所ヲ脱出シタルモノト認ム
ルノ外無之候本使ハ曩ニ本使ガ同氏ヲ収容シタルハ单ニ國
際ノ通義ニ基キ何等他意アルニ因ル次第ニ非ザルニ顧ミ当
時直ニ右収容ノ事実ヲ貴国政府ニ通告シタルト同時ニ前記
同氏退去ノ事実ヲモ亦茲ニ遲滯ナク貴国政府ニ及通報候次
第ニ有之候此段照会得貴意候 敬具

大正九年十一月十六日

小幡公使

顏外交總長宛

四四〇 十一月十六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚脱出及我官民ハ徐ニ対シ何等ノ帮助ヲ
与フルコト無干様在中国各領事へ指示ノ件

第一二二六号 (十一月十七日接受)

左ノ通在支各領事(分館ヲ除ク)在香港總領事ニ電報セリ

当地兵營ニ収容中ナリシ徐樹錚ハ十一月十四日夜迄確ニ兵

營内ニ在リタルモ十五日朝其ノ姿ヲ見出スコト能ハス正シ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四四〇 四四一

ク脱出シタルモノト認ムル旨歩兵隊長ヨリ報告ニ接シタル
ニ付本使ハ十六日右ノ次第外交部ニ通告シ即日之ヲ公表セ
リ尚陸軍大臣及同次官ヨリ在当地各武官及天津司令官ニ對
シ予メ右ノ如キ場合ニ備フル為其ノ脱出ニ對シ我軍隊又ハ
個人トシテモ之ニ絶対ニ援助ヲ与フヘカラサルハ勿論脱出
後ノ行動ニ對シ又ハ隠匿ニ關シ些少タリトモ帮助若クハ便
宜ヲ供与スヘカラサル旨電訓シアリ就テハ貴官ニ於テモ右
ノ趣旨敵守アリタク尚居留民中ニモ右方針ニ反シテ行動ス
ル者ナキ様嚴重取締アリタシ

尚餘ハ日下天津ニ在ルモノノ如シ此点ハ全然内密ノ御含迄
右在支各領事(分館ヲ除ク)及在香港總領事へ電報シ大臣
ヘ転電セリ

四四一 十一月十七日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚高砂丸乗船大連ニ向ヘル旨報告ノ件

第三三八号 (極秘)

本官発在支公使宛第一九五号(極秘)

公使発大臣宛電報第一二二一号ニ關シ江戸ガ内々當地郵船

支店長ニ確メタル所ニ拠レバ徐樹錚ハ張宣及王隍泰ト共ニ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四四一

五六四

十一月十七日午前三時花咲丸^(註)ニ乗タルカ同船ハ同日午前九時当地出発大連ニ向ヘリ

外務大臣ニ転電セリ

註

花咲丸トセルハ高砂丸ノ誤ナル旨後揭十一月二十日小幡公使發外務大臣宛第一二三九号ニ記載ス

内田外務大臣ヨリ

在米國幣原在仏國石井各大使及
在マニラ來栖總領事宛(電報)

徐樹錚脱出ノ動機、徐脱出及脱出後ノ行動ニ

我官民ガ援助ヲ与フルコト無カラシムル為我

方ノ執リタル措置通報ノ件

附記 徐樹錚脱出ト日本ノ態度ニ関スル外務当局談

合第二八一号

往電合第二八〇号ニ閑シ徐樹錚カ我方ノ諫止ヲ省ミス竟ニ

脱出スルニ至レル動機如何ニ付テハ在米大使宛往電第五〇

二号ニモ一言セル通ニテ要スルニ特ニ成算アルニ非スシテ

唯一概ニ脱出ヲ焦慮シ竟ニ之ヲ敢行スルニ至レルモノト認メラルル処之ヨリ先キ小幡公使ニ於テハ徐ヨリ再三退去ノ

意思アル旨申出ニ接シタル都度若シ同人ニシテ脱出スルカ如キコトアルニ於テハ我公使館ノ公正ナル態度ニ対シ無用

リ先同人ヨリハ小幡公使ニ対シ再三退去ノ意アル旨申出ヅル所アリタルモ同公使ニ於テハ此際脱出ヲ試ミルカ如キコトアリテハ我公使館ノ公正ナル態度ニ対シ疑惑ヲ招クノ虞アル所以ヲ説示シテ切ニ其ノ反省ヲ促シタリ而シテ我陸軍側ニ於テハ万ノ場合ヲ慮リ予メ在北京天津各武官ニ対シ徐樹錚氏ニシテ脱出ヲ企図スル如キ場合我軍隊又ハ個人トシテモ絶対ニ援助ヲ与ヘザルハ勿論脱出後ノ行動又ハ之力隠匿ニ付些少タリトモ帮助シ又ハ便宜ヲ供与スヘカラザル旨嚴重電訓シ置キタリ尚公使ハ右ノ報ニ接スルヤ直ニ在支那各領事ニ対シ以上ノ趣旨ヲ嚴守シ且我居留民中ニモ此ノ方針ニ違背スルカ如キ行動ニ出ツルモノナキ様取締方電訓セリ

リタリトセバ一層脱出ノ防止策ヲ講ゼラルベキ筈ナリシニ

ト零^(ヨメ)シ尚斯ル風ニテハ他ノ八人ニ付テモ懸念ニ堪ヘズ何卒斯ルコト再ヒナキ様願ヒタク何レ国務會議ニ附議ノ上当方通牒ニ付スル回答ヲ発スル考ナリト述ヘ頗ル不满ノ態見エタルニ付本使ハ牢獄ニモアラザル故監禁等之ニ類スルコトハ致シ兼ヌル次第等詳細弁明シ置キタリ不取敢

四四四 十一月十八日

在中国小幡公使ヨリ

徐樹錚脱出ニ閑スル新聞論評報告ノ件

第一二三九号

(十一月十八日接受)

徐樹錚ノ脱出ニ閑シ十一月十七日京報其他漢字新聞ノ多ク

ハ本使ノ通告ヲ掲ケ最初収容保護ノ通告ト对照シテ之ヲ不信滑稽ナリト冷評シ之レ日本國家及公使ノ人格問題ナリト説明セリ「ペキン、リーダー」ハ往電第一二三三号德川ノ

セリ

前掲四三九文書附属書(顏外交總長宛公文)ノ同文ヲ公表シタルモノ

四四三 十一月十八日

在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚脱出ニ中国外交總長不満ノ件

第一二二八号

(十一月十八日接受)

往電第一二一一号ニ閑シ十一月十七日外交總長定例会見ノ

際同總長ハ本件發生ヲ頗ル遺憾トシ過日來退去ヲ希望シ居

ノ疑惑ヲ招ク虞アル所以等ヲ指摘シ切実ニ其ノ反省ヲ促シ

タルモ乍遺憾其効無カリシ次第ナリ尚万ノ場合ヲ虞リ我陸軍側ニ於テハ予メ在北京天津各陸軍武官ニ対シ万ニ徐カ

脱出ヲ敢テスルカ如キ場合ニ備フル為右脱出ニ対シ我軍隊又ハ個人トシテモ之ニ絶対ニ援助ヲ与フヘカラサルハ勿論

脱出後ノ行動ニ対シ又ハ之カ隠匿ニ閑シ些少タリトモ帮助ヲクハ便宜ヲ供与スヘカラサル旨電訓シアリ又今回愈々脱出ニ付テハ在支公使ヨリ在支各領事ニ対シテモ前記ノ趣旨ヲ厳守シ且居留民中ニモ右方針ニ反シテ行動スル者無キ様嚴重取締方電訓セリ就テハ本件ニ閑シ貴地ニ於テ論議ニ上リタル節ハ前記ノ次第可然敷衍説明ヲ加ヘラルル様致度シ前電通り転電方可然取計ハレタシ

(附記)

徐樹錚脱出ト日本ノ態度ニ閑スル外務当局談

外務当局談(大正九年十一月十七日)

予テ我在支公使館護衛隊兵營内ニ收容中ノ徐樹錚氏カ單身同兵營ヲ脱出スルニ至リタル次第ハ別項公表^(註)ノ通ナルカ其ノ動機如何ニ付テハ唯一概ニ脱出ヲ焦慮シ特ニ成算アルニ

非ズシテ之ヲ敢行スルニ至レルモノト観測セラルル処之ヨ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四四五 四五六 四四七

ヘ居ルノミナリ

註 十一月十七日小幡公使発第一二三三号省略セリ

田中陸軍大臣宛（電報）

四四六 十一月十九日 在北京坂西少将ヨリ

徐樹錚高砂丸ニテ渡日スル由ニ付遺漏無ク手

当ノ必要アリト信ズル旨稟申ノ件

四四五 十一月十九日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚脱出ニ関スル京津タイムスノ論評報告

ノ件

第一二三三号

（十一月十九日接受）

十一月十八日ノ京津「タイムス」ハ徐脱出ニ関スル社説ヲ掲ゲ他ノ方面ニ於テ優秀ナル日本官憲ニ重大ナル手脱り又ハ默過ナクシテ此ノ事アリシト云フモ人ハ信ゼザルベシト前置シテ取容當時以来ノ成行ヲ敍シタル後脱出ニ関スル外交部宛通告文ヲ評シ爾ク出タガリ居リタリト云フニ其ノ事ヲ支那政府ニ通告セザリシハ遺憾ナリ次ニ支那側ヘノ通告ガ後レタルハ種々調査ノ必要アリシタメナランモ兎ニ角一入遺憾ナリト論シ最後ニ徐ノ脱出ガ政界攪乱ノ因ヲ為スヘク小幡公使ノ Embarrassment ハ蓋シ徐ノ脱出ヲ以テ終ルコトヲ得ザルベキヲ慮ルト結ヘリ但シ同紙トシテハ口調極メテ冷静ナル方ナリ

坂特電一七

徐樹錚脱出ノ通牒ニ接シタル支那当局ハ不安ト憤慨ニ充チアル模様ニテ本十八日ノ閣議ニテ善後処置ヲ決シ何レ強硬ナル抗議ヲナスコトト思ハル徐脱出ノ手落ニ就テ当地責任者ハ皆知ラヌ存セヌト云ヒアルモ仄カニ聞ク所ニ依レバ某外国人（独乙人ナラン）ノ手ニ依リ天津ニ逃レ高砂丸ニテ渡日スル由元來高砂丸ハ十八日ノ出帆预定ヲ一日早メ十七日出帆セリ此ノ船ハ大連、長崎、門司、神戸、横浜行ノモノナリ一度内地ヘ上陸セハ到底秘密ヲ保チ得ザルコトト思ハル若シ此ノ事カ支那当局ニ伝ハラバ坂極秘電第九四号ニ具申セル如キ憂慮スヘキ結果ヲ来スヲ以テ此ノ間漏洩ナク手当セラルル必要アリト信ジ聞キ込ミタル儘取り敢ヘス成シ得レハ長崎ヨリ上海若クハ其他ヘ向ハシメ脱出ノ仕末ヲ適当ニ宣伝セシムルヲ得バ妙ナリ

四四七 十一月二十日 増原外務次官ヨリ

伊藤郵船会社社長宛

徐樹錚ヲシテ長崎ニ上陸セシメズ他方面ニ亡

命セシムル様配慮方依頼ノ件

（極秘）

拝啓陳者先般在支帝国公使館ヲ脱出セル徐樹錚氏ハ其後天津ニ於テ貴社汽船ニ乗シ大連ニ赴キ居タル処更ニ本日同港出帆貴社汽船高砂丸ニ便乗シテ長崎ニ向ヒ同船ハ来ル二十二日長崎入港ノ趣ニ有之候処既ニ御承知ノ通リ同氏カ帝国公使館ヲ脱出セルコトニ對シテスラ支那政府竝ニ支那一般輿論ハ不尠帝国政府ニ猜疑ノ眼ヲ以テ対シツツアル際若シ同氏ニシテ愈々長崎ニ上陸スルカ如キコトアリ惹イテ其ノ日本ニ亡命セル事実一般ニ知レ渡ルニ於テハ支那一般輿論ノ沸騰想像スルニ余リアル次第ニ有之結果支那ニ於テ再ヒ如何ナル排日運動ノ勃発ヲ見ルヤモ計ラレズ其ノ影響スル所極メテ重大ナルモノアルヲ以テ帝国政府トシテハ從来ノ行懸上同氏ニ対スル私情ニ於テハ甚タ忍ビ難キモノアルモ前記ノ次第ニ鑑ミ此際同人ノ長崎上陸ハ絶対ニ之ヲ拒否スヘキ方針ニ有之右ニ対スル措置方ニ就テモ内務当局ニ対シ協議ノ結果夫々可然手配中ニ有之候ニ付右事情篤ト御了承ノ上出来得ヘクムバ貴社側ノ御斡旋ニ依リ可成同氏ヲシテ

第一二三九号（極秘）
（十一月二十日 接受）
天津発本使宛電報第一九五号ニ関シ乗船スル迄何處ニ在リタルヤ承知ナラバ電報アリタキ旨天津ヘ電報シ置キタル処左ノ通返電ニ接セリ御参考迄尤モ陸軍側等トノ御話ニ本電内容ヲ引カルル場合ニハ聞込ノ出処ハ秘セラルル様致シタ

津總領事ヨリ報告越ノ件

第一二三九号（極秘）

（十一月二十日 接受）

天津発本使宛電報第一九五号ニ関シ乗船スル迄何處ニ在リタルヤ承知ナラバ電報アリタキ旨天津ヘ電報シ置キタル処左ノ通返電ニ接セリ御参考迄尤モ陸軍側等トノ御話ニ本電

内容ヲ引カルル場合ニハ聞込ノ出処ハ秘セラルル様致シタ

第一九六号

二 右來翰認文

貴電第一三四号ニ閔シ當地吉田洋行方高木正義ノ大鷹ニ語

ル所ニ依レバ十四日夜十二時著ノ汽車ニテ小野寺主計正ガ

北京ヨリ帰著シ特ニ自動車ヲ予メ要求シタル由ナル處日本

郵船会社支店長ノ江戸ニ語ル所ニ依レバ徐樹錚外二名ヲ同

支店長ニ託シタル者ハ小野寺主計正ナル由ナルニ付内々再

ヒ同支店長ニ確メタル處汽船ハ矢張リ高砂丸（前電花咲丸

トセシハ誤）ニテ同船ヘ乗込ムニハ憲兵隊長以下數名ノ憲

兵私服ニテ護衛シ尚小野寺ハ大連迄同行シ別ニ大倉洋行ノ

増永、園田ノ二名横浜迄同行スル予定ナル由ナルヲ以テ十

四日夜ヨリ十六日迄徐ノ在リタル場所ハ小野寺ノ宅カ若ク

ハ大倉洋行速水ノ宅ナルヘシト推測セラルモ速水ハ昨日

北京ニ赴キタルニ付未タ此点ハ突留ムルコトヲ得ズ（二十

日）

四四九 十一月二十一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

徐樹錚脱出ニ閔シ外交總長ヨリ来照ノ件

附屬書一 十一月二十日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛來
輪写

日

甲号 十一月二十日附外交總長來輪写
乙号 同訳文
(附屬書一)
甲号
十一月二十日附外交總長來輪写
使字第五六号
照会
外交總長顏為照會事准十一月十六日
貴公使照會以收容

貴館護衛隊宮内之徐樹錚於十四日晚十五日晨之間逃出該処等因閱悉之下曷勝訖異查該徐樹錚逃匿

貴館護衛隊當内前准

貴公使八月九日來照當經本部以該徐樹錚及曾毓雋等係犯有

軍事上及刑法上之重大犯罪奉有明令通緝於八月二十二日照請轉飭毋得放任或指引各該犯逃匿他處俾得歸案訊辦且八月

九日

貴公使來照會聲明對於以上諸人嚴重告諭在收容所內不得干預一切政治並使與外界斷絕交通

貴公使館固已完全負監視之責乃竟任此首要之人忽然逸去是貴公使館不克始終踐前照之言實有虧負本國政府之處應以公文向本國政府表示遺憾

(一) 貴館護衛隊既有防視徐氏等之責而於徐氏失蹤情形未嘗預先注意事後僅以揣測之詞報告

貴公使是其疏於防範不克盡其職務甚為明瞭自應有相當之處分

(三) 現值時局緊要徐氏逸去以後將來在國內或國外貴國勢力範圍之内倘有何種活動因而發生不良影響或累及地方治安或妨及國際商務之類均應由

貴國負其責任

(四) 徐氏既因

貴館護衛隊當不能盡防視之職致令逃逸為預防此等事件之

再行發生其餘曾毓雋等八人自未便仍留

貴館護衛隊當内收容應請依照本國政府之要求將其一律引渡以便歸案辦理除電本國駐東京胡公使向

貴國政府為同樣之声明外相應照會

(一) 貴公使前次來照既稱對於徐氏等在收容地點内不令干涉

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四四九

五六八

機密第四五八號

(十一月二十六日接受)

大正九年十一月二十一日

在支那

特命全權公使 小幡酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

關係電報

往電第一二四三三號

徐樹錚脱出ニ閔シ外交總長ヨリ来照ノ件

本件ニ閔シ左記書類及送付候也

書類要目

甲号 十一月二十日附外交總長來輪写

乙号 同訳文

(附屬書一)

甲号

十一月二十日附外交總長來輪写

使字第五六号

照会

外交總長顏為照會事准十一月十六日

貴公使照會以收容

五六九

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國九年十一月二十日

(附屬書二)

乙号

外交總長來翰訳文

使字第五六号照会

以書翰致啓上候陳者十一月十六日附貴公使照會ニヨレハ貴館護衛隊内ニ收容ノ徐樹錚ハ十四日晚ヨリ十五日朝迄ノ間ニ該所ヲ逃出シタリ云々ト有之之ヲ閲読シテ怪訝ニ勝ヘズ

候査スルニ徐樹錚ノ貴館護衛隊内ニ逃匿スルヤ前ニ貴公使八月九日附照會ニ對シ本部ハ徐樹錚及曾毓雋等ハ軍事上及刑法上ノ重大犯罪ヲ犯シ逮捕ノ明令ヲ奉シ居ルニヨリ八月二十二日附ヲ以テ或ハ之ヲ放任シ或ハ之ヲ指引テ他所ニ逃ケ匿クルナク以テ訊判ニ使セシメラレタキヲ請求シ且ツ八月九日貴公使ノ照會ニハ曾テ以上ノ諸人ニ對シテハ嚴重ニ告誡シ收容所内ニ在ッテハ一切ノ政治ニ干預セス並ニ外面トノ交通ハ完全ニ断絶シアル旨ヲ声明シアルニ今ヤ該徐樹錚ハ竟ニ貴國護衛隊内ヨリ逃出スヲ得タルハ惟タニ我国

(一) 貴公使前次ノ照會ニハ既ニ徐氏等ニ對シテ收容地點内ニ在ッテ一切ノ政治ニ干与セス並ニ外界ト交通ヲ断絶スト

称セハ貴公使館ハ固ト已ニ完全ニ監視ノ責ヲ負ヒタルモノナルニ乃チ竟ニ此首要ノ人ヲシテ忽然逸去セシメタリ是貴公使館ハ始終前照會ノ言ヲ踐ム能ハサルモノ実ニ我國政府虧負所アリ応ニ公文ヲ以テ我國政府ニ對シ遺憾ヲ表示スヘシ

(二) 貴館護衛隊ハ既ニ徐氏等ヲ防視ルノ責アルニ徐氏失踪ノ情形ヲ未タ嘗テ預メ注意セス事後ニ揣測ノ詞ヲ以テ貴公使ニ報告ス是レ其ノ防範ニ疏ニ其職務ヲ尽ス能ハサル甚シムコトナキ様要求シ又本使最初ノ通告ニ一切政治ニ干与セシメズ又外部トノ交通ヲ完全ニ絶タシメアル旨声明シアルニ拘ラズ今脱出ノコトアルハ支那政府ノ意外トスル所ナルノミナラズ徐カ本使ニ当初ニ於ケル保護ノ要求ヲ撤回シテ退去センコトヲ述ヘタルハ其意逃走ニアルコト想像ニ難カラズ護衛隊ハ正ニ注意シテ其脱出ヲ阻止スヘキ筈ナリ尚十五日朝脱出ヲ発見シナガラ十六日午後ニ至リ通告外交部ニ達シタルハ殊ニ解シ難シト前提シタル後大要左ノ四項ヲ要求シ来レリ

(一) 前記本使ノ声明ニ照シ公使館ハ素ト完全ニ監視ノ責ヲ負ヒタルモノニシテ即チ支那政府ニ虧負スル所アルニ付公文ヲ以テ同政府ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルコト

(二) 護衛隊防範ニ疎ニシテ其職務ヲ竭又能ハザルコト甚タ明瞭ナルヲ以テ応ニ相当ノ处分アルヘキコト

(三) 今ヤ時局緊要ノ際逸去後将来国内又ハ国外日本勢力範囲内ニ於テ若シ何事カノ活動アリ不良ノ影響ヲ生シ或ハ累ニ地方ノ治安ニ及ホシ或ハ妨ヲ國際商務ノ類ニ及ホサン

タ明瞭タリ自ラ応ニ相当ノ処分アルヘシ
 (三) 今ヤ時局緊要ノ際徐氏逸去後将来国内或ハ国外ノ貴國勢力範囲内ニテ倘シ何等カノ活動アリ因ツテ不良ノ影響ヲ發生シ或ハ累ニ地方ノ治安ニ及ホシ或ハ妨ヲ國際商務ノ類ニ及ホサンカ均シク応ニ貴國ニテ其責任ヲ負フヘシ

(四) 徐氏ハ既ニ貴館護衛隊當ニテ防視ノ職ヲ尽ス能ハス逃逸セシムルヲ致シタルハ此等事件ノ再發生ヲ預防スル為其余ノ曾毓雋等ノ八人ハ自ラ未タ貴館護衛隊營内ニ留容スルニ便ナラス応ニ請フ我國政府ノ要求ニ照ラシ一律ニ引渡サレ以テ帰案辦理ニ便セラレンコトヲ

一面東京駐在ノ胡公使ニ電命シ貴國政府ニ對シ同様ノ声

明ヲ為サシムヘク此段照會得貴意候 敬具

民国九年十一月二十日

小幡公使閣下

顏外交總長

四五〇 十一月二十一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚脱出ニ關シ外交總長ノ抗議ニ對スル回答
振請訓ノ件

第一二四三号

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四五〇

カ日本國心ニ其責任ヲ負フヘキコト

(四) 残留八名ノ再ヒ脱出セントヲ予防スル為之等ハ護衛隊ニ留容スルニ便ナラザルニ付一律引渡シ以テ帰案辦理ニ便セラレタキコト

尚最後ニ一面胡公使ヲンテ帝国政府へ同様申入ヲ為サシムヘキ旨附記シアリ就テハ或ハ既ニ同公使ヨリ閣下へ申出済カト思考セラルル処右來照ニ對シテハ本使ニ於テモ遲滞ナク回答スルコト可然カト存スルニ付右回答振折返シ御電訓ヲ請フ右ニ閔スル卑見別ニ電報ス上海、廣東へ転電シ南京、天津、漢口、奉天、吉林、哈爾賓へ郵送セリ

四五一 十月二十二日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚ノ脱出ニ関シ中國側抗議ニ對スル回答

振ニ付意見具申ノ件

第一二四四号(至急) (十一月二十二日接受)

往電第一二四三号ニ閔シ外交總長書翰ニ對シテハ先づ先方ノ前文ヲ受ケ当初徐以下九名ヲ収容シタルハ皆彼等ノ請求ニ基キ之ニ依ッテ受諾シタルニ過ギザル故ニ彼等ニシテ其請求ヲ放棄シ當館保護外ニ退去スルニ於テハ之ヲ強制的ニ

阻止スベキ限ニアラズ貴国政府ニ於テ公使館区域各門ニ巡警ヲ配置シ嚴重監視セラレ來リタルハ貴国政府又此ノ理ヲ知悉セラレ居ルガタメト信ズ先ニ八月二十二日附貴總長照会ニ依リ追テ之ガ引渡ヲ求ムベキニ付之ヲ放任シ又ハ逃げ隠レシメザル様希望セラレタルモ引渡自体ニ付テ既ニ之ヲ拒絶シタル以上言其余ノコトニ及バザリンノミ又八月九日附本使公文中ニ収容所内ニ於テ一切ノ政治ニ干与セシメズ又外部トノ交通ヲ全然絶タシメアルコトヲ声明シタルハ之正ニ其通実行シ來リタル所ナリ即右ハ其収容所内ニアル間ノコトヲ云ヘルモノニシテ其最初申出デタル保護ノ請求ヲ撤回又ハ放棄スル場合ニ本使ニ於テ之ヲ阻止スルコト能ハノ理ト何等抵触スル所ナシ將又既ニ之ヲ阻止スルコト能ハザル以上監禁又ハ其他ノ方法ニ依リ之ガ自由ヲ束縛スルコト能ハズ徐ガ巧ニ兵營當局ノ眼ヲ晦マシ其脱出ヲ遂行シタルニ對シ一面貴國政府ニ於テ之ヲ不当トナシ同氏ニ對シ如何ナル措置ニ出デラルルモ本使ノ閔知セザル所ナルモ之ヲ以テ我方ヲ責メラルハ些カ見當違タルヲ免カレズ尚本使ノ通告少シク遅レタルハ事ノ重要ナルニ鑑ミ脱出前後事実ノ確査及ビ右通告ノ準備等ヲ最モ慎重ニセントシタ

ルガタメ止ムヲ得ザルニ出デタル次第ナルコト先ニ親シク面陳セル通ナリトノ趣旨ヲ述ベタル上先方要求条項ニ対シテハ
(一) 前記ノ理由ニ依リ遺憾表示ノ要求ニ応ズルコトヲ得ザルコト
(二) 之亦前記ノ通護衛隊処分ノ理由ナキコト

(三) 本使ニ於テ徐ノ退去ヲ積極的阻止スベキ権利義務共ニ之ナキ以上其ノ脱出後ハ万事当然其ノ当館収容以前ノ事態

ニ復帰シタルモノトシテ其ノ後ノ事柄ニ閔シ帝國政府ニ於テ当然責ニ任ズベキ理由ナシ況シヤ今日斯クノ如キ仮想ノ場合ニ閔シ何等回答ヲナスベキ筋合ニアラズ

(四) 本使ニ於テ一旦國際ノ通義ニ基キ他ノ八氏ヲ収容シ居ル以上之ガ引渡ノ要求ニ応ズルコト能ハザルハ曩ニ既ニ貴総長ノ照会ニ對シテ答ヘタル所ト同様ナルト同時ニ右八氏ニ於テ若シ其ノ当初ノ請求ヲ抛棄シ當館ノ保護下ヲ離レムトスル場合ニ本使ニ於テ強ヒテ之ヲ阻止スルヲ得ザル境涯ナルコト前述ノ通ナル以上貴國政府ニ於テ予防ヲ必要ト認メラルナルナラバ將ニ自ラ貴國警察ヲ督励シテ之ニ備ヘラルルコソ然ルベケレバ本使ハ茲ニ再ビ帝國政府

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四五二

第六七八号 極秘至急
貴電第一二三九号接到ニ先チ徐ハ二十日大連出帆高砂丸ニ便乗二十二日長崎ニ入港スヘシトノ報ニ接シタル処若シ同人ニシテ長崎ニ上陸スルカ如キアリテハ到底秘スルヲ得ス終ニ其ノ日本ニ亡命セル事實一般ニ知レ渡ルヘキハ明ナルヲ以テ益々我立場ヲ困難ナラシムル次第ニ付從来ノ行懸上徐個人ニ対スル私情ニ於テハ忍ヒ難キモノアルモ此際同人ノ長崎上陸ハ絶対ニ之ヲ拒否スルコトニ決シ右ニ對スル措置方ニ就キ内務當局ト協議ノ上地方官憲ニ必要ノ電訓ヲ發

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四五三

五七四

セシムルト同時ニ一面郵船会社ニ対シテモ長崎ニ上陸セン
ムルコト無ク本人ノ希望如何ニ依ツテハ直ニ他ノ便船ニ転
乗セシメ（唯今ノ処多分花咲丸ニ乗換大連ニ復航スルナラ
ン）何レカ他ノ方面へ亡命セシムル様斡旋方指示シ置ケリ
尚且下飯朝中ノ大倉組河野徐樹錚ヨリ予テ依頼ヲ受ケ居ル
趣ニ付同人モ長崎ニ赴カシメ上述政府ノ意ヲ御ミ万事斡旋
ノ労ヲ採ラシムルコトトセリ
本件措置方ニ付テハ為念陸軍側トモ打合セ済ナリ不取敢御
含迄
天津ヘ転電アリタシ

四五三 十月二十二日 埼原外務次官
在本邦中國臨時代理公使會談

徐樹錚脱出ニ関シ在本邦中國臨時代理公使ヨ

リ抗議ノ覚書提出ノ件

附屬書 右覚書

徐樹錚脱出問題ニ付十一月二十二日支那公使館王參事官埴
原次官ヲ來訪シ別紙覚書ヲ提交シタル上本件覚書ハ同時ニ
小幡公使ニモ交付セラレタル旨ヲ述ヘタルニ付次官ハ委曲
ハ右覚書ヲ閱悉スルニ非ザレハ本件ニ關シ談合シ難キモ第
一徐氏ノ脱出ヲ以テ日本公使館ノ責任ナリト為スハ頗ル謂

ハレ無キ次第ニシテ日本公使館ニ於テハ徐氏カ支那法權ノ
及バザル公使館区域内ニ竄入シ我公使館ニ來テ一身上ノ保
護ヲ求メタルニ付國際ノ通義ト幾多ノ慣例ニ基キ其ノ情願
ヲ容レテ庇護ヲ与ヘタルニ過キズシテ本人カ其ノ保護ノ情
願ヲ撤シ自ラ我公使館及公使館区域ヲ退去セルニ対シテハ
我方ニ於テ何等責任ヲ負荷スヘキ限ニ非ズ只徐氏カ支那法
權ノ及ハサルニ乘シ其ノ利惠ヲ濫用シテ種々陰謀的劃策ヲ
巡ラスカ如キハ断シテ之ヲ認容シ難キ所ナルヲ以テ取容ト
同時ニ一切政治ニ干与スヘカラサルコトヲ嚴重戒告シ且全
然外部トノ交通ヲ断タシメ爾來嚴重之ヲ励行シ来レル次第
ナリト説示シタルニ王參事官ハ実ハ支那政府ハ当初小幡公
使ヨリ徐樹錚等收容ノ通告ニ接スルヤ折返シ曰ニ同人カ護
衛隊兵當内ニ收容セラレタル以上放任又ハ該犯人等ヲ手引
シテ他所ニ逃匿セシメザル様警飭セラレ度旨ヲ照覆シタル
ニ対シ當時小幡公使ヨリ何等回示ニ接セズ旁々右支那側來
照ヲ默認セラレタルモノト認メ居ル次第ナル旨述ヘタルニ
付次官ハ开ハ頗ル其ノ意ヲ得ザル次第ニシテ我方庇護ノ由
來理由等ニ至ツテハ已ニ上述ノ如クニシテ我方ニ於テ本人
等ノ任意退去ヲ阻止スヘキ義務無キコト明白ナル以上前記

支那側來照ニ対シ敢テ照覆ノ理由無キ所以ヲ説示シ置キタ
リ
(附屬書)

十一月二十二日在本邦中國臨時代理公使王鴻年持參覺書

本月十六日日使照會收容日本護衛隊營内之徐樹錚事件向該
使申請撤回保護忽於十四日晚十五日晨之間逃逸等因查徐樹
錚等犯有軍事上刑事上重大犯罪係奉令通緝日使將渠等收容
曾來照聲明使其不得干預政治并与外面交通完全斷絕部復照
請勿放任或指引各該犯逃逸在案近既意存逃逸向該使有所申
請日本護衛隊當意毫不加意防範且逃逸後遲至十六日該使照
會到部現向該使提出辦法四条(一)日使前照稱徐樹錚在收容
地點内不令干預一切政治與外界斷絕交通固已完全負監視之
責乃竟任徐氏逃去該使不克始終踐前照之言實有虧負本國政
府之處應以公文向中國政府表示遺憾(二)日本護衛隊當有防視
之責事前既未注意事後僅以揣測之詞報告日使其疏於防範不
克尽其職務應有相當处分(三)現時局緊要将来徐氏在国内国外
日本勢力範圍内有何活動致發生不良影響累及地方治安妨及
國際商務等均應由日本負責(四)日本護衛隊當不能收容此等情
事應即將其余曾毓雋等八人引渡等語希向日政府同樣聲明

一、日本公使ハ前ニ徐樹錚ハ收容地點内ニ在リ一切政治ニ
干預セシメズ外界ト交通ヲ断絶スト照會セラレ固ヨリ已
ニ完全ニ監視ノ責任ヲ負ヘリ
然ルニ竟ニ徐氏ヲ逃逸スルニ任シ該公使ハ終始シテ前ニ
照會ノ言ヲ踐ム能ハズ実ニ本国政府ニ負クノ点アリ依テ
提出ス

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四五三

五七五

公文ヲ以テ中国政府ニ向ッテ遺憾ヲ表示ス可キナリ

二、日本護衛隊當ハ防止監視ノ責任アリ然ルニ事件發生前

ニハ既ニ未ダ注意セズ事件發生後ハ僅ニ揣測ノ詞ヲ以テ

ズ相當処分ヲ受ク可キナリ

日本公使ニ報告セリ其防範ニ疏ンジテ其職務ヲ尽ス能ハ

日本ニ於テ何等ノ活動ヲナシ不良ノ影響ヲ發生シテ累ヲ

地方治安ニ及ボシ國際商務等ニ妨害ヲ及ボストキハ都テ

日本ニテ其責ヲ負フ可キナリ

四、日本護衛隊當が収容ノ出来ザル此等ノ事情ニ對シテ直

ニ其他ノ曾毓雋等八人ヲ引渡ス可シ云々

日本政府ニ向テ同様ニ声明セラレンコトヲ希フ

日本ニテ其責ヲ負フ可キナリ

四五四 十一月二十三日 内田外務大臣宛 在中国小幡公使ヨリ

徐樹錚ノ脱出ニ関シ鎌田護衛隊長ヨリ南司令

官密第四六四号 官二提出セル顛末書写送付ノ件

附屬書 右顛末書

機密第四六四号 (十一月二十九日接受)

大正九年十一月二十三日

十一月十四日夕刻船津總領事來訪シ吾等収容

者一同ト共ニ飲酒シタル際徐樹錚ハ頗ル昂奮ノ態度ヲ以

テ日本官憲ノ最早ヤ頼ムニ足ラザルヲ詰リ船津總領事ニ

対シ激論セリ船津氏辭去ノ後モ尚彼ハ多量ノ葡萄酒ヲ傾

ケ酩酊シテ午後九時頃寝ニ就キタリ翌朝王氏ハ彼ノ起キ

来ラザルニ氣付キタルモ前夜飲酒ノ結果朝寝ゼンモノト

思ヒ最初ハ別段怪ミモセザリングガ午前九時半頃ニ至ルモ

尚未起キ来ラザルヲ以テ彼ノ居室ヲ窺ヒ見タルニ彼ハ不

機密第四六四号 (十一月二十九日接受)

十一月二十三日 徐樹錚ノ脱出ニ関シ鎌田護衛隊長ヨリ

官密第四六四号 官二提出セル顛末書写送付ノ件

附屬書 右顛末書

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

徐樹錚ノ兵當脱出ニ関スル件

本件ニ關シ鎌田護衛隊長ヨリ南司令官へ提出セル顛末書写

茲ニ及御送付候間御查閱相成度此段申進候也

本信写送付先 天津

(附屬書)

鎌田護衛隊長ヨリ南司令官ニ提出セル徐樹錚氏脱出顛末書写

徐樹錚氏ハ十一月十四日夜ヨリ十五日朝ニ至ル間行衛不明トナレリ其顛末左ノ如シ

一、十一月十四日夕ヨリ十五日朝ニ至ル状况

王氏ノ言ニ依レハ十四日夕刻船津總領事來訪シ吾等収容

者一同ト共ニ飲酒シタル際徐樹錚ハ頗ル昂奮ノ態度ヲ以

テ日本官憲ノ最早ヤ頼ムニ足ラザルヲ詰リ船津總領事ニ

対シ激論セリ船津氏辭去ノ後モ尚彼ハ多量ノ葡萄酒ヲ傾

ケ酩酊シテ午後九時頃寝ニ就キタリ翌朝王氏ハ彼ノ起キ

来ラザルニ氣付キタルモ前夜飲酒ノ結果朝寝ゼンモノト

思ヒ最初ハ別段怪ミモセザリングガ午前九時半頃ニ至ルモ

尚未起キ来ラザルヲ以テ彼ノ居室ヲ窺ヒ見タルニ彼ハ不

機密第四六四号 (十一月二十九日接受)

十一月二十三日 徐樹錚ノ脱出ニ関シ鎌田護衛隊長ヨリ

官密第四六四号 官二提出セル顛末書写送付ノ件

附屬書 右顛末書

機密第四六四号 (十一月二十九日接受)

十一月二十三日 徐樹錚ノ脱出ニ関シ鎌田護衛隊長ヨリ

官密第四六四号 官二提出セル顛末書写送付ノ件

三、最近ニ於ケル彼ノ精神状態

最近ニ於ケル彼ノ精神状態ハ表面甚^タ平静ナルカ如カリ

シモ彼力兵當退出ノ希望意ノ如クナラサルヤ其ノ神経ハ

益々過敏トナリ其結果彼ノ最モ敬服セル友人王祝三氏ニ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四五五

五七七

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四五六

得ズ二十八日上海行使船アル迄管下南高来郡小浜村ニ潛伏セシムルコトニ決シ尾行ヲ附シ本日午後二時出発セシメタリ

四五六 十一月二十四日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

徐樹錚脱出ニ関スル中国政府ノ抗議ニ対スル

回答案ニ付回訓ノ件

至急 第六八二号

貴電第一二四三号ニ閑シ十一月十二日在本邦支那公使館ヨリモ其ノ内容貴電ト同一ノ節略ヲ接受セリ右支那側來照ニ對スル回答振ハ大体貴電第一二四四号ノ趣旨ニテ異存無キモ貴電ノ如ク細事ニ亘リ一々弁解的説明ヲ与フルノ煩ヲ避け寧ロ支那側今次ノ來照カ貴官迭次ノ通告乃至声明ニ対スル誤解ニ胚胎スルモノ不尠ヲ遺憾トスル旨ヲ前提トシ進ムテ徐樹錚等收容ノ動機及由來ヲ反覆シ本人カ自ラ其ノ保護ノ情願ヲ撤シ任意ニ脱出スルニ対シテハ日本公使館ニ於テ特ニ責任ヲ負フヘキ理由ナシ只彼等カ公使館内庇護中之ヲ濫用シテ種々陰謀的画策ヲ巡ラスカ如キハ断シテ許容シ難キ所ナルヲ以テ收容ト同時ニ一切政治ニ干与スヘカラサル

コトヲ嚴重戒告シ且右收容中全然外部トノ交通ヲ断タシメ爾來嚴重之ヲ励行シ來レル次第ニシテ要スルニ公使館ニ於テハ右以上彼等ノ脱出ヲ強制的ニ阻止スヘキ責任無キト同時ニ予メ監禁其他ノ方法ニ依リ之ヲ拘束スルノ措置ニ出テ難キハ論ヲ俟タサル所ナリ況ノヤ公使館ニ於テハ徐カ退去ノ意思アルヲ認ムルヤ切実其ノ反省ヲ促シタルモ竟ニ兵營ナル警備ヲモ巧ニ突破シ脱走ヲ敢テスルニ至レルモノニシテ何レノ点ヨリ見ルモ我方ニ於テ支那政府ニ対シ責任ヲ負フヘキモノニ非ス将又本来貴官ニ於テハ徐ノ脱走ヲ支那側ニ通告スヘキ当然ノ責務ヲ負フモノニ非スト雖ニ邦交ノ大局ニ顧ミ遲滞無ク事實ヲ率直ニ通報セルモノナリ而シテ當時貴官ニ於テハ護衛隊長ヨリ徐脱走ノ報告ニ接スルヤ事ノ慎重ヲ期セムカ為メ更ニ當時ノ情形ヲ確カメタル上遲滞無ク支那政府ヘ通告ノ手続ヲ執レルモノニシテ其ノ間何等他意アルニ非ス然ルニ之ヲ以テ故ラニ通告ヲ遲延セシメタルモノト推スルカ如キハ誣妄ノ甚シキモノト謂ハサルヘカラストノ趣旨ヲ前文トシ事情斯ノ如クナルヲ以テ先方要求条項中()及()ノ如キハ我方ニ於テ支那政府ニ対シ何等責任

四五七 十一月二十六日 内田外務大臣ヨリ
田中陸軍大臣宛

徐樹錚脱出前後ノ情形ニ閑シ出先当局ヨリ詳
細ノ報告ヲ徵セラレ度旨照会ノ件

亞一機密送第一三二号

徐樹錚脱出ニ閑スル件

本來應答スヘキ筋合ニ非ス只隣邦ノ敦睦ニ顧ミ支那側ノ危惧カ真ニ一片ノ杞憂ニ終ラムコトヲ熱望シテ煩マサル旨ヲ附言シ次ニ四他政治犯人ノ引渡方ニ付テハ元來法理ト人道ト更ニ幾多ノ慣例トニ基キ彼等ヲ收容スルニ至レル嚴正ナル方針ハ徐一人ノ脱出ニ依リ何等変更スヘキモノニ非ストシテ貴電御来示ノ通叙述シタル上最後ニ收容中依然外部トノ交通ヲ断タシムヘキハ勿論ナルモ右ハ未タ以テ支那政府ニ代ツテ彼等ヲ監禁シタルモノニ非ス又監禁スヘキモノニモ非ス再ヒ誤解ナキヲ望ム之レ曩ニ支那政府ヨリ八月二十二日付公文ヲ以テ放任又ハ逃匿セシメサル様照会ニ接シタルニ対シ何等覆答ノ要無シト認メタル所以ニ外ナラサル旨附言シ置カルル様致度シ

尚本件回答ハ貴官ヨリ外交部ニ送致セラルト同時ニ其ノ内容ヲ当地支那公使ニ通告シ且往復文書ノ内容ヲ公表スルコトニ取計度ニ付確定回答案並發送日取予メ電報アリ度ク且右要領必要ト認ムル在支領事ヘ電報方可然取計ハレタシ

四五八 十一月二十六日 在中国小幡公使宛(電報)

徐樹錚脱出ニ閑シ十一月二十七日中国政府ヘ

提出スベキ回答文電報及右ヲ二十九日公表ス

ベキ旨報告ノ件

別電

同日在中国小幡公使館内田外務大臣宛電報第一

二五八号

右回答文

第一二五七号

(十一月二十六日接受)

貴電第六八二号ニ關シ別電第一二五八号ノ通十一月二十七日附公文ニテ同日中ニ外交總長ヘ申入ル可シ尤モ二十八日公表スルモ二十九日月曜日ハ休刊ノ外字新聞多キニ付反対ノ電訓無キ限リ二十九日公表シ三十日ノ新聞ニ掲載セシムル様致ス可シ

尚貴電中「殊ニ公使館区域外ニ於ケル」云々ハ徐ガ既ニ公使館区域以外ニ在ル事ヲ前提トスルモノニシテ些カ如何カト考へ全体ノ意味ヲ変更セザル範囲ニ於テ少シク字句ヲ改メタリ念ノ為メ申添フ

別電上海天津ヘ郵送

(別電)
十一月二十六日在中国小幡公使館内田外務大臣宛電報第一二五八号

徐樹錚脱出ニ關シ中国政府ニ提出スベキ回答文

第一二五八号 別電

(十一月二十六日接受)

ニ退去ノ意思アルヲ知ルヤ切実ニ其反省ヲ求メタルニ拘ラズ遂ニ兵營當局ノ目ヲ晦マシ脱出ヲ遂行シタル以上公使館区域各門守護ノ貴国警察官憲ハ現実其職責ノ重キヲ加ヘタル次第ナルヘキモ本使乃至帝国政府ニ於テ右脱出ニ關シ貴國政府ニ對シ其責ニ任スヘキ理更ニ無之候將又本来本使ニ於テハ徐氏ノ脱出ヲ貴国政府ニ通告スヘキ当然ノ責務ヲ負フ次第ニ無之モニニ邦交ノ大局ニ顧ミ曩ニ其收容ヲ通告シタルト同一ノ精神ヲ以テ事実ヲ率直ニ通告シタル次第ニ有之而モ事ノ慎重ヲ期センガ為脱出後ノ情況ヲ確查シ然ル後遲滯無ク通告ノ手続ヲ取リタルモノニシテ其間何等他意アル次第ニ無之候

事情以上ノ如クナルヲ以テ貴照會所載要求各項中(一)及(二)ニ關シテハ貴国政府ニ對シ何等責任ノ問題ヲ生スルコト無之又(三)ニ付テハ既ニ本使ニ於テ徐氏ノ退去ヲ阻止スヘキ権利義務共ニ無之以上其ノ脱出後ハ万事当然其ノ当館收容以前ノ事態ニ復帰シタルモノニシテ其後ノ事柄ニ關シ帝国政府ニ於テ当然其ノ責ニ任スヘキ理ナク況ヤ今日此ノ如キ場合ニ關シ何等回答ヲ為スヘキ限ニ無之候但シ隣交ノ敦睦ニ顧ミ貴国政府ノ危惧カ真ニ一片ノ杞憂ニ終ランコトハ素ヨ

以書翰啓上致候陳者徐樹錚氏當公使館護衛隊兵營脱出ニ關スル十一月十六日附本使照會ニ對シ同二十日附貴照會ヲ以テ御申越ノ趣閲悉右ハ早速帝国政府ニ及電報置候処今般右ニ對シ回訓接到致候查スルニ右貴照會ノ次第八徐氏外八名ノ收容ニ關聯セル本使從來ノ措置及声明ニ對スル貴国政府ノ誤解ニ胚胎スル点少カラズ之帝国政府ノ先以テ遺憾トスル所ニ有之候抑徐氏等ヲ當館護衛隊兵營ニ收容シタルハ最初同氏等ニ於テ任意當館ニ來リ其保護ヲ請ヒタルカ為本使ニ於テ國際ノ通義殊ニ支那ニ於ケル幾多ノ前例ニ鑑ミ之ヲ容レタルニ外ナラズ同氏等ニシテ再ヒ任意ニ其當初ノ請求ヲ撤回シ當館ノ保護ヲ離レ自ラ貴國官憲逮捕ノ危険ヲ冒サントスルニ於テハ本使ニ於テ強制的ニ之ヲ阻止スヘキ謂無之候尤同氏等ニシテ苟クモ當館内ニ在ル間ハ當館ノ庇護ヲ濫用シテ陰謀的企画ヲ廻ラスガ如キハ断シテ許容スヘカラサル所ナルガ故ニ右收容ト同時ニ同氏等ニ於テ一切政治ニ干与スヘカラサルコトヲ嚴重戒告シ且收容中外部トノ交通ヲ断タシメ爾來之ヲ励行シ来レル次第ニ有之候モ公使館トシテ右以上予メ監禁其他ノ方法ニ依リ之ヲ拘束スルノ措置ニ出デ難キハ論ヲ俟タサル所ニ有之況ヤ當館ニ於テハ徐氏

四五九 十一月二十六日 在天津船津總領事内田外務大臣宛(電報)

長崎着ノ徐樹錚上田ノ偽名ニテ天津大倉組支

店宛電報ノ内容報告ノ件

別電 同日在天津船津總領事内田外務大臣宛電報第三五四号

右天津大倉組支店宛電報内容

第三五三号 極秘 (十一月二十七日接受)

徐ハ上田兵衛ト偽名シ居ル由ナルカ十一月二十六日同人ヨリ当地大倉支店ヘ同店暗号ニテ別電ノ通入電アリタル由在支公使ヘ転電セリ

(別電)

十一月二十六日在天津船津總領事内田外務大臣宛電報第三五四号

長崎着ノ徐樹錚ヨリ天津大倉組支店宛電報ノ内容

第三五四号 極秘 (十一月二十七日接受)

駐屯軍小野寺主計正ヲ經テ南司令官ニ伝ヘヨ

小生一昨朝長崎ニ到着シタルニ県庁ヨリ外事課々長ヲ出張セシメ内務省ヨリ照会アリ上田ヲ上陸セシメテハ外国新聞

別電

十一月二十六日在天津船津總領事内田外務大臣宛電報第三五五号

長崎着ノ徐樹錚ヨリ天津大倉組支店宛電報ノ内容

第三五五号 極秘 (十一月二十七日接受)

小生一昨朝長崎ニ到着シタルニ県庁ヨリ外事課々長ヲ出張セシメ内務省ヨリ照会アリ上田ヲ上陸セシメテハ外国新聞

ニ日本攻撃ノ材料ヲ与フルモノニ付上陸ヲ断念シテ支那ニ

帰レト云フ両国間ニ重要ナル関係ヲ有スル小生ナラズ斯ノ

如キ処置ハ穩当ナラズト認ムルモ一先ヅ十一月二十八日ノ

便船ヲ待ツコトニシテ小浜ニ来リ上原、金谷閣下ニ尽力ヲ

依頼スルコトニシタレドモ右ノ次第御報告スルト同時ニ閣

下ノ同情ニ依リ閣下電信ヲ上原閣下ニ打電シテ上陸出来ル

様御尽力ニ与リタシ 上田在支公使ヘ転電セリ

四六〇 十一月二十九日

日本外務省ヨリ 在本邦中國公使館宛

徐樹錚ノ脱出ニ関スル在本邦中國公使館ノ覚

書二対シ回答ノ件

覚書

十一月二十二日在本邦支那公使館參事官王鴻年氏ヨリ埴原外務次官ニ手交セラレタル徐樹錚氏脱出事件ニ關スル節略ヲ聞悉セリ然ルニ右節略所述ノ趣旨カ其ノ根本ニ於テ徐氏外八名ノ収容ニ関聯セル在支日本公使從來ノ措置及声明ニ對スル支那政府ノ誤解ニ胚胎スル点謬カラサルハ先以テ帝國政府ノ頗ル遺憾トスル所ナリ抑モ徐樹錚氏等ヲ日本公使館護衛隊兵営内ニ収容シタルハ当初同氏等ニ於テ任意日本

公使館ニ來テ其ノ保護ヲ懇請シタルカ為メ日本公使ニ於テ國際ノ通義殊ニ支那ニ於ケル幾多ノ先例ニ顧ミ之ヲ許容シタルニ外ナラス然ルニ同氏等ニシテ再ヒ任意ニ其ノ当初ノ請求ヲ撤回シ公使館ノ保護ヲ離レ自ラ支那官憲逮捕ノ危険ヲ冒サムトスルニ於テハ日本公使ニ於テ強制的ニ之ヲ阻止スヘキ謂レ無シ唯同氏等ニシテ苟クモ公使館内ニ在ル間其ノ庇護ヲ濫用シテ陰謀的企画ヲ廻スカ如キハ断シテ許容スヘカラサル所ナルヲ以テ右収容ト同時ニ一切政治ニ関与スヘカラサル旨ヲ嚴重同氏等ニ戒告シ且ツ右収容中外部トノ交通ヲ断タシメ爾來之ヲ励行シ來レル次第ナルモ公使館トシテ右以上予メ監禁其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ拘束スルノ措置ニ出テ難キハ論ヲ俟タル所ナリ況ムヤ日本公使館ニ於テハ徐氏ニ退去ノ意思アルヲ認ムルヤ切実其ノ反省ヲ促シタルニ拘ラス竟ニ兵營當局ノ眼ヲ晦マン脱出ヲ遂行スルニ至レル以上公使館区域各門守護ノ支那警察官憲ハ現実其ノ職責ノ重キヲ加ヘタル次第ナルヘキモ日本公使乃至帝国政府ニ於テ右脱出ニ關シ支那政府ニ対シ毫モ其ノ責ニ任スヘキ理由無シ将又日本公使ニ於テハ本来徐氏ノ脱出ヲ支那政
府ニ通告スヘキ当然ノ責務ヲ負フ次第ニ非サルモニ邦交

ノ大局ニ顧ミ曩ニ同氏等ヲ収容スルニ当リ之ヲ支那政府ニ通告シタルト同一ノ精神ヲ以テ事實ヲ率直ニ通告シタルニ過キス而モ事ノ慎重ヲ期セムカ為メ脱出後ノ情況ヲ確査シ然ル後遲滯無ク右通告ノ手続ヲ取リタルモノニ外ナラスニテ其ノ間何等他意アルニ非ス事情前顧ノ通ナルヲ以テ支那政府ノ所謂辦法条項中(一)及(二)ニ關シテハ支那政府ニ對シ何等責任ノ問題ヲ生スルコト無ク又(三)ニ付テハ既ニ日本公使ニ於テ徐氏ノ退去ヲ阻止スヘキ権利義務ヲ有セサル以上其ノ脱出敢行後ハ万事当然其ノ日本公使館収容以前ノ事態ニ復帰シタルモノニシテ爾後ノ事柄ニ關シ帝國政府ニ於テ当然其ノ責ニ任スヘキ理無ク況シヤ今日此ノ如キ場合ニ關シ何等回答ヲ為スヘキ限ニ非スト雖ニ隣邦ノ敦陸ニ鑑ミ支那政府ノ危惧カ真ニ一片ノ杞憂ニ終ラムコトハ素ヨリ特ニ熱望シテ止マサル所ナリ

若シ夫レ要求項四他諸氏ノ引渡方ニ關シテハ元來国際ノ通義ト人道ト更ニ又幾多ノ先例トニ基キ是等諸氏ヲ収容スルニ至レル嚴重ナル方針ハ徐氏一人ノ脱出ニ依リ何等変更スヘキモノニアラサルコト勿論ナリ即チ該殘留八氏ニ於テ等シク其ノ当初ノ請求ヲ撤回シテ日本公使館ノ保護ヲ離脱

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護二件 四六一

五八四

セムトスル場合ニ日本公使ニ於テ強テ之ヲ阻止スルヲ得サルコト前述ノ通ナル以上支那政府ニシテ之カ予防ヲ必要ト認ムルニ於テハ正ニ自国警察ヲ督励シテ之ニ備フルコト然ルヘク之力為メ日本公使館ニ於テ右八氏ヲ支那政府ニ引渡スヘキ理由更ニ無シ尤モ今後右八氏ニシテ日本公使館ノ保護下ニ在ル限りハ依然外間トノ交通ヲ絶チ一切政治ニ関与

セシメサルコト從来ノ如クナルヘキモ右ハ未タ以テ支那政府ニ代テ同氏等ヲ監禁シタルモノニ非ス又監禁スヘキモノニモ非サルハ勿論ニシテ而モ之レ曩ニ外交總長ヨリ八月二十二日附公文ヲ以テ徐氏等ヲ放任又ハ遁匿セシメサル様日本公使ニ照会アリタルニ對シ同公使ニ於テ単ニ引渡ノ要求ニ応シ難キ旨ヲ答フルニ止メ其ノ他ノ点ニ對シ何等言及セサリシ所以ナルニ付其ノ辺ニ付支那政府ニ於テ何等誤解無カラムコトヲ切望セサルヲ得ス

前叙述ノ次第ハ一方駐支日本公使ヨリ支那政府ニ照覆セシメタルモ尚ホ胡公使閣下ヨリモ之ヲ本国政府ニ転致シ以テ帝国政府ノ公正ナル立場ヲ告知セラレムコトヲ希望ス

大正九年十一月二十九日

四六一 十一月二十九日

内田外務大臣ヨリ
在在仏國公使
總領事代理
ガボール山崎
（電報）
各宛

徐樹錚脱出ニ關シ中国政府ヨリ抗議提出及右
抗議ノ理由無キ旨回答ノ件

合第二九六号

「情報」——往電合第二八〇号ニ閑シ十一月十六日附小幡公使ノ通告ニ対シ支那政府ハ十一月二十日公文ヲ以テ(一)曩ニ日本公使ハ徐樹錚等收容中一切政治ニ干与セシメス又外界トノ交通ヲ絶タシムヘキ旨ヲ声明シテ監視ノ責ヲ負ヒタルニ拘ラス今回徐ヲ忽然逸出セシメタルニ付テハ断シテ其ノ責ヲ免ルルヲ得サルニ付支那政府ニ對シ遺憾ヲ表示スベシ(二)特ニ日本公使館護衛隊ハ警護ノ職責ヲ完フセサリシモノナルヲ以テ相当処分ヲ加フヘク(三)徐ノ脱出後何等カノ活動ヲ試ミ為ニ累ヲ地方ノ治安ニ及ホシ又ハ國際商務ヲ妨害スルカ如キコトアラハ日本ニ於テ其責ニ任スヘン(四)徐ノ脱走ニ鑑ミ同種事件ノ再演ヲ予防セムカ為メ此際他八名ノ引渡ヲ要求ストノ趣旨ヲ申出タルニ付小幡公使ハ二十七日附公文ヲ以テ先ツ徐樹錚等ヲ収容シタルハ本人等ノ懇請ニ基

タ以テ支那政府ニ代テ同氏等ヲ監禁シタルモノニ非ス又監禁スヘキモノニモ非サルニ付其辺ニ付支那側ニ於テ誤解無カラムコトヲ希望ストノ趣旨ヲ覆答シ置キタリ

右往復文書ハ二十九日發表セリ

四六二 十一月二十九日

内田外務大臣ヨリ
在上海山崎總領事宛（電報）

長崎着ノ徐樹錚上陸ヲ拒絶サレ上海ニ向ケ出

発セル旨通報ノ件

第一七二号 極秘 至急

北京ヲ脱出セル徐樹錚ハ天津大連ヲ經テ二十三日長崎ニ來リシモ上陸ヲ拒絶シ漸ク二十八日春日丸ニ便乗上海ニ向ヘリ右貴官限リ極内密ノ御含迄

尚同人ハ上田兵衛ト偽名シ居ルヤノ趣ナリ

北京天津へ転電アレ

四六三 十一月二十九日

内田外務大臣宛
在中国小幡公使ヨリ

徐樹錚脱出ニ閑スル中国政府宛回答写送付ノ

条項(四)ニ閑シテハ是等諸氏ヲ收容スルニ至レル敵正ナル方針ハ徐一人ノ脱出ニ依リ何等変更スヘキモノニ非スシテ之カ為メ残留八氏ヲ引渡スヘキ理由更ニ無シ只今後右八氏ニシテ日本公使館ノ保護下ニ在ル限ハ依然外間トノ交通ヲ絶

チ一切政治ニ閑与セシメサルコト從来ノ如クナルモ右ハ未

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護二件 四六二 四六三

附属書 十一月二十七日附在中国小幡公使ヨリ顏外交總

五八五

長宛公文写

公第三九八号

(十二月四日接受)

大正九年十一月二十九日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

關係電報

往電第一二五八号

徐樹錚脱出ニ関スル支那政府宛回答ノ件

本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目

十一月二十七日附在外交部宛公文写

(附屬書)

十一月二十七日附在中国小幡公使ヨリ顔外交總長宛公文写
 以書翰致啓上候陳者徐樹錚氏當公使館護衛隊兵當脱出ニ関スル十一月十六日附本使照会ニ対シ同二十日附貴照会ヲ以テ御申越ノ趣閲悉右ハ早速帝国政府ニ及電報置候處今般右ニ対シ回訓ニ接到致候查スルニ右貴照会ノ次第ハ徐氏外八名ノ収容ニ關聯セル本使從來ノ通知及声明ニ対スル貴国政

ニ於テハ徐氏ノ脱出ヲ貴国政府ニ通告スヘキ当然ノ責務ヲ負フ次第ニ無之モ一ニ邦交ノ大局ニ顧ミ曩ニ其収容ヲ通告シタルト同一ノ精神ヲ以テ事実ヲ率直ニ通告シタル次第ニ有之而モ事ノ慎重ヲ期セムカ為脱出前後ノ情形ヲ確査シ然ル後遲滞ナク通告ノ手続ヲ執リタルモノニシテ其間何等他意アル次第ニ無之候
 事情以上ノ如クナルヲ以テ貴照会所載要求各項中(一)及(二)ニ關シテハ貴国政府ニ対シ何等責任ノ問題ヲ生スルコト無之又(三)ニ付テハ既ニ本使ニ於テ徐氏ノ退去ヲ阻止スヘキ権利義務共ニ無之以上其脱出後ハ万事当然其當館収容以前ノ事態ニ復帰シタルモノニシテ其後ノ事柄ニ關シ帝国政府ニ於テ当然其責ニ任スヘキ理ナク況ヤ今日斯クノ如キ仮想ノ場合ニ關シ何等回答ヲ為スヘキ限ニ無之候但シ鄰交ノ敦睦ニ顧ミ貴国政府ノ危惧力真ニ一片ノ杞憂ニ了ラムコトハ素ヨリ特ニ熱望シテ已マサル所ニ有之候又四ニ關シテハ元来國際ノ通義ト人道ト更ニ又幾多ノ先例トニ基キ此等諸氏ヲ收容スルニ至レル嚴正ナル方針ハ徐氏一人ノ脱出ニ依リ何等変更スヘキモノニ非サルコト勿論ニ有之即チ該殘留ノ八氏ニ於テ同シク其当初ノ請求ヲ撤回シ當館ノ保護ヲ離レムト

府ノ誤解ニ胚胎スル点不少是帝国政府ノ先以テ遺憾トスル所ニ有之候抑徐氏等ヲ當館護衛隊兵營ニ収容シタルハ最初同氏等ニ於テ任意当館ニ來リ其保護ヲ請ヒタルカ為本使ニ於テ國際ノ通義殊ニ支那ニ於ケル幾多ノ前例ニ鑑ミ之ヲ容レタルニ外ナラス同氏等ニシテ再ヒ任意ニ其当初ノ請求ヲ撤回シ當館ノ保護ヲ離レ自ラ貴國官憲逮捕ノ危険ヲ冒サムトスルニ於テハ本使ニ於テ強制的ニ之ヲ阻止スヘキ謂レ無之候尤同氏等ニシテ苟クモ當館内ニ在ル間ハ當館ノ庇護ヲ濫用シテ陰謀的企画ヲ廻ラスカ如キハ断シテ許与スヘカラサル所ナルカ故ニ右収容ト同時ニ同氏等ニ於テ一切政治ニ干与スヘカラサルコトヲ嚴重ニ戒告シ且収容中外部トノ交通ヲ絶タシメ爾來之ヲ励行シ來レル次第ニ有之候モ公使館トシテ右以上予メ監禁其他ノ方法ニ依リ之ヲ拘束スルノ措置ニ出テ難キハ論ヲ俟タサル所ニ有之況ヤ當館ニ於テハ徐氏ニ退去ノ意思アルヲ知ルヤ切実其反省ヲ求メタルニ拘ラス遂ニ兵官當局ノ目ヲ晦マン脱出ヲ遂行シタル以上公使館区域各門守護ノ貴國警察官憲ハ現実其職責ノ重キヲ加ヘタル次第ナルヘキモ本使乃至帝国政府ニ於テハ右脱出ニ關シ貴國政府ニ対シ其責ニ任スヘキ理更ニ無之候將又本采本使

大正九年十一月二十七日

日本帝国特命全權公使 小幡西吉

支那共和国署理外交總長 顏惠慶殿

四六四 十一月三十日 在上海山崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚偽名シテ上海着共同租界内ノ同志志十二
 五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四六四

落着キタル旨報告ノ件

第三八六号（極秘） （十一月三十日接受）

貴電第一七二号ニ閔シ徐樹錚ハ吉村金蔵ト偽名シ劉夢華ト偽名セル張宣ト共ニ順濟公司員岡田有民賀来敏雄ノ両名ニ伴ハレ春日丸ニテ十一月三十日朝着滬豊陽館ニ落着ケリ徐ノミハ直ニ共同租界内ノ同志ノ宅ニ隠レタリ右ニ付賀来ノ林出ニ内話スル所ニ依レバ徐ノ逃亡ハ東少将モ知ラザル所ニシテ上海ニ於テハ駐在武官ニ対シテモ徐ヲ秘シ居リ右ハ全ク鎌田隊長ノ計ヒニ出デタルモノナリ先づ張宣逃亡ヲ試ミ成功シタルヲ以テ徐之ニ次ギタルモノナリ日本ニ於テハ予期ニ反シテ上陸ヲ拒絶セラレ除ハカル待遇ヲ受クル筈ニ有ラザリシトテ頗ル不満ナリシモ如何トモ致シ難ク張宣ガ最初ヨリ上海ニ来ル積リナリシ故徐モ之ト行動ヲ共ニスルニ至レリ上海租界内ニテハ容易ニ秘密ヲ保チ難ク行ク行クハ督軍署ニ身ヲ寄スルコトナルヤモ知レズト述ベタル趣ナリ三十日在支公使ヘ転電セリ

四六五 十二月三日 在天津船津總領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報） 徐樹錚脱出ニ依リ直隸派恐慌ノ模様ナル旨曹
ガ最初ヨリ上海ニ来ル積リナリシ故徐モ之ト行動ヲ共ニスルニ至レリ上海租界内ニテハ容易ニ秘密ヲ保チ難ク行ク行クハ督軍署ニ身ヲ寄スルコトナルヤモ知レズト述ベタル趣ナリ三十日在支公使ヘ転電セリ

四六六 十二月四日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報） 徐樹錚ガ長崎上陸ヲ拒絶セラレタリトノ外務省當局ノ談話新聞電報ニ依リ伝ヘラレタル件

第三五九号 （十二月三日接受）
十二月一日曹汝霖ノ本官ニ語リタル所ニ依レハ今回徐樹錚逃走スルヤ直隸派ハ大イニ恐慌ヲ來タシタル模様アリ現ニ曹鋗ハ早速保定天津間ノ道路修繕ヲ命シタル由ナルカ右ハ万ノ場合自働車ノ往復ニ便スル為ナルヘシ又過日來省長始メ省議會長其ノ他直隸派ノ主要人物カ陸續保定ニ赴キタルハ曹鋗誕生祝ヲ好機トシ今後ノ対応策ニ付種々打合ノ為ナリシコト想像スルニ難カラストノコトナリ右御参考迄在支公使ヘ郵送セリ（奉天中繼十二月三日後二、二五）

四六六 十二月四日 在天津船津總領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報） 徐樹錚第一七二号ニ閔シ 上海宛貴電第一七二号ニ閔シ
徐ノ上陸拒絶ハ外務省當局ノ談話トシテ兩三日前東方國際各東京電報ニ依リ相前後シテ当地ニ伝ヘラレタルカ右ニ対シ未タ新聞紙等ニ余リ論議セラレタルヲ見サルモ當地外國

新聞記者間ニハ曩ニ當館ニ徐ノ逃ヶ込ミタルヲ當館トシテ

拒ミ得サリシト同様徐ノ行動カ日本ノ公安ヲ害スル虞アリ

ト云フ如キ次第ナラハ兎モ角然ラサル以上上陸ヲ公然拒ミ

タリト云フハ其ノ根拠ノ何レニアルカヲ解スルニ苦シムト

ノ説ヲ抱キ居ルモノ多キカ如シ（彼等ハ徐ノ日本滯在カ日

本政府ニ取り隨分迷惑ナルヘキ内情ハ充分了解シ居レリ從

テ日本官憲ニ於テ公然トナク之レカ上陸ヲ避クル如ク手ヲ

廻サルルコトアルトモ其レハ強チ無理トハ思ハレストナシ

居ルモノニシテ只政府當局カ公然地方官憲ヲシテ上陸ヲ拒

絶セシメタリト言明セルハ解シ難シト云フナリ）右ハ彼等

トシテハ一応尤ナル所感カト存セラレ斯ル報道ハ外国人側

一般ニ右ノ如キ印象ヲ与ヘ却テ之ヲ我方ノ小細工ト看做ス

ヘキ虞モ有之ヘキカト存スルニ付既ニ言明セラレタルモノ

ハ止ムヲ得ナルモ最早之レ以上ニ公然徐ノ上陸拒絶ノ措置

ヲ日本官憲カ取リタリトノ廉ヲ吹聴セラルコトハ見合サ

レ支那側ニ対シテハ徐日本上陸セサリシハ実ハ帝國當局ニ

於テ公然之ヲ避クル様手ヲ廻シタル結果ナルコトヲ内々自然ニ徹底セシムル様仕向クル方得策ナルヘキカト存ス心附キノ儘電報ス

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四六七 四六八

汝霖談話ノ件

第三五九号 （十二月三日接受）

十二月一日曹汝霖ノ本官ニ語リタル所ニ依レハ今回徐樹錚逃走スルヤ直隸派ハ大イニ恐慌ヲ來タシタル模様アリ現ニ曹鋗ハ早速保定天津間ノ道路修繕ヲ命シタル由ナルカ右ハ万ノ場合自働車ノ往復ニ便スル為ナルヘシ又過日來省長始メ省議會長其ノ他直隸派ノ主要人物カ陸續保定ニ赴キタルハ曹鋗誕生祝ヲ好機トシ今後ノ対応策ニ付種々打合ノ為ナリシコト想像スルニ難カラストノコトナリ右御参考迄在支公使ヘ郵送セリ（奉天中繼十二月三日後二、二五）

四六七 十二月六日 在天津船津總領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報） 徐樹錚上海ニヨリ直ニ上海ニ帰ラシムル為佐
藤少將急行スルニ付諸事手配方要請ノ件 極秘

支那亡命客徐樹錚ニ閔スル昨夜内務大臣發電訓ニ閔聯シ此ノ際本人ヲ直ニ最近便船ニテ上海ニ帰ラシムル方針ニテ陸軍少將佐藤安之助六日夜当地出發貴地ニ急行親敷本人ヲ説得シ善後措置ヲ講セシムルコトナレリ就テハ同少將ト連絡ノ上諸事極秘密ニ手配方御尽力アリタシ

四六八 十二月六日 在上海山崎總領事宛（電報） 徐樹錚上海ヨリ再ビ日本ニ向ケ出發ニ付其ノ動機、日本人側閔与ノ有無等探査報告方訓令
ノ件 極秘

第一七四号 極秘
貴電第三八六号ニ閔シ徐樹錚ハ再ヒ貴地ヲ離レ熱田丸ニ便乗來朝ノ途ニ就ケル趣ナリ同人ノ本邦内滯留ヲ許サザル方乗來朝ノ途ニ就ケル趣ナリ同人ノ本邦内滯留ヲ許サザル方

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四六九

五九〇

針ナルハ往電第一七二号竝ニ在支公使發貴官宛第二〇八号ニテ疾ク御承知ノ通ニテ今回來航ニ付テモ勿論上陸ヲ差止ムル方針ニテ夫々手配中ナルガ熱田丸便乗ニ就テハ郵船会社貴地支店ニ於テ承知ノ上ナルハ勿論其他本邦人側ニテ之ニ闕与セルモノアルハ必然ト認メラル専件ニ闕シ貴官ヨリ何等電報ニ接セザルハ頗ル遺憾ニ堪ヘズ本人再渡来ノ動機竝ニ邦人側ニ於テ關係ノ有無等嚴探ノ上結果電報アリタシ

北京へ転電アレ

四六九 十二月六日 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛（電報）

徐樹錚ノ再渡日ノ意図及我方ガ徐ノ神戸上陸

ヲ拒絶スルコトトセル事情内報ノ件

第七〇三号 極秘

上海宛往電第一七四号ニ闕シ本件最近ノ経過左ノ通貫官限リ極内密ノ御含迄十二月五日田中陸軍大臣ヨリ徐樹錚ハ六日熱田丸ニテ神戸ニ入港同地ヨリ上陸上京ノ上支那政局ノ現勢及之カ展開策ニ闕スル意見等親敷面陳シタキ旨徐ヨリ山県公爵ヘ電報ア

京絶対ニ不可能ナル事情アルニ於テハ神戸ニテ陸軍當局ニ會見シタシトノ希望ヲ有スルニ付右ノ次第頭取ヨリ參謀本部當局ノ内聞ニ達セラレタキ旨電報アリタリトノコトナルカ陸軍省側ハ絶対ニ徐ノ本邦渡来ニ付關係ナキ旨ヲ言明シ上海へ転電アリタシ

四七〇 十二月六日 在上海佐藤少佐（電報）
上原參謀總長宛（電報）

徐樹錚ノ脱出其他中国政情ニ闕スル上海ノ中

國要人ノ観測報告ノ件

上海電第二一五号 （十二月十日外務省写接受）

支那要人ヲ歴訪シ知リ得タル近情左ノ如シ

一、徐樹錚ノ逃亡ニ闕シ民党政要人ハ皆竊カニ歓迎シアリ唯反対ノ輿論ヲ煽リツツアルハ政学会ノモノノミ徐ノ上海ニ来ルコトニハ時期尚早ナリトテ南方要人ハ多クハ反対ナリ民党政要人ノ關係ハ其後益々良好トナレルモ段派中時局ニ對スル具体的の意見ヲ民党政要人伝へサル等未タ真実提携ノ時期ニ達セズ

二、新ニ成立セシ広東軍政府ノ経費トシテ差シ当リ使用シ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四七〇

リタル由通報ニ接シタルニ付不取敢内務當局ト打合セノ上内務大臣ヨリ兵庫県知事ニ對シ本人入港ノ上ハ上陸ヲ差止更ニ何分ノ指揮アル迄其ノ儘極秘密ニ船内ニ隠匿スル様篤ト説得スヘキ旨ヲ電訓シ一方郵船会社ニモ嚴諭ノ上同社神戸支店ニ對シ上記ノ趣旨ニ依リ必要ノ電信ヲ發セシメタルカ一方陸軍當局ニ對シ徐樹錚ニ於テハ寧ロ陸軍側ノ勧誘ニ依リ渡來シタルモノナリトノ信念ヲ有シ居リ從テ其上陸躉止ノ何ノ意タルヤフ訝カリツツアルヤニ見受ケラルルヲ以テ帝国政府ノ意図ヲ徹底セシムルニ付テハ此際陸軍側ヨリ相当ノ人物ヲ神戸ニ簡派シ上陸乃至本邦滯在ヲ認容シ難キ所以等ニ闕シ親敷徐ヲ納得セシムルノ外無カルヘシトノ意見ヲ説示シタル結果六日佐藤安之助少将ヲ神戸ニ急行セシムルコトトナレリ尚伝聞スル所ニ拠レハ先是在上海大倉組支店ヨリ同組頭取ニ對シ徐ハ政局ノ現勢ハ徐等ノ立場ヲ展開スルニ最有利ナリト認メ親シク日本ニ赴キ上原參謀總長以下當局ニ其ノ意見ヲ面陳シ且ハ其好意的援助ヲ懇請セムトノ念切ナルモノアリ竟ニ熱田丸ニテ出発ノコトニ決意シタルカ右再度ノ渡日ニ闕シ必要ノ場合ニハ上海滞留カ一身上頗ル危険ナルニ由ル目標榜スル手筈ナリ將又徐ハ若シ上得ルハ伍廷芳ノ關係セシ西南大學設立経費ノ剩余九十万元及広東センシ公司ニ預金シアル四十万元ノミナルカ外ニ西南諸省ノ閔税剩余金九ヶ月分合計六百万元ノ交付ヲ受ケ得ル見込ナリトテ北京ニ於テ外交團ニ運動中ナリ三、孫文對孫洪伊ノ感情融和シ孫洪伊ハ新軍政府交通總長ニ就任スル為メ近ク廣東ニ向フ可ク決定ス又約百名ノ旧議員モ旅費到着次第廣東ニ出発スヘク準備シアリ四、江蘇督軍齊燮元ト直隸派殊ニ吳佩孚トノ感情益々疎隔セリ過般斉ノ參謀長何恩溥カ斉ノ留任運動ノ為メ保定ニ至リタル際吳ハ何ニ對シ探査ノ結果李純ノ死ハ自殺ニアラス斉ノ暗殺ナル確証ヲ得タリ如斯不德漢ノ為メ運動スルハ何事ゾト面詰セル程ニテ江蘇ハ今ヤ全然直隸派ノ内外ニ立ツニ至レリ一方斉ト浙江督軍トノ關係ハ依然不良ニシテ斉ノ立場ハ益々困難トナリタル為メ斉ハ頻リニ張作霖ニ款ヲ通シ漸ク江蘇督軍ノ補任ヲ贏チ得タル次第ナリ而シテ中支那ニ於テ奉天派ト目スヘキ督軍ハ右斉ト安徽ノ張文生ノ二名ノミニシテ湖北王占元ハ奉天直隸兩派ニ連絡シアリ尚此ノ方面ニ於ケル段派ハ福建李厚基、浙江蘆督軍、上海何護軍使、安徽軍務總辦馬聯甲四名ノ團結ヲ策シツツアリ

五、斬雲鵬カ近頃奉天派ニ傾キタル為メ直隸派ハ斬内閣ヲ倒スヘク頻リニ暗中運動シツアリトノ説上海要人間ニ専ラナリ

ムトスル方針ニ閑シテハ此ノ際郵船会社及大倉組ニ対シ嚴重内論シ置カレタシ
北京へ転電アレ

四七一 十二月七日 兵庫県知事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚偽名シ上海へ向ヒタル旨報告ノ件

(十二月十八日接受)

徐樹錚ハ小野ヨンノスケト偽名シ本日午後四時半神戸出帆ノ郵船会社貨物船和歌ノ浦丸ニテ上海ニ向ヘリ

四七二 十二月八日 内田外務大臣ヨリ
在上海山崎總領事宛(電報)

徐樹錚上海ニ帰航ノ旨通報及帰着後ノ動靜監

視方訓令ノ件

第一七五号 極秘 至急

往電第一七四号及在支公使宛往電第七〇三号ニ閑シ佐藤少將ヨリ篤ト説得ノ結果徐ハ十二月七日午後五時神戸出帆和歌浦丸ニ便乗再ヒ上海ニ帰航セリ本人貴地上陸後ノ動靜ニ就テハ厳密御監視ノ上我方ニ於テ同人ノ神戸上陸ヲ差止メ

事情等探査ノ結果報告ノ件

(十二月九日接受)

第三九一号(極秘)
貴電第一七四号ニ閑シ十二月八日賀来敏雄ノ林出ニ語リタル所ニ拠レハ同人等ハ(岡田有民ハ數日前蚌埠ニ赴ケリトノコトナルモ事実不明)徐等ヲ上海迄見送リ来リシ迄ニテ上海着後ハ徐ハ自由行動ヲ執リ其ノ動靜ニ付テハ賀来ニ於テモ不明ナリト称シ居ルモ何事カ秘密ヲ藏セルモノラシク見受ケラレタリトノコトナリ又同日張宣(今尚当地豊陽館止宿中)ノ林出ニ語リタル所ニ依レハ同人カ天津ニテ徐樹錚ト落合ヒタル際南司令官ヲ通シテ上原參謀縫長ヨリ得タル電報ニ依レハ天津ハ北京ニ近ク從ツテ危険モ多カルヘケレバ日本ニ來ルヘシト慇懃シ尚待遇其ノ他ニ閑シテハ前年渡日セル時ト同一ニシテ只平服ニテ來訪サレ度キ旨ヲ附言シアリシヲ以テ始メテ渡日ノ決心ヲ為シ天津駐屯軍ノ將校及憲兵ノ援助ヲ得テ日本汽船ニ乗込ミ大連ヲ經テ長崎ニ向ヒタル次第ナルニ長崎ニテハ意外ニモ長崎県ノ外事課長ヨリ上陸ヲ禁セラレ便船ヲ待チ合ス為小浜ニ上陸シ滯在中上原參謀縫長ヨリ來電アリ右ニ依レハ各方面ト打合セノ結果此ノ際上海ニ赴ク方可ナリト思考ス若シ同地ニ於テ身ニ危

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四七四

四七三 十二月八日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚ノ日本向出發ヲ幫助セル大倉組店員解雇ノ旨報告ノ件

第一三〇〇号(極秘)
(十二月九日接受)

上海宛貴電第一七四号ニ閑シ徳川カ船津帰朝前面談ノ為天津ニ赴ケル際聞込ミタル所ニ依レハ徐カ天津発ノ際主トシテ之カ帮助ニ努メタル一人大倉店員ハ元来右ニ反対ナリシハヤミ支店長ノ取計ニテ諭旨解雇セラレタル趣又小野寺主計正ハ最近帰朝ノ途ニ着キタル由ナリ御舍ミ迄尚陸軍側ヨリ天津陸軍官憲ニ対シ前記上海宛貴電ニ照應スル如キ事態ヲ明ニスルノ措置ヲ執ラレ居ル次第ナリヤ本使含迄ニ御回示ヲ乞フ(八日)

四七四 十二月八日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚ガ再ビ日本ニ向ケ上海ヲ出發セル動機

險アル場合ニハ直チニ日本ニ引返シ来レトノ意味ナリシヲ以テ一先ツ上海ニ来レル次第ナリ然ルニ数日前北京陸軍部内ノ同志ヨリノ内報ニ依レハ陸軍部ハ徐ヲ殺ス為メ多数ノ刺客ヲ上海方面ニ派遣セリトノコトニテ此ノ地モ決シテ安全ニ非ス為ニ徐ハ常ニ居ヲ移シツツアリ茲三四日會見セズ其ノ動靜ニ付テハ詳細ニ承知セズト述ハ尙前回長崎ニ於テ上陸ヲ禁止セラレタルハ全ク日本參謀本部ト内務省トノ打合十分ナラサリシ為ニシテ次回日本ニ赴クモ成ルヘク田舎地方ニ留リ各方面ノ形勢ヲ觀望シテ時機ヲ待ツ積ナリト述べタル趣ニテ暗ニ徐ノ日本ニ赴ケルヲ意味セル如クニモ察セラルトノコトナリ尚張宣ハ北京脱出前後ノ事情及徐樹錚脱出ノ順序等ニ付詳細林出ニ物語リタル處終始我陸軍々ノ心尽シノ援助ニ依レルコトヲ感謝シツツアリシ模様ニテ從ツテ徐等カ再度日本ニ渡航スルトスルモ參謀總長其ノ他陸軍側ノ援助ヲ要スルコト勿論ニシテ陸軍當局ト打合ノ上秘密裏行動シツツアルモノノ如ク當館ニ於テ其ノ行動ヲ分ニ突止メ得サリシハ遺憾ナルモ參謀本部ニ付テ聞合サレニ方却テ的確ナル消息ヲ知ルニ便ナルヘント思考ス尚貴電ニ熱田丸ニテ渡来云々トアリシモ徐ハ常ニ各種ノ日本人名

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四七五 四七六

四七七

五四

ヲ用ヒソツアレハ何レカ果シテ徐ナルヤ実地其ノ顔ヲ見ザ

ル限り探知困難ナリ

在支公使ヘ転電セリ

四七五 十二月九日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

徐樹錚ノ來日拒絕ノ我方態度ニ付天津陸軍官

憲ニ充分示達シアラザル旨回報ノ件

第七〇九号 極秘

貴電第一三〇〇号末段ニ關シ陸軍側ヨリハ在上海總領事宛往電第一七二号ノ次第ヲ當時極秘トシテ坂西少將ニ内報シタル外特ニ在天津陸軍官憲ニ対シ何等示達セルコト無ク又其後ノ経過等ニ関シテハ一切何人ニモ通達セルコト無シトノコトナリ

四七六 十二月十二日

在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚十一日上海着共同租界内ニ潜匿セル件

第三九八号

(十二月十二日接受)

徐樹錚ハ十二月十一日午後三時半当地ニ上陸シ直チニ共同租界内ニ潜匿セリ十二日在支公使ニ転電セリ

徐ハ台灣ニ身ヲ寄セントノ希望ヲ有スルヤニ聞キ及ベリ確実ナラザルモ御参考迄在支公使ヘ転電セリ

四七八 十二月十五日 在中国小幡公使ヨリ
徐樹錚脱出ニ関スル我方回答ニ付シ外交總長
ヨリ再度前回ノ主張ヲ繰返シ来レルニ付之二
対スル回答振請訓ノ件

第一三三二八号(至急)

往電第一二五七号外交總長宛公文ニ対シ同總長ヨリ十二月十四日附公文ヲ以テ右往電本使照会ニハ尚誤解ノ点多キヲ遺憾トスト冒頭シ先ツ徐樹錚等九名ヲ仮ニ政治犯人トスルモ現時ノ國際通義及最近歐米ノ事例ニ徴シ之ヲ収容留置スルノ理ナク支那ノ實例トシテモ張勲ノ一事アルノミ是レトテモ外交部ノ曾テ認メサル所ナリ中日邦交素ト極メテ親睦然モ徐ハ決シテ純粹ノ政治犯人ニアラス本件ニ依リ両国交渉ヲ惹成スルヲ欲セス故ニ八月二十日附照会所載ノ趣申送リタル次第ナリ蓋シ玩法ノ徒勢ヒ必ズ在北京公使館ヲ恃ミテ遁竄ノ所ト為スコトトナルヘク支那ノ内治北京ノ治安ニ対シ莫大ノ危險トナラン貴公使ヘ固ヨリ公理法律ヲ重セラ

ルル以上斯ル事トナルヲ願ハサル義ト存ス且駐在國ニ公使タル以上其ノ措施ニ依リ駐在國ノ内政ニ困難ヲ生セシムヘキニアラサルハ是レ國際ノ通義ナリ明達貴公使ノ如キ深ク此辺ヲ知悉シ居ラルコトト察セラルトノ趣旨ヲ述へ次ニ往電第一二四三号外交總長來照全文ト同一ノ事ヲ縷述シタル上『就テハ貴公使ニ於テ平心ヲ以テ御体察相成十一月二十日附公文所載ノ辦法四ヶ条ニ付シ円満答覆ヲ与ヘラレンコトヲ切望ス』トノ趣旨申越タリ

右ノ内本件収容カ國際通義ニ基ケル次第ニ付テハ是迄詳細説明ヲ与ヘタルコトナキモ他ノ諸点ハ何レモ前來照会ノ線返シニ過キサルニ付右諸点ニ対シテハ最早ヤ一々詳細ノ反駁ヲ加フルヲ避ケ唯本件カ國際ノ通義ニ反セサル所以ヲ簡明ニ説述シタル上他ノ各節ニ関スル帝國政府ノ所見ハ前來本使公文ニ明記シアルカ故ニ再ヒ茲ニ贅セストノ趣旨帝国政府ノ訓令トシテ回答シ然ルヘキヤ外交總長來翰写十二月十五日郵送スルニ付委細右ニテ御了悉ノ上右ニ関スル貴見何分ノ義至急回電ヲ請フ尚右ニテ然ルヘントノ御意見ナルニ於テハ前記國際ノ通義ニ関スル点ハ如何ナル風ニ又如何ナル程度ニ説明スルコトトシ然ルヘキヤ併セテ御示シヲ請

四七七 十二月十三日 在上海山崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚ハ神戸ニテ佐藤少将ト會見意見ヲ交換

シ満足シ居ル旨岡田有民林出ニ談話ノ件

第三九九号

(十二月十四日接受)

西田ト偽名シ徐樹錚ヲ伴ヒ帰滬セル岡田有民ノ林出ニ語リ

タル所ニ拠レバ徐ハ目下当地共同租界内ノ友人ノ宅ニ潛ミ

居リ今後ノ行動ニ付テハ熟考中ナリ曩ニ長崎ニテ上陸ヲ拒

絶セラレタル際徐ハ日本ニ避難セルニ非ズ今日迄日本側ノ

援助ヲ受ケ特別ニ密接ナル關係ヲ維持シ来レルヲ以テ此際

自己ノ意見ヲ日本當局ニ陳述シタル上日本當局者ノ意見ヲ

充分承知センタメ東京ニ行カントセル迄ニテ用向渡次第上

海又ハ他地方ニ行ク心算ナレバ此ノ目的ヲ達スル迄ハ幾回

ニテモ日本ニ引返スベシトテ一先ヅ上海ニ帰リ更ニ渡日ヲ

実行セル次第ニテ今回神戸ニ於テ佐藤少将ニ會見シ充分意

見ノ交換ヲナシ徐モ満足ニテ上海ニ帰リタリ目下王蔭泰

(前國務院諮詢官ニシテ同人ノ妻ハ独逸人ナリ)日本ニ滞

在中ニシテ數日中ニハ上海ニ來ルベク同人着ノ上徐ノ身ノ

振方ニ付具体的の相談ヲ進ムル心算ナリト陳ベタル趣ナリ尚

フ

四七九 十二月十五日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

徐樹錚脱出問題ニ関シ外交總長ヨリ更ニ來照

ノ件

附屬書 十二月十四日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛公文
写及同訳文

機密第四八八号

大正九年十二月十五日

(十二月二十日接受)

在支那

特命全權公使 小幡酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

關係電報

往電第一三三八号

本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目

甲号 十二月十四日附外交總長公文写

乙号 同訳文

本信写送付先

同意理由面達

貴公使惟以中日邦交素極親睦且以徐樹錚等並非純粹政事罪犯實犯有各項私罪本部雅不欲因公使館容留政治犯問題致成

中日兩國交涉是以於八月二十日本部去文內同時声明請

貴公使転飭毋得放任或指引各該犯逃匿他處一俟各該主管機關將徐氏等各項私罪犯罪証拠送到再行照請引渡蓋徐樹錚等

犯有本国法令上軍事刑事各罪若竟藉

貴館容留得以逍遙法外則一般執法之徒勢必恃駐京使館為逋逃藪于本國內治北京治安均有莫大危險在

貴公使素重公理法律想亦不願有此且駐使於所駐國不宜因其措施致所駐國之內政發生困難此為國際通義明達如

貴公使諒所深悉今徐樹錚等以本国人民在本国領土內觸犯本國普通刑法且逃匿于本國中央政府之北京地方而乃以

貴館之容留使本國法令竟無所施本國政府誠不能不引為遺憾

貴公使有所聲明在本問題向未解決以前

貴公使自心転飭嚴加防範不能任該犯等有私自逃逸情事況徐氏於逃逸之前業向

貴公使申請撤回保護是徐氏意存逃逸已屬顯而易見

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四七九

上海 天津 洛南 奉天 吉林 広東 漢口 南京
(附屬書)
甲号 十二月十四日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛公文写

照會使字第六五号

外交總長頒

照會事接准十一月二十七日

貴公使照會对于本部十一月二十日去文仍多誤會之處深為可惜茲應再向

貴公使声明者查公使館取容所駐國之政治犯於國際法原則上本無確定之根柢近百年來雖偶有此種事例發現不但為大

數公法家所指駁即欧美各大國亦公認此類主張不適用於今日而不能任其見諸事實其例甚多勿庸贅述故該徐樹錚等縱使如

來照所稱應認為政治犯然按上述現時國際通義及近今歐美各大國之往事亦並無可予以容留之理且駐華各國公使館容留本國政治罪犯除未經本部承認之張勲一案外並無其他事例是以

對於貴公使前次來照所謂顧念國際通義及中國以往各事例將徐樹錚等容留一節實為根本上之誤點業將本國政府不能同意之處于八月二十日本部去文內聲明且於十一月十七日將不能如

貴公使前既向本部声明斷絕其與外界之交通際此徐樹錚有逃逸表示之時並不及時將徐氏撤回保護情節知照本部而貴館護衛隊竟任徐氏逸去

來照稱對於本國政府不生何等責任問題本部殊難諒解再徐氏既為本國政府注重之首要犯今乃利用

貴館許于保護之機會得以逸去則其將來在國內或國外貴國勢力範圍之内有所活動因而發生不良影響及累及地方治安或妨及國際商務之類均由於

貴館予以容留及未飭加嚴重監視任其逸去之結果

貴國政府自應負其責任至曾毓雋等八人與徐氏同屬重要人犯所有

貴國不應予以保護之理由既如上述若仍容留

貴公使查照即希平心体察對於本部十一月二十日去文內開辦

法四条予以円滿答復實為至盼須至照會者

訊辦相應再行奉達

貴公使查照即希平心体察對於本部十一月二十日去文內開辦

法四条予以円滿答復實為至盼須至照會者

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國九年十二月十四日

乙号 同訳文

以書翰致啓上候陳者十一月二十七日附貴公使ノ公文ニ接シタル處本部ノ十一月二十日附公文ニ対シ仍未誤会セラレタル處多キハ甚タ惜ムヘキ儀ニ有之依テ茲ニ更ニ声明可致候查スルニ公使館カ其駐在國ノ政治犯ヲ收容スルコトハ國際法原則上元々確定シタル根拠無之最近百数十年以來偶々此種ノ事例發生スルコトアリト雖モ單ニ大多数公法家ノ指駁スル所ナルノミナラス歐米各大國ノ如キモ亦此種ノ主張ヲ以テ今日ニ適用セサルモノナルコトヲ公認シ居リ而シテ之ヲ事実ニ実現セシメサルモノニ有之其例甚タ多ク贅述ノ要無之候從ツテ該徐樹錚等ニシテヨシ御申越ノ如ク政治犯ト認ムヘキモノナリトスルモ然モ前述現時ニ於ケル國際通義及最近歐米各大國ノ事例ニ按スレハ毫モ此等ノ者ヲ容留スルノ理ナキモノニ有之且ツ支那駐在各國公使館ニ於テ本國(支那)政治犯人ヲ容留シタルハ本部カ未タ承認シタルコトナキ張勲ノ一事件ヲ除キテハ他ニ其實例ナク之ニ依ルモ貴公使前回ノ公文中ニ云ハレタル國際ノ通義及支那ニ於ケル從来ノ各事例ヲ顧念シ徐樹錚等ヲ容留シタリトノコトハ實ニ根本上誤マレル点ニ有之已ニ支那政府ニ於テ同意スル能

ノ如キ深ク此等ヲ悉シ居ラルコトト被察候今ヤ徐樹錚等ハ本国人民トシテ本国領土内ニ於テ本国ノ普通刑法ヲ犯シ且ツ本国中央政府ノ北京地方ニ逃匿シ居レルモノナルニモ拘ハラス貴館ニ於テ容留セラルカ為メ本国法令ヲシテ竟ニ施ス所ナカラシムルハ本国政府ニ於テ誠ニ遺憾トナササル能ハサルモノニ有之要スルニ徐樹錚等ニ閔シテハ本国政府ヨリ既ニ貴公使ニ声明スル所アリタル以上本問題解決セサル以前ニ於テハ貴公使ニ於テ自ラ応サニ嚴重防範方ヲ転飭セラレ該犯人等カ私カニ逃逸スルカ如キコトアルニ任カス能ハサルヘキ儀ニ有之況ニ徐氏ハ其逃逸ノ前ニ於テ已ニ貴公使ニ向ツテ保護ノ撤回方ヲ申請シタルニ依リテ見ルモ徐氏ニ於テ逃逸ノ意ヲ存シ居タルハ已ニ顕ニシテ見易キコトニ屬シ候然ルニ貴公使カ前キニ已ニ本部ニ対シ其外界トノ交通ヲ断絶セシメツツアリト声明セラレタルニ拘ハラス右徐ノ逃逸ノ表示アリタル場合ニ際シ時ニ及ンテ徐氏ニ對スル保護撤回ノ次第ヲ本部ニ知照セラレス而シテ貴館保護隊モ竟ニ徐氏ノ逸去ニ任セ而モ貴公文中本国政府ニ対シ何等責任問題ヲ生スル儀ニアラスト称シ居ラルハ本部ノ殊ニ諒解シ難キ所ニ有之候尚徐氏ハ已ニ本国政府カ重視セ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四七九

小幡公使宛

大正九年十二月十四日

顏外交總長

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四七九

ハザル次第ニツキ八月二十日附本部公文中ニ声明シアリ尚十一月十七日ニ於テモ同意シ難キ理由ヲ貴公使ニ面達致置タル次第ニ有之候惟フニ中日邦交ハ素極メテ親睦ニシテ而モ徐樹錚等ハ決シテ純粹ナル政治犯人ニアラス實際各項ノ私罪ヲ犯シ居リ而シテ本部トシテ実ハ公使館カ政治犯ヲ容留シタル問題ニ依リ中日兩国ノ交渉ヲ惹起スルヲ欲セサルモノニ有之故ニ八月二十日附本部公文中同時ニ貴公使ニ於テ各該犯人カ他処ニ逃匿スルニ放任シ若クハ之ヲ指引スルコトナカラシムル様転飭アリタク各該主管機關ヨリ徐氏等ノ各項私罪ノ犯罪証拠ヲ送り來リタル上更ニ引渡方ヲ請求スヘキ旨声明シ置キタル次第ニ有之候蓋シ徐樹錚等ノ犯人ハ本国法令上軍事刑事ノ各罪アルモノナルニ若シ貴館ノ容留ヲ藉リテ法ノ外ニ逍遙スルヲ得ルコトトナルニ於テハ一般玩法ノ徒ハ勢必ス駐京公使館ヲ恃ミテ逋逃ノ藪ト為スニ至ルヘクスケテハ本国内治北京ノ治安ニ対シ莫大ノ危険有之貴公使ハ素ヨリ公理法律ヲ重ンセラルル以上想フニ亦此ノ如キコトトナルヲ願ハレサル儀ト存候且ツ駐在國ニ公使タル以上宜シク其措施ニ因リテ駐在國ノ内政ニ困難ヲ發生セシムヘキニアラサルハ是レ國際ノ通義ニ有之明達貴公使

四八〇 十二月二十一日 在中国小幡公使宛（電報）

内田外務大臣ヨリ
徐樹錚脱出ニ関シ外交總長ノ再度ノ来照ニ對

スル回答振回訓ノ件

第七三三号 至急

貴電第一三三八号及機密第四八八号貴信ニ關シ支那政府來照ハ要スルニ前言ヲ反覆スルニ過キサルニ付右ニ對シテハ已ニ前來貴官ノ公文ニ委曲縷述セル通ニ付改メテ再説ノ要無ク支那政府ニ於テ虚心冷静ニ貴官迭次説明ヲ熟読セムコトヲ希望スル旨ヲ答フニ止メ度將又公使館ノ庇護權ニ關シテハ往電第四四七号及奉天宛往電第一三五号中庇護權ニ関スル部分ヲ適宜取捨抜萃セラレ要スルニ公使館ニ於テ政治上ノ亡命者ニ對スル庇護權ノ行使ハ從來支那ニ於テ認メラレタル所ニシテ其ノ亡命ノ不得已ニ至レル政治的動機又ハ政治上ノ目的如何ニ論無ク而シテ帝国公使館ニ於テ保護ヲ加ヘタル諸氏ノ避難力現ニ政治上ノ理由ニ基クコト明確ナル以上普通刑事上ノ犯罪ノ存否ニ論無ク之カ引渡等ノ要求ニ応スルコト能ハサル次第ナル旨附言シ置カレタク回答文決定ノ上ハ右全文及発送日取電報アリタシ

十二月二十一日 在上海山崎總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）
徐樹錚其後ノ動靜ニ關シ報告ノ件

第四〇五号

(十二月二十一日接受)

徐樹錚ト同行シ來レル岡田ハ十二月二十一日當地發北京ニ向ヘリ同人ノ林出ニ語リタル所ニ依レハ徐ハ目下上海共同租界内ノ同志ノ宅ニ潜ミ居リ本人ハ至ツテ平氣ナルモ周囲ノ者ハ非常ニ彼ノ身ノ上ヲ氣遣ヒ殊ニ北京方面ヨリ刺客入込メリトノ說アルヲ以テ一切外部ノ人ト接觸セシメス常ニ居所ヲ轉々セシメツツアリ佐藤少将ニ會見ノ際同少将ヨリ一時仏蘭西辺ニ赴キテハ如何若シ赴クトセハ日本ハ出来ル丈援助ヲ与ヘ旅行券ノ如キモ日本人トシテ發給スルノ便宜ヲ供与スルモ可ナリトノコトナリシモ徐ハ今尚海外ニ赴ク氣無キモ万一上海ニ居ルコト叶ハス他ニ適當ナル場所ナキニ於テハ或ハ日本ノ援助ニ依リ仏蘭西ニ行クヤモ知レスト云ヒ居ル旨述ヘタル趣ナリ

在支公使ヘ転電セリ

四八二 十二月二十二日 在本邦中國公使館ヨリ
日本外務省宛

「十二月二十二日王鴻年持參（埴原次官）」

四八三 十二月二十四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛
機密第五〇〇号

十二月二十四日附在中国小幡公使ヨリ顏外交總長宛回答寫付

ノ件

徐樹錚脱出問題ニ關スル外交部宛回答寫付

長宛回答寫

(大正十年一月六日接受)

大正九年十二月二十四日

在支那

特命全權公使 小幡西吉（印）

外務大臣伯爵 内田康哉殿

關係電報

往電第一三五七号

徐樹錚問題ニ關シ外交部ニ答覆ノ件
本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目

十二月二十四日附顏外交總長宛公文写

備考

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四八四

六〇一

十二月二十六日公表二十七日ノ新聞紙ニ掲載セシム
ル答

本信写送付先

上海、天津、奉天、濟南、吉林、廣東、漢口、南京、
小幡公使十二月二十三日發外務大臣宛第一三五七號電報省
略セリ該電ハ次掲附屬書ノ回答ト同文ノ回答案ナリ

(附属書)

十二月二十四日附額外交總長宛回答写

第二五三号

以書翰致啓上候陳者徐樹錚氏當公使館護衛隊脫出問題ニ閑
聯シ本月十四日附貴照会ヲ以テ再応御申越ノ趣閱悉然ルニ
右ハ要スルニ本件ニ閑スル十一月二十日貴照会ノ趣旨ヲ繰
返サレタルニ過キス之ニ對シテハ既ニ前來本使公文中委曲
縷述致候通ニ付更メテ再説ノ要ナク貴國政府ニ於テ虛心冷
靜ニ本使屢次ノ説明ヲ熟閱アラムコトヲ希望スルノ外無之
只公使館ニ於テ政治上ノ理由ニ依リ一身ノ保護ヲ請求シタ
ル者ヲ收容庇護スルノ權ハ西班牙其他南米等ニ於テ之ヲ認
メタル例枚挙ニ違アラス近來歐米諸国ニ其事ナキハ偶々此
等諸國ノ政情斯クノ如キ庇護ヲ人道上必要トセサルカ為ニ

十二月二十四日附額外交總長宛回答写

第二五三号

以書翰致啓上候陳者徐樹錚氏當公使館護衛隊脱出問題ニ閑
聯シ本月十四日附貴照会ヲ以テ再応御申越ノ趣閱悉然ルニ
右ハ要スルニ本件ニ閑スル十一月二十日貴照会ノ趣旨ヲ繰
返サレタルニ過キス之ニ對シテハ既ニ前來本使公文中委曲
縷述致候通ニ付更メテ再説ノ要ナク貴國政府ニ於テ虛心冷
靜ニ本使屢次ノ説明ヲ熟閱アラムコトヲ希望スルノ外無之
只公使館ニ於テ政治上ノ理由ニ依リ一身ノ保護ヲ請求シタ
ル者ヲ收容庇護スルノ權ハ西班牙其他南米等ニ於テ之ヲ認
メタル例枚挙ニ違アラス近來歐米諸国ニ其事ナキハ偶々此
等諸國ノ政情斯クノ如キ庇護ヲ人道上必要トセサルカ為ニ

大正九年十二月二十四日

日本帝国特命全權公使 小幡西吉
支那共和國署理外交總長 領惠慶殿

四八四 十二月二十五日 在本邦中國公使館宛

徐樹錚脱出問題ニ閑スル再応ノ申越ニ對シ回

答ノ件

十二月二十二日在本邦支那公使館參事官王鴻年氏ヨリ埴原

前叙述ノ要旨ハ一方駐支日本公使ヨリ支那政府ニ照覆セシ

メタルモ尚ホ胡公使閣下ヨリモ之ヲ本国政府ニ転致シ以テ
同政府當局ノ切実ナル考慮ヲ邀ヘラレムコトヲ希望ス

大正九年十二月二十五日

四八五 十二月二十六日 在本邦中國公使館宛
内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使
在シンガポール
山崎總領事代理 各宛(電報)

徐樹錚脱出問題ニ閑スル日中間外交折衝ニ付

通報ノ件

合第三二五号

「情報」——往電合第二九六号ニ閑シ十一月二十七日付小
幡公使公文ニ對シ更ニ十二月十四日付公文ヲ以テ外交總長
ヨリ我方回答ニハ尚誤解ノ点多キヲ遺憾トスル旨ヲ前提ト
シ先ツ徐樹錚等九名ヲ假ニ政治犯人トスルモ現時ノ國際通
義及最近歐米ノ事例ニ徴シ之ヲ收容留置スルノ理無ク支那
ノ実例トシテモ張勦ノ一事アルノミナルカ是レトテモ支那
政府ノ會テ認メサル所ナリ中日邦交素ト極メテ親睦併カモ
徐ハ決シテ純粹ノ政治犯人ニアラス本件ニ依リ両國交渉ヲ
論セス之力引渡等ノ要求ニ応スルコト能ハサル次第ナリ
以テ日本公使館ニ於テ保護ヲ加ヘタル諸氏ノ避難力現ニ政
治上ノ理由ニ基クコト明確ナル以上普通刑事犯罪ノ存否ヲ
論セス之力引渡等ノ要求ニ応スルコト能ハサル次第ナリ

五 日本公使館ニ於テ徐樹錚等庇護一件 四八五

六〇四

惹成スルヲ欲セス故ニ曩ニ申進スル所アリタル次第ナリ蓋シ玩法ノ徒勢ヒ必ス在北京公使館ヲ恃ミテ遁竄ノ所ト為スコトトナルヘク支那ノ内治北京ノ治安ニ対シ莫大ノ危険トナラン貴公使固ヨリ公理法律ヲ重セラル以上斯ノ如キ事態ノ發生ヲ希ハサルヘン且駐在国ニ公使タル以上其ノ措施ニ依リ駐在国ノ内政ニ困難ヲ生セシムヘキニアラサルハ是レ國際ノ通義ナリ明達貴公使ノ如キ深ク此ノ辺ヲ知悉シ居ラルコトト察セラル就テハ貴公使ニ於テ平心ヲ以テ体察セラレ十一月二十日付公文所載ノ辦法四ヶ条ニ対シ円満答覆ヲ与ヘラレンコトヲ切望ストノ趣旨ヲ知照シ来レルヲ以テ小幡公使ハ十二月二十四日付公文ヲ以テ上記支那側來照ハ要スルニ前言ヲ反覆スルニ過キス而シテ右ニ対シテハ已ニ前來我方公文ニ委曲縷述セル通ナルニ付改メテ再説ノ要ナク支那政府ニ於テ虚心冷静ニ我方迭次ノ説明ヲ熟読セム

コトヲ希望スルノ外無シ只公使館ニ於テ政治上ノ理由ニ依リ一身ノ保護ヲ請求シタルモノヲ收容庇護スルノ件ハ西班牙其ノ他南米等ニ於テ之ヲ認メタル例枚挙ニ違アラス近來歐米諸国ニ其ノ事ナキハ偶々之等諸國ノ政情斯ノ如キ庇護ヲ人道上必要トセサルカ為ニ外ナラス少クトモ支那ニアリテハ民国六年康有為米國公使館ニ黎元洪日本公使館ニ又張勲和蘭公使館ニ避難庇護ヲ受ケタルカ如キ其ノ頗著ナル実例ニシテ其ノ公使館ノ庇護ヲ請求スルノ止ムヲ得サルニ至レル政治的動機原因若ハ其ノ避難者ノ政治上ノ立場等ノ如何ニ論ナシ事情前頭ノ通ナルヲ以テ日本公使館ニ於テ保護ヲ加ヘタル諸氏ノ避難カ現ニ政治上ノ理由ニ基クコト明確ナル以上普通刑事犯罪ノ存否ヲ論セス之カ引渡シ等ノ要求ニ応スルコト能ハサル次第ナル旨覆答シ置キタリ

事項六 中國ヘノ兵器供給ニ關スル件

四八六 二月六日 在南京岩村領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

江蘇督軍ヨリ多賀大佐ニ日本ヨリ契約兵器交付方依嘱アリタル件ニ付請訓ノ件

第五号

二月五日李督軍ハ特ニ多賀大佐ヲ招致シ日本ノ武器供給停止ニ付テハ屢弁解ヲ聽キタルモ尚积然タラストテ江蘇省民ニ対シ自己ノ困難ナル立場ニ在ルヲ憇ヘ現在ニ於テ兵器ノ供給ハ南北妥協ニ格別ノ影響ナキコトヲ悟リ近來伊國力秘密ニ各省へ兵器ヲ売込ツツアルハ事実ナルヲ以テ日本ハ自分ノ苦衷ヲ諒トシテ本契約カ特別ノ事情アル理由ノ下ニ此際該兵器ヲ交付スル様上申セラレタク右受取ニ付支那南北双方ニハ異議ヲ申立テサル様自分ヨリ相当ノ方法ヲ講スヘキモ万一日本ニ於テ公然ノ引渡ヲ躊躇スルニ於テハ表面日

如キ地点ニ於テ秘密ノ裡ニ授受スルモ差支ナシトテ懇々依嘱セラレタルニ付領事トモ協議シ其筋ニ上申スヘシトテ詳

四八七 二月七日 在上海佐藤少佐ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

江蘇督軍日本兵器供給ノ懇請アリタル旨多賀
大佐ヨリ陸軍大臣ニ報告シ其指示ヲ求メタル

本官憲ハ之ニ干与セサルコトトシ江蘇省沿岸例ヘハ海州ノ如キ地点ニ於テ秘密ノ裡ニ授受スルモ差支ナシトテ懇々依嘱セラレタルニ付領事トモ協議シ其筋ニ上申スヘシトテ詳

六 中国ヘノ兵器供給ニ關スル件 四八六 四八七

上海電第十一号

(二月十日參謀本部ヨリ外務省接受)

六〇五